遊亀公園附属動物園整備工事
（北―仮称ビジターセンター）

設計図

山梨建築設計監理事業協同組合

【図面リスト】

図面番号	図面名	SCALE
Ａ－　１	図面リスト	――
Ａ－　２	特記仕様書1	――
Ａ－　３	特記仕様書2	――
Ａ－　４	特記仕様書3	――
Ａ－　５	特記仕様書4	――
Ａ－　６	建物求積図・床面積表	A1-1:100 A3-1:200
Ａ－　７	外部仕上表	――
Ａ－　８	内部仕上表１	――
Ａ－　９	内部仕上表２	――
Ａ－１０	平面図	A1-1:100 A3-1:200
Ａ－１１	屋根伏図	A1-1:100 A3-1:200
Ａ－１２	立面図	A1-1:100 A3-1:200
Ａ－１３	断面図	A1-1:100 A3-1:200
Ａ－１４	矩計図	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－１５	天井伏図	A1-1:100 A3-1:200
Ａ－１６	１階平面詳細図	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－１７	２階平面詳細図	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－１８	展開図１	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－１９	展開図２	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－２０	展開図３	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－２１	展開図４	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－２２	展開図５	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－２３	階段詳細図	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－２４	建具キープラン	A1-1:100 A3-1:200
Ａ－２５	建具表1	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－２６	建具表2	A1-1:50 A3-1:100
Ａ－２７	家具詳細図	A1-1:20 A3-1:40
Ａ－２８	詳細図１	A1-1:5・20 A3-1:10・40
Ａ－２９	詳細図２	A1-1:5 A3-1:10
Ａ－３０	法計算表	――

図面番号	図面名	SCALE
Ｓ－　１	構造設計特記仕様 その１	――
Ｓ－　２	構造設計特記仕様 その２	――
Ｓ－　３	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	――
Ｓ－　４	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	――
Ｓ－　５	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)	――
Ｓ－　６	鉄骨構造筋標準図(1)	――
Ｓ－　７	鉄骨構造筋標準図(2)	――
Ｓ－　８	ハイベースNEO工法設計施工標準(参考)	――
Ｓ－　９	杭伏図・基礎1階伏図 鉄骨リスト	A1-1:100 A3-1:200
Ｓ－１０	2階梁伏図・R階梁(2階小屋)伏図　鉄骨リスト	A1-1:100 A3-1:200
Ｓ－１１	軸組図	A1-1:100 A3-1:200
Ｓ－１２	基礎リスト	A1-1:40 A3-1:80
Ｓ－１３	地中梁リスト　土間リスト　雑リスト	A1-1:30・40 A3-1:60・80
Ｓ－１４	柱脚リスト	A1-1:20 A3-1:40
Ｓ－１５	梁接合部リスト	A1-1:40 A3-1:80
Ｓ－１６	合成スラブ設計・施工標準仕様書(参考)	――
Ｓ－１７	鉄骨詳細図	A1-1:30 A3-1:60

特記事項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮尺
			設計年月日 2023.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）

図面名称　図面リスト

No. A-01

遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）
設計図

令和　　年　　月（全　　枚）

仕 様 書

Ⅰ　工事概要

敷地所在地	山梨県甲府市太田町10番1号
都市計画区域	都市計画内
防火指定	22条地域・準防火地域
その他の地域地区	下水道供用開始区域
道路	
敷地面積	
用途地域	第二種住居地域
建ぺい率	12%
容積率	200%
建物の主要用途	事務所
工事の種類	新築
棟数	1棟
構造・階数	鉄骨造・2階建て
建築面積	379.97㎡
延べ床面積	496.48㎡
最高の高さ	7.80m
最高の軒高さ	7.20m
消防法上の有窓階・無窓階	有窓階
下水の放流形式	下水道放流

工事種目　図示の内容全て

Ⅱ　工事範囲
※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。

Ⅲ　建築工事仕様
1. 共通仕様
(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和 4年版）」（以下、「標仕」という。）による。

2. 特記仕様
(1) 項目は、番号に　　印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、　　印の付いたものを適用する。
印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 特記事項に記載の（　　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4) 特記事項に記載の（別　　）は（5.3.7）による別図「各部配筋」の当該項目を示す。
(5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（ ）内は製品名を示す。
(6) ♻ 印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」の特定調達品目を示す。

章	項　目	特　記　事　項
① 一般事項		○ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合には、監督職員に報告の上、指示に従うこと。 ○ 請負業者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ・ 工事着手前及び完成時に、以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 調査範囲　※　図示 ○ 現場への搬入路は、破損のないよう留意し、もし破損した場合は速やかに復旧すること。
② 適用基準等		○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課監修　最新版） ○工事写真の撮り方（改訂第３版）建築編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
③ 工事実績情報(CORINS)の登録		※ 適用する（請負積算額が500万円以上の場合）　(1.1.4) 受注者は、工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）入力システム（(財)日本建設情報総合センター）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「登録のための確認お願い」を作成し監督員の確認（機関印または監督員の記名・押印及び電子メールアドレスを記入）を受けたうえ、(財)日本建設情報総合センターに登録申請するとともに、「登録内容確認書」の写しを監督員に提出しなければならない。提出の期限は、以下のとおりとする。 ①受注時登録データの提出期限は、契約締結後１０日以内（土・日曜日及び祝日等を除く）とする。 ②完成時登録データの提出期限は、業務完成後１０日以内とする。 ③業務履行中に、受注時登録データの内容のうち、「工期」または「現場代理人」または「監理主任技術者」に変更があった場合は、変更があった日から１０日以内（土・日曜日及び祝日等を除く）に変更データを登録申請しなければならない。工事請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。 ただし、工事請負代金2,500万円を超えて変更する場合には変更時登録を行うものとする。 ④訂正時は、適宜登録機関に登録申請をしなければならない。
④ 施工計画書		○工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し、監督職員に提出する。　(1.2.2) ○施工計画の内容を変更する必要が生じた場合は、監督職員に報告するとともに、施工に支障がないよう適切な措置を講ずる。
⑤ 電気保安技術者		工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。　(1.3.3) ○ 要　　・ 不要
⑥ 施工条件		工事着手については監督職員と協議し着手する。　(1.3.5) 令和　5年 6月　7　8　9　10　11　12　1　2　3　4　5　6　7月

⑦ 発生材の処理等　※現場説明書による　・構外搬出適切処理　(1.3.11)

⑧ 建築材料等
本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳ及びＪＡＳマークの表示のない材料及びその製造者等は、次の（１）～（６）の事項を満たすものとする。
（1）品質及び性能に関する試験データが整備されていること
（2）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
（3）安定的な供給が可能であること
（4）法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること
（5）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
（6）販売、保守等の営業体制が整えられていること
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会　他）が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。
また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

⑨ 化学物質を放散する建築材料等
建築材料の使用制限
建築材料等について、規制の対象となる範囲は下地、仕上げ材共にＦ☆☆☆☆または規制対象外の建材を用いることとし、該当する材料が無い場合は監督職員の承諾を受けＦ☆☆☆のものを採用するを含む）を使用すること。

⑪ 特別な材料の工法　様仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

⑪ 技能士　(1.5.2)

適用工事種別	技能検定の職種
鉄筋工事	○鉄筋施工（鉄筋組立て作業）
コンクリート工事	○型枠施工
鉄骨工事	○とび
ブロック・ALCパネル工事	・ブロック建築　・ALCパネル施工
防水工事	・アスファルト防水工事作業　○合成ゴム系シート防水工事作業 ○塗膜防水工事作業　○シーリング防水工事作業
石工事	・石材施工（石張り施工）
タイル工事	○タイル張り
木工事	○建築大工
屋根及びとい工事	○建築板金（内外装板金作業）
金属工事	○内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）
左官工事	○左官
建具工事	○サッシ施工　○ガラス施工　○自動ドア施工
カーテンウォール工事	・カーテンウォール施工　・サッシ施工　・ガラス施工
塗装工事	○塗装（建築塗装作業）
内装工事	○プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ボード仕上げ工事作業　○表装（壁装作業）
植栽工事	・造園

⑪ 電子納品
○工事関係図書を電子納品すること
○書面による署名及び捺印の取り扱い（電子成果物の原本性保証に関する処置）
電子納品の導入にあたっては、従来の署名または捺印に代わる措置として、
電子署名の導入が求められるが、電子署名の導入は現時点では困難であるため、
１）　受注者は電子媒体の内容の原本性を照明するために、電子媒体に署名又は捺印の上、提出する。
２）　共通仕様書に基づく各書面に対する署名又は捺印は、 上記１） の措置を持って代えることができる
○設計図CADデータ貸与する。
○設計図CADデータの著作権は以下の者にある
貸与するCADデータを当該工事における施工図面又は完成図の作図のため以外に使用してはならない。
甲府市まちづくり部まち整備室建築営繕課

⑫ 化学物質の濃度測定　(1.5.9)
施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの５物質について測定し、厚生労働省で定める指針値以下の濃度であることを確認し、測定結果報告書を監督員に提出すること。（測定結果が指針値を超えた場合は、発生源を特定し、換気などの措置を講じた後、再度測定を行う。）

測定対象科学物質	厚生労働省の指針値（25℃の場合）
ホルムアルデヒド	0.08 ppm（　100μg／m³）
トルエン	0.07 ppm（　260μg／m³）
キシレン	0.05 ppm（　200μg／m³）
エチルベンゼン	0.88 ppm（3,800μg／m³）
スチレン	0.05 ppm（　220μg／m³）

測定はパッシブ型採取機器により行う。
着工前の測定　　・行う
測定対象室　・　図示　　○　レクチャーホール(2)/受付(1)/授乳兼救護スペース(1)/事務室(2)
測定箇所数　・　図示　　○　6箇所
測定結果の報告　3部提出

⑬ 建築基準法による風圧力等の指定　(3.5.4)(3.9.3)(5.12.5)

適　用　工　事	建　築　基　準　法　の　指　定
○　合成高分子系ルーフィングシート ○　アルミニウム笠木　○　金属板屋根葺 ・　折板葺　　・　ガラスブロック	風速(V0)　※３０　m 地表面粗度区分　・Ⅱ　○Ⅲ 多雪地域の指定　・有　○無

⑭ 完成図等　(1.7.1～3)（表1.7.1）

※作成する　・作成しない			
※完成図	提出部数	※各2部	・ 各3部（A3版第2原図及び電子媒体（CD-R）） ○ 各2部
※施工計画書	提出部数	※1部	○ 各2部
※施工図	提出部数	※1部	○ 各2部
※保全に関する資料	提出部数	※1部	○ 各2部

15 完成写真
下記のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。

分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ（mm）
○カラー ※キャビネ版	外部（４）内部（主要室）	※2　・ 3	※100×125以上
・カラー半切木製パネル 324×400（mm）	外部（　　）内部（　　）	※ 2	
○電子データ	外部（　　）内部（　　）	※ 2	※200万画素以上 ※300dpi以上

100×125以上の原板を使う場合は、監督職員にあらかじめべた焼を提出し確認を受ける。
電子データは、RGB（フルカラー）、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出とする。
撮影業者 ※監督職員の承諾する撮影業者（ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする）

⑯ 設備工事との取合い　設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

⑰ 設計ＧＬ　現況ＧＬを設計ＧＬとする

⑱ 工事写真　○「営繕工事写真撮影要領(最新版)」による。

⑲ その他
○「甲府市暴力団排除条例の施行に伴う公共工事からの暴力団排除」を目的として受注者は、
下請負者を用いる場合には、金額・工種の如何にかかわらず、末端の下請負業者まで反映させた、
「下請施工体系図」を作成し、遺漏・誤謬が無いよう記載内容を十分確認の上、遅滞なく監督員へ提出するものとする。
また、提出した「下請施工体系図」の内容に変更が生じた場合は、その都度変更するものとし、
遅滞なく監督員へ提出するものとする。
なお、提出は打合せ簿によるものとする。
○再生資源利用計画（実施）書及び再生資源利用促進計画（実施）書の提出
（請負金額100万円以上の工事）
請負者は国土交通省のホームページから「建設リサイクル報告様式（計画書・実施書）（EXCEL 様式）」の最新バージョンをダウンロードし、作成出力した再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を出力し、1部（紙）を施工計画書に添付し監督員に提出するものとする。（以前より使用していたクレダスを使用した様式での提出はH30センサスに対応していないため不可）
工事完了後は速やかに、当初入力した工事データを実績値に修正した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を出力し、1部（紙）を完成書類に添付し、
また、電子データを電子媒体（CD、DVD等）により監督員に提出するものとする。
なお、入力した電子データは自社で１年間保管するものとする。
※入力時の最新版を国土交通省のホームページからダウンロードして入手すること。
URL http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm
○工事写真の取扱い
電子媒体により納品すること。
納品時には、正副１部ずつを納品すること。
使用する媒体は、ＣＤ－Ｒとする。ただし、やむを得ない理由がある場合に限り、ＤＶＤ－Ｒの使用も可とする。
電子媒体に対して必ずウイルスチェックを行うこと。
（ウイルス対策ソフトは特に指定しないが、最新のウイルスも検出できるように最新のデータに更新したものを利用すること。）
電子媒体には以下の情報を明記すること。
Ａ，工事名称　Ｂ，工事場所　Ｃ，契約番号　Ｄ，発注者担当部署名称
Ｅ，請負者名称　Ｆ，作成年月　Ｇ，何枚目／総枚数
Ｈ，ウイルスチェックに関する情報　Ｉ，ＣＤ－Ｒフォーマット形式
Ｊ，電子媒体の内容の原本性を証明するために、直接署名又は捺印を行う。
・電子納品される写真データは、ＰＤＦ形式、エクセル等で編集したもので、従来の印刷物写真と同様な確認ができるものとする。
・写真データは、工種種別、撮影項目毎に分類し、工事の進捗に合わせて編集し、容易に確認できるファイル名・フォルダ名を付して整理すること。
・工事写真の検査は、電子データで検査することを原則とするが、印刷物または電子データと併用で検査することも可能とし、その範囲は受発注者との協議による。
・検査に使用する機器の準備と操作は、受注者が行うことを原則とする。
・やむを得ない理由により、電子納品できない場合は、受発注者との協議により、従来の印刷物による納品も可とする。
・ここに定めなきことは、受発注者との協議により決定する。

② 仮設工事
① 監督職員事務所　※設ける　(2.3.1)
規模　・１号　・２号　・３号　・４号　・５号
○設けない
・備品（必要備品は適宜設置）
② 工事用水　構内既存の施設
○利用できる（　※有償　・無償　）　※利用できない
③ 工事用電力　構内既存の施設
○利用できる（　※有償　・無償　）　※利用できない

③ 土工事
① 埋戻し及び盛土　種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)（表3.2.1）
・建設汚泥から再生した処理土　♻
② 建設発生土の処理　(3.2.5)
※現場説明書による
・構外搬出適切処理　○構内指示の場所にたい積　・構内指示の場所に敷き均し

④ 地業工事
① 既製コンクリート杭　種類　(4.3.1～3)
地業
※高強度プレストレストコンクリート杭
構造設計特記仕様による

	杭径（mm）	杭長（m）及び種別	継手数	セット数	備考
試験杭					
本　杭					

杭頭の処理　※切断しない　・　(4.3.8)
先端部形状　※開放形　・閉そく平たん形
杭の継手　建築基準法に基づく指定又は認定を受けた継手を使用してもよい。　(4.3.6)
施工法　(4.3.4～5)
・特定埋込み杭工法
工法　・プレボーリング拡大根固め工法　・中堀拡大根固め工法
H13国交告1113号第6による支持力算定式で α=250程度を採用できる工法
杭周固定液　・使用する
セメントの種類　6章コンクリート工事のセメントの種類による

2 場所打ちコンクリート杭地業　コンクリートの種別及び設計基準強度　(4.5.4)（表4.5.1）
（　　）種かつ（　　）N/mm²以上
鉄筋の種類　5章鉄筋工事の鉄筋の種類による　(4.5.4)
堀削工法　・アースドリル工法（・安定液使用　・無水堀削）　(4.5.5)
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張　・行う　・行わない）
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法　(4.5.6)
・拡底杭工法（※安定液使用　・　　）
側壁測定　・行う（　　）・行わない　(4.5.5)
セメントの種類　6章コンクリート工事のセメントの種類による

③ 砂利地業　※再生クラッシャラン　♻　・切込み砂利及び切込み砕石　(4.6.3)
④ 床下防湿層　施工箇所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）　(4.6.5)

⑤ 鉄筋工事（構造設計標準仕様書及び鉄筋コンクリート構造標準配筋図による。）
1 鉄筋の種類　(5.2.1)（表5.2.1）

種類の記号	呼び名（mm）
・SD295A	※D16以下　・
・SD345	※D19以上　・

2 鉄筋の継手　呼び名19mm以上の柱、梁の主筋　※ガス圧接　・重ね継手　(5.3.4)
3 鉄筋の最小かぶり厚さ　最小かぶり厚さは目地底から算定する。　(5.3.5)
・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	表5.3.6 の値に加える寸法（mm）
・柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面	※10　・

4 既製コンクリート杭の杭頭補強　・Ａ形　・Ｂ形　※図示
5 最上階柱頭補強　※行う　・行わない　(別2.1)
6 帯筋　※Ｈ形（□は除く）　(別2.2)
7 壁開口部の補強　一般壁　・Ａ形　※Ｂ形　・図示　(別4.4)（別表4.3～4）
耐震壁　※図示
8 梁貫通孔の補強形式　※Ｈ形　・ＭＨ形　・Ｍ形　(別7.1)（別表7.1～3）
9 機械吊上げ用フック　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種（　　ヶ所）
10 圧接完了後の試験　※超音波探傷試験　・引張試験　(5.6.5)

⑥ コンクリート工事（構造設計標準仕様書及び鉄筋コンクリート構造標準配筋図による。）
1 普通コンクリートの設計基準強度　(6.2.2)

設計基準強度Ｆｃ（N/mm²）	施工箇所
※ 36	
・ 27	

2 レディーミクストコンクリートの類別　※　Ⅰ類　・　Ⅱ類　(6.2.1)（6.4.1～2）（表6.2.1）
3 スランプ　18cm　(6.2.4)
4 セメントの種類　(6.3.1)（6.13.2）（表6.3.1）
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
・高炉セメントＢ種　♻（・　　）
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7 d	352Ｊ/ｇ以下
	28 d	402Ｊ/ｇ以下

5 骨材の種類　アルカリシリカ反応による区分　(6.3.1)
※Ａ
・Ｂ（※コンクリート中のアルカリ総量Ｒt=3.0kg/m³以下）
6 混和材料　混和材　仕様箇所　屋外タタキ部分を除く全体：コンクリート躯体防水剤
躯体軸部：高性能AE減水材
7 無筋コンクリート　設計基準強度　※18N/mm²　(6.14.1)
8 コンクリート躯体表面の処理　外装タイル後張り面の躯体表面の処理
MCR工法を行う場合は、せき板面にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上がり面凹凸状態とする。高圧水洗工法の目荒しを行う場合は、水圧50N/mm²以上かつ、2.5分/㎡以上とし、施工計画書を監督に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。
コンクリートの増打ち厚さ　※20mm
※施工範囲は図示による。
9 断熱材兼用型枠　適用及び適用個所について
様仕19章内装工事9断熱材による。

特　記
事　項

承認	設計	担当	縮　尺
			設計年月日 2023.00.00

山梨建築設計監理事業協同組合

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）
図面名称　特記仕様書１

No. A-02

⑦ 鉄骨工事（構造設計標準仕様書及び鉄骨構造標準図による。）

1 鉄骨の製作工場

製作工場の加工能力 (7.1.3)

；監督職員の承諾する製作工場

・建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（　　）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。

入熱、パス間温度の溶接条件

適用箇所　・図示　　・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

※図示　　・

2 施工管理技術者

適用する (7.1.4)

3 鋼材

鋼材の材質 (7.2.1) (7.2.10) (表7.2.1)

種類の記号	使用箇所	規格等
		※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による
		※ＪＩＳ規格による

4 スカラップ

改良型スカラップ

5 エンドタブ

鋼製エンドタブ

切断する個所（　　）

6 高力ボルト

※トルシア形高力ボルト　・JIS形高力ボルト　・溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.12.4)

7 溶接部の試験

AQQL　※4.0%　・2.5% (7.6.12)

検査水準　※第6水準　・図示 (7.6.12) (表7.6.2)

試験の種別	試験箇所	試験方法
※超音波探傷試験	完全溶込み溶接部	※標仕7.6.12（1）（イ）による ・図示
・放射線試験		
・マクロ試験		

8 耐火被覆 (7.9.2～8)

種　別		所要性能及び適用構造部位
・ラス張りモルタル塗り		
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式ロックウール	
・耐火板張り		
・耐火塗料		

9 アンカーボルトの保持及び埋込み工法

・構造用アンカーボルト　（※図示　　・　　）

・建方用アンカーボルト　（・Ａ種　※Ｂ種） (7.10.3) (表7.10.1)

10 柱底均しモルタル工法

※Ａ種　・Ｂ種 (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2)

無収縮モルタル

混和材	セメント系膨張材（酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
配合比	（各重量比） （セメント＋混和材）：砂＝1：1

無収縮モルタルの品質及び試験方法

コンシステンシー	Ｊロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は　8±2秒
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率　：　2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　1時間以上 終結時間　10時間以内
無収縮性	材齢7日　収縮しないこと
圧縮強度	材齢3日　25.0N/mm²以上 材齢28日　45.0N/mm²以上
付着強度	材齢28日　3.0N/mm²以上
塩化物量	0.30kg/m³以下
試験方法	1）ＮＥＸＣＯ試験方法「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1999による。 2）塩化物量は、JIS A 5308「レディミクストコンクリート」付属書5（規定）「フレッシュコンクリート中の塩化物イオン濃度試験方法」による。

11 溶融亜鉛めっき工法

(7.12.4) (表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材　料	適用部位
A種	最低板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
B種	最低板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
C種	普通ボルト、アンカーボルト 最低板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

素地ごしらえは、JIS H 9124溶融亜鉛めっき作業指針による。

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

※空洞ブロック16　・空洞ブロック16－Ｗ (8.2.2)

2 コンクリートブロック帳壁及び塀

※標仕8.3.1及び下表による (8.3.2)

適用箇所			厚さ（mm）
・間仕切壁　・地下二重壁　・外壁			・
・塀	高さ	２ｍ以下	・120
		２ｍを超える	・150
・衛生配管用裏積みブロック			・100 ・

3 ＡＬＣパネル

(8.4.2～5) (表8.4.2～4)

種　類	単位荷重（N/m²）	厚さ（mm）	取付け工法種別
・外壁パネル	・1180　・1960	※100　・	・Ａ種　・Ｂ種
・間仕切壁パネル		※100　・	・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種
・屋根パネル	・980	※100　・	・Ｆ種
・床パネル	・2350　・3530	・100　・150	

・床パネルの耐火性能（・1時間　・2時間）

4 押出成形セメント板（ECP）

(8.5.2～4) (表8.5.1～2)

種　類	表面形状	厚さ（mm）	幅（mm）	工法種別
・外壁パネル	※Ｆ　・Ｆ－Ｒ			・Ａ種 ・Ｂ種
	・Ｄ　・Ｄ－Ｒ			
	・Ｔ　・Ｔ－Ｒ			
・間仕切壁パネル	※Ｆ　・Ｆ－Ｒ			・Ｂ種 ・Ｃ種
	・Ｄ　・Ｄ－Ｒ			
	・Ｔ　・Ｔ－Ｒ			

耐火性能　・有り（　　）

・無し

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水

(9.2.2～3) (表9.2.3～9)

種　別	施工箇所
・Ａ－1　・Ａ－2　・Ａ－3	
・ＡＩ－1　・ＡＩ－2　・ＡＩ－3	
・Ｂ－1　・Ｂ－2	
・ＢＩ－1　・ＢＩ－2	
・Ｄ－1　・Ｄ－2	
・ＤＩ－1　・ＤＩ－2	
・Ｅ－1　・Ｅ－2	

アスファルト　※3種　・4種 (9.2.2)

断熱工法の断熱材　厚さ（mm）　※25　・

ただし、特定フロンを含まないもの。

立上り部の保護

・乾式保護材　※押出成形セメント板（厚さ　15mm） (9.2.5)

2 改質アスファルトシート防水

(9.3.2～3) (表9.3.1～3)

種　別	厚　さ	施工箇所
・AS－T1　・AS－T2		
・AS－T3　・AS－T4　・AS－J1		
・ASＩ－T1　・ASＩ－J1		

③ 合成高分子系ルーフィングシート防水

(9.4.2～3) (表9.4.1～3)

種　別	厚さ（mm）	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類
・Ｓ－Ｆ1	※1.2　・1.5		・シルバー ⊙カラー	※非歩行 ・軽歩行
⊙S－Ｆ2	※2.0　⊙1.5	屋根２立上り		
・Ｓ－Ｍ1	※1.5　・			
・Ｓ－Ｍ2	※1.5　・			
・ＳＩ－Ｆ1	※1.2　・1.5		・シルバー ⊙カラー	※非歩行 ・軽歩行
⊙SＩ－Ｆ2	※2.0　⊙1.5	屋根２平場		
・ＳＩ－Ｍ1	※1.5　・			
・ＳＩ－Ｍ2	※1.5　・			
・Ｓ－Ｃ1	※　・			

④ 塗膜防水

(9.5.2～3) (表9.5.1～2)

種　別	施工個所	備　考
・Ｘ－1		仕上げ塗料塗り ・シルバー ⊙カラー
⊙Ｘ－2	太陽光発電パネル基礎・屋外通路	
・Ｙ－1		Ｙ－２工法の保護シート
・Ｙ－2		※適用する　・適用しない

脱気装置

・設ける　材質（　　）　設置数量（　　m²当たり１箇所）

5 ケイ酸質系塗布防水

(9.6.2) (表9.6.1)

種　別	施工個所	備　考
・Ｃ－ＳＵＩ		
・Ｃ－ＳＵＰ		

⑥ シーリング

下表以外は、標仕表9.7.1による (9.7.2) (表9.7.1)

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

10 石工事

1 天然石張り

石の種類・表面仕上げ (10.2.1) (表10.2.1～2)

施工箇所	種　類	産地・名称	厚さ（mm）	仕上げの種類

2 テラゾ張り

種石の種類　※大理石　・ (10.2.1) (表10.2.2)

表面仕上げ　※本磨き　・

形状・寸法　※図示

3 壁の石張り工法

外壁石張り (10.3.2～3) (10.5.2～3)

工法

・外壁湿式工法（※あと施工アンカー横筋流し工法　・流し筋工法　・あと施工アンカー工法）

・乾式工法

石裏面処理　・行う（・小口共）

裏打ち処理　・行う

ドレインパイプ　※ステンレスSUS304　・

内壁石張り (10.4.2～3) (10.5.2～3)

工法

・内壁空積工法（※あと施工アンカー横筋流し工法　・あと施工アンカー工法）

・乾式工法

4 床及び階段の石張り

床石張りの裏面処理　・行う (10.6.2～3)

屋内のワックス掛け　・行う (10.1.5)

⑪ タイル工事

① 陶磁器質タイル

タイルの種類 (11.2.2)

施工箇所	形状寸法（mm）	きじ：磁器	きじ：せっ器	きじ：陶器	うわぐすり：施ゆう	うわぐすり：無ゆう	役物：あり	役物：なし	色：標準	色：特注	再生材の適用 G	備考
ポーチ	300×300	○			○		○		○			段鼻あり
エントランス	300×300	○			○			○	○			
通路	300×300	○			○			○	○			
男子便所	150×150	○			○			○	○			
女子便所	150×150	○			○			○	○			
男子便所	900×600	○			○			○	○			

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする

タイルの見本焼き　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　　） (11.1.4)

② 張り付け用材料

既製調合モルタル（仕上げ表の仕様により合成樹脂を添加する） (11.2.3)

保水率（%）	単位容積質量（kg/l）	接着強さ（N/mm²）：標準時	接着強さ（N/mm²）：温冷繰返し後	長さ変化率（%）	曲げ強さ（N/mm²）
70.0以上	1.80程度	0.60以上	0.40以上	0.20以下	4.0以上

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種 (11.3.3)

3 壁タイル張りの工法

内装タイル　※壁タイル接着剤張り　・積上げ張り (11.3.5) (表11.3.2)

外装タイル　※密着張り　・マスク張り

躯体表面の処理　・行わない　※行う（施工範囲　※図示　・　　）

躯体表面の処理方法　ＭＣＲＴ法（６章８節［型枠］）又は目荒し工法（15.3.4［下地処理］(4)）

下地モルタル塗り　※標仕15.3.5［工法］(4)（イ）(a)

タイルの試験張り　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　　） (11.1.4)

⑫ 木工事

① 木材の品質

※標仕12.2.1　・市販品 (12.2.1)

・保存処理木材を適用する箇所（　　）

② 樹種

・特記による（　　） (12.2.1)

・代用樹種を適用しない箇所（　　）

・県産材指定箇所（　　）

③ 集成材等 G

(12.2.1)

品　名	規格・品質	芯材の種類	化粧単板の樹種
※集成材	※一般材	⊙たも　・なら　・しおじ	
・構造用集成材	・１種　※２種　・３種	・	
・造作用集成材	※１等　・２等	・	
・化粧ばり造作用集成材	※１等　・２等	・	・

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

④ 接着剤

接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 (12.2.2)

ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という）を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量

※規制対象外　・第三種

5 防腐・防蟻処理

行う箇所（　　）

防腐・防蟻処理　※行う（※図示　・　　） (12.3.1)

防虫処理　・行う（※図示　・　　） (12.3.2)

防腐・防蟻処理の種類、品質

表面処理用木材保存剤（防腐・防蟻剤）は監督職員の承諾するものとする。

6 床板張り

フローリング及び縁甲板張り床 (12.6.1) (表12.6.1)

下張り用床板	※無し		
	・有り	※合板張り	ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外　・第三種
		・板張り	
床板	※単層フローリング（標仕19.5.2による）		ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外　・第三種
	・縁甲板		※ひのき　・

⑬ 屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺

(13.2.2～3) (表13.2.1)

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板厚（mm）
⊙段葺き	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）	※0.4

2 折板葺

(13.3.2～3) (表13.2.1)

形　式	※重ね形　・はぜ締め形　・かん合形
形状（mm）	山高（　　）　山ピッチ（　　）　板厚※0.6　・0.8
材　料（規格等）	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）
軒先面戸板	※有り　・無し
断　熱　材	※有り（種別：　　厚さ：　　mm）　・無し
耐火性能	※30分耐火　・無し

③ とい

材　種　※配管用鋼管　・硬質塩化ビニル管 (13.5.2) (表13.5.1)

・ステンレスJIS G4305　G

⊙ アルミ　⊙ ガルバリウム鋼板

鋼管製といの防露　※標仕表13.5.4による (13.5.3)

防露材のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外　・第三種

掃　除　口　※有り　・無し

⑭ 金属工事

① アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.1) (表14.2.1)

種　別	施工箇所
・ＢＢ－１種（無着色）	
⊙ＢＢ－２種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）	

2 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2) (表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	・Ａ種	
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
電気亜鉛めっき	・Ｄ種	
	・Ｅ種	
	・Ｆ種	

3 金属成形板張り

(14.6.2) (表14.2.1)

形　状	製　法	材　種	寸法（mm）	厚さ（mm）	表面処理
・スパンドレル形	・押出し ・ロール	※アルミニウム製			・ＢＢ－１種 ・ＢＢ－２種（　）
・パネル形	※ブレス				

伸縮調整継手　※設けない　・設ける（施工箇所は図示）

④ アルミニウム製笠木

(14.7.2) (表14.2.1) (表14.7.1)

種　類	呼称肉厚（mm）	表面処理	固定間隔	備　考
・250形	1.6以上	※ＢＡ－１又は ＢＢ－１種 ・ＢＢ－２種 （　）	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。
・300形	1.8以上			
・350形	2.0以上			
⊙200形				

⑤ ステンレスの表面仕上げ

種　類	施工箇所
※ＨＬ程度	下記以外の見え掛かり全て
・No.２Ｂ程度	
・鏡面仕上げ	

⑮ 左官工事

1 モルタル塗り材料

吸水調整材 (15.3.2) (表15.3.2)

全固形分（%）	吸水量（g）	接着強度（N/mm²）	界面破断率（%）
表示値±1.0以内	30分で1g以下	1.00以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

防水剤（防水モルタル塗りの混入剤） (15.3.2)

防水剤の種類　建築用のモルタルに用いるセメント防水剤

混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比
セメント重量の5%以下	JIS R 5201の試験において 始発　1時間以上 終結　10時間以内	70%以上	95%以下	80%以下

膨張性のひび割れ及びモリがないこと。

2 床コンクリートの直均し仕上げ

下表以外は標仕表6.2.5及び標仕15.4.2による (表6.2.5) (15.4.2)

施工箇所	平たんさ（mm）	備　考
	1mにつき10以下	
	3mにつき7以下	

3 仕上塗材仕上げ

(15.6.2) (表15.6.1)

種　類	呼び名	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状　・ゆず肌状
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状　・ゆず肌状
	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・内装薄塗材Ｅ	・砂壁状じゅらく　・ゆず肌状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状　・さざ波形　・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	砂壁状
	・内装薄塗材Ｃ	・凹凸上　・ゆず肌状
	・内装薄塗材Ｌ	・凹凸上　・ゆず肌状
	・内装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状じゅらく　・ゆず肌状
	・内装薄塗材Ｗ	京壁状じゅらく
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状　・凸部処理　※凹凸模様
	・可とう形複層塗材ＣＥ	耐候性　※3種　・
	・複層塗材Ｓｉ	上塗材
	・複層塗材Ｅ	溶媒　※水系　・溶剤系
	※複層塗材ＲＥ	樹脂　※アクリル系
	・防水形複層塗材ＣＥ	外観　※つやあり　・つやなし
	・防水形複層塗材Ｅ	・メタリック
	・防水形複層塗材ＲＥ	
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	砂壁状
	・こて塗用軽量塗材	平たん状

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外　・第三種

防火材料の指定

※屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。

特　記

事　項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮　尺
			設計年月日 2023.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）

図面名称　特記仕様書２

No. A-03

⑯ 建具工事

1 見本の製作等

・特殊な建具の仮組（建具符号：　　）　(16.1.4)

② アルミニウム製建具

外部に面する建具　(16.2.2)（16.2.4）（表16.2.1）

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
○A種	S－4	※A－3	※W－4	※70	※図示　・
・B種	S－5				※図示　・
・C種	S－6	A－4	W－5	特記による	※図示　・

（注）形式が引き違い・片引き・上げ下げ窓で複層ガラスを使用する場合は枠の見込み100mmとする。

断熱等級・
枠 ・ 障子 ：

ガ ラ ス ：

表面処理　※BB－1種　・C種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）　(表14.2.1)

屋内建
表面処理　※BC－1種又はBC－2種　(表14.2.1)
・C2種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）

網戸　(16.2.3)
網の種別　※ガラス繊維入り合成樹脂製　・合成樹脂製　・ステンレス製（SUS316）
形　　式　※外部可動式　・固定式

3 樹脂製建具

建具の性能及び構造の適用は建具表による　(16.3.2)
製造所標準仕様による　(表16.3.3)

④ 鋼製建具

簡易気密型ドアセットの適用は特記による　(16.4.2)（表16.4.1）
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸　・適用あり

⑤ 鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　(16.5.2)

6 ステンレス製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ　※HL程度　・鏡面仕上げ　・　(16.6.4)
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強あり）　(16.6.5)
特定防火設備の戸　・適用あり　(表16.6.1)

7 木製建具

かまち戸の樹種　かまち（　　）　鏡板（　　）　(16.7.2)

ふすまの上張り　(表16.7.3～10)
※新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く）　・鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　(16.7.2)
※規制対象外　・第三種

⑧ 建具用金物

マスターキー　※製作する　・製作しない　(16.8.4)
建具用金物　(16.4.6)（16.5.6）
錠類はシリンダー箱錠（レバーハンドル）とする　(表16.8.1～5)
なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける　(16.8.2)

吊金物
・丁番（内部建具については、軸を鉄芯としてもよい）
・ピボットヒンジ
・フロアヒンジ

⑨ 自動ドア開閉装置　(16.9.2～3)（表16.9.1～3）

開閉方法	センサの種類	
※スライディングドア	・マットスイッチ	・電子マットスイッチ
・スイングドア	※光線スイッチ	・音波スイッチ
	・熱線スイッチ	・光電スイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

10 自閉式上吊り引戸装置

品質規格　※標仕表16.10.1による　(16.10.2～3)
・製造所標準仕様による

(16.11.2)

11 重量シャッター

シャッターの種類	
・一般重量シャッター	耐風圧性能（　　）N/㎡
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能（　　）N/㎡
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉機能　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式　(16.11.2)（表16.11.1）

危害防止機構
※障害物感知装置（自動閉鎖型）
・シャッターの二段降下方式
一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない　(16.11.2)

12 軽量シャッター

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）　(16.12.2)（表16.12.1）
スラット　材質　※塗装溶融亜鉛めっき鋼板　・鋼板　(16.12.3)
形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形　(16.12.4)
ガイドレール等　※鋼板製　・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm）　(表16.12.2)
耐風圧性能（　　）N/㎡

13 オーバーヘッドドア　(16.13.2～3)

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ	※バランス式	・スタンダード形	・溶融亜鉛めっき鋼板
・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローヘッド形	※ステンレス鋼板
・ファイバーグラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	（SUS304）
		・バーチカル形	

耐風圧性能（　　）N/㎡

⑭ ガラス

※建具表による　(16.14.2)
・ガラスブロック　標仕16.14.5による　(16.14.5)

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	防火性能
・正方形			※クリア	※無し
・長方形				・有り

ガラス留め材及び溝

ガラス留め材　(16.14.2)（表9.7.1）

建具の種類	材　種
アルミニウム製	※シーリング材　・ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ　(16.14.3)
標仕16.14.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会
JASS 17ガラス工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を
監督職員に提出する

名　称	種　類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り　・外張り	飛散防止率　D1

品質　JIS A 5759による

17 カーテンウオール工事

2 メタルカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。
カーテンウォール材料の種類　(17.2.2)

種　類	規格等
※アルミニウム製	※標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による

カーテンウォール方式
・方立方式
・バックマリオン方式　（・単純2辺支持構法　・SSG構法）
・スパンドレル方式
・パネル方式
・小型パネル組み合わせ方式　（・ノックダウン方式　・ユニット方式）
シーリング材及びガラス取付け材料
下記以外は標仕表9.7.1による　(9.7.2)（17.2.2）（表9.7.1）

被覆体の組合せ		シーリング材の種別		
		記　号	主成分による区分	耐久性による区分
金属	ガラス			
	石、タイル			
ガラス	ガラス			

構造用ガスケット　※適用しない　(17.2.2)
・適用する（施工箇所：図示　　）
断熱材　※適用しない　(17.2.2)
・適用する（種類：　厚さ（mm）　：施工個所※図示　）
製品の寸法許容差　※標仕表17.2.1による　(17.2.3)（表17.2.1）
・製造所標準製作規定寸法許容差による
・取付け　(17.2.5)（表17.2.2～3）
アルミニウムの表面処理　(17.2.3)（表14.2.1）

種　別	色彩等
・BB－1種　・BB－2種	無塗色
・C種	※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー　・

・着色塗膜　塗装材料（　　）焼付け方法（　　）コート（　　）ベーク

耐風圧性能　(17.1.3)
性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して
安全であること。
・正圧　N/㎡以上及び負圧　N/㎡以上に対して安全であること。
主要部材のたわみ

支点間距離（h）	たわみ量	状　態
※4m以下	※±（1/150）×h かつ絶対量20mm以下	※各部の破損、残留変形 有害な変形が起こらないこと
・4mを超える		

耐震性能　(17.1.3)
設計用震度　水平方向（KH）　※1.0　・
垂直方向（KV）　※0.5　・

建物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	状　態
鉄骨造	※±（1/100）×h以上	※部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらない シーリングは補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×h以上	

水密性　・W－4　・W－5　・　(17.1.3)
気密性　・A－3　・A－4　・　(17.1.3)
耐火性能　※適用しない　・適用する（　　時間、施工箇所：図示）
映像調整　※行わない　・行う（建具表による）
製造所　性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける
設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS 14による。
コンクリートの種類及び品質　(17.3.2)
※標仕17.3.2による
・下表による。ただし、下表以外は標仕17.3.2による。

コンクリートの種類	設計基準強度（Fc）	所要スランプ（cm）

鉄筋　※SD295A　・
取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質　(14.2.3)（表14.2.2）

金物種類及び部位	内　部	外　部
PC版打込み金物	※E種　・	※C種　・
PC版打込み取付けボルト	※E種　・	※ステンレスボルト
2次ファスナー	※E種　・	※C種　・
取付けボルト	※F種　・	※C種　・
レベル調整ボルト	※F種　・	※C種　・

上記以外はカーテンウォール製作所の仕様による

シーリング材
下記以外は標仕表9.7.1による　(9.7.2)（17.3.2）（表9.7.1）

施工箇所	シーリング材の種別		
	記　号	主成分による区分	耐久性による区分
カーテンウォール板間目地			

断熱材　※適用しない
・適用する　（種類：　厚さ（mm）　：施工箇所　※図示）
製品の寸法許容差　※標仕表17.3.1による　(17.3.3)（表17.3.1）
・製造所標準製作規定寸法許容差による
表面仕上げ　（　　）
耐火材料

施工部位	種　別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

耐風圧性能　(17.1.3)
性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して
安全であること。
・正圧　N/㎡以上及び負圧　N/㎡以上に対して安全であること。
耐震性能　(17.1.3)
設計用震度　水平方向（KH）　※1.0　・
垂直方向（KV）　※0.5　・

建物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	状　態
鉄骨造	※±（1/100）×h以上	※部材が損傷せず、破損脱落もしない。 ガラス等の破損もない シーリングは補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×h以上	

3 PCカーテンウォール

⑮ 塗装工事

① 材　料
② 素地ごしらえ

屋内の壁及び天井の塗装の仕上げは、建築基準法に基づく基材同等の認定のあるものとする。　(18.1.3)
各部の素地ごしらえ　(18.2.1～7)（表18.2.1～7）

木　部	※A種（不透明塗料塗）※B種（透明塗料塗）		
鉄鋼面	・A種　・B種　※C種		
亜鉛めっき鋼面	・A種　※B種	塗り工法に応じた節の規定	
モルタル・プラスター面	・A種　※B種		
コンクリート・ALCパネル面	・A種　※B種		
コンクリート・押出成形セメント板面	・A種　・B種	塗り工法に応じた節の規定	
ボード面	※A種（縦目処理工法）※B種（その他）		

③ 錆止め
塗料塗り

塗料の種別　(18.3.1～2)

鉄鋼面	※A種　※B種（標準仕様書8節の場合）
亜鉛めっき鋼面	※A種　・B種（標準仕様書8節の場合）

(18.3.3)
錆止め塗料塗り

鉄鋼面	※A種（見え掛り）　※B種（見え隠れ）
亜鉛めっき鋼面	※A種（鋼製建具等）・B種

④ 合成樹脂調合
ペイント塗り
（SOP）

合成樹脂調合ペイント塗り　木部　鉄鋼面　亜鉛めっき鋼板　(18.4.2)
塗料の種別　※1種　・2種　(表18.4.1～3)
合成樹脂調合ペイント塗り
鉄鋼面　・A種　※B種
木部　※A種（屋外）　※B種（屋内）

5．クリアラッカー塗り（CL）

木部のクリアラッカー塗り　・A種　※B種　(18.5.1)（表18.5.1）

6．アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）

アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り　（屋内）・A種　※B種　(18.6.1)（表18.6.1）
コンクリート・モルタル面

7．耐候性塗料塗り（DP）

耐候性塗料塗り　（屋外）　(18.7.2～3)（表18.7.1～3）
上塗りの等級　～特記による
鉄鋼面　工程<下塗り→研磨→中塗り→上塗り>は表18．7．2による
亜鉛めっき鋼面　工程<下塗り→研磨→中塗り→上塗り>は表18．7．3による
コンクリート面及び押出成形セメント板面の種別　(18.7.4)（表18.7.3）
・A種　・B種　・C種　種別は表18．7．3の特記による

⑤ つや有り合成樹脂
エマルションペイント塗り
（EP－G）

つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り　(18.8.1～4)
コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面
・A種　※B種
木部（屋内）（多孔質広葉樹を除く）→仕様工程等は、表18．8．2による
鉄鋼面（屋内）　・A種　※B種

9．合成樹脂
エマルションペイント塗り
（EP）

合成樹脂エマルションペイント塗り
コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面　(18.9.2)（表18.9.1）
・A種　※B種

⑩ ウレタン樹脂ワニス塗り
（UC）

木部のウレタン樹脂ワニス塗り　・A種　※B種　(18.10.2)

11．ステイン塗り
（OS）

オイルステイン塗りは特記による。　(18.11.2)

⑫ 木材保護塗料塗り
（WP）

木材保護塗料塗り　・A種　※B種　(18.12.1)

⑯ 内装工事

② ビニル床シート張り
ビニル床タイル
及びゴム床タイル張り

○ビニル床シート　(19.2.1～4)（表19.2.1～2）
JIS A5705のJIS表示認証製品

種　類	記号	色　柄	厚さ(mm)	特殊機能	工法
※　発泡層のないもの	※FS	○無地	⑩ 2.0	・帯電防止	※熱溶接
	・TS	・マーブル	○ 2.5	・帯動荷重	・突付け
・　発泡層のあるもの	・HS				
	・KS				

○化粧ビニル床シート
JIS A5705のJIS表示認証製品で、表面は印刷シートに透明表層を有した木目又は石目調のもの

種類の記号	色　柄	厚さ(mm)	特殊機能	工　法
FS	○ 木目調	※ 2.0	・帯電防止	※熱溶接
	・ 石目調	・ 2.5	・帯動荷重	・突付け

上記以外はすべてビニル床シートに同じ

・ビニル床タイル
JIS A5705のJIS表示認証製品

種　類	記号	寸法	厚さ(mm)	特殊機能
※ コンポジションビニル床タイル	※KT	※300×300	・ 2.0	・帯電防止 ・耐動荷重
・ ホモジニアスビニル床タイル	・FT	・300×300 ・450×450	・ 2.0	・帯電防止 ・耐動荷重

・特殊機能床材　帯電防止
・　帯電防止性能評価（JIS A 1445）1.2～3.1程度
又は耐電圧（JIS L 1023）3kv以下
・　帯電防止性能評価（JIS A 1445）3.2～5.1程度
又は漏えい抵抗値（JIS A 1454）0.1×1010オーム未満
・　帯電防止性能評価（JIS A 1445）5.2以上
又は漏えい抵抗値（JIS A 1454）0.1×107オーム未満
耐動荷重
JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、層間剥離
強度試験（発泡層のあるビニルシートのみ）およびキャスター性試験等の
試験後異常がないこと。

・視覚障害者用床タイル

材　質	寸　法（mm）
・　塩化ビニル系・　せっ器質タイル系	３００×３００

○ビニル幅木
材　種　※　軟質　・　硬質　・　溶接
高　さ（mm）　※　６０　・　７５　・　１００
厚　さ（mm）　※　１．５　・　２．０

○接着剤　JIS A 5536（床仕上げ材接着剤）により、
種別は表19.2.1による施工箇所に応じたものとする。
ホルムアルデヒト放散量は特記による。特記がなければF☆☆☆☆とする。

③ カーペット敷き

・織じゅうたん　(19.3.1～4)（表19.3.1）

種　別	パイル形状	色柄等	備　考
・A種	・カットパイル	※無地	
・B種	・ループパイル	・柄物（標準品）	
・C種	・カット、ループパイル併用		

耐電性　※人体帯電圧3kV以下　・

・タフテッドカーペット　(19.3.3～4)（表19.3.2）

パイル形状	パイル長（mm）	工　法	備　考
・カットパイル	※5～7　・	※全面接着工法	下敷き材を敷く。
・ループパイル	※4～6　・	・グリッパー工法	
・レベルループパイル	※4　・		
・カット、ループ併用			

耐電性　※人体帯電圧3kV以下　・

○タイルカーペット　(表19.3.2)

パイル形状	種　類	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備　考
※ループパイル	※第一種 ・第二種	※500×500	※6.5	粘着はく離形接着剤を使用する。
・カットパイル				
・カット、ループ併用				

耐電性　・人体帯電圧3kV以下（フリーアクセスフロア敷設範囲）

4 合成樹脂塗床

(19.4.1～4)（表19.4.1～8）

種　別	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗床材	・薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ（・平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（・平滑　・防滑） ・防滑仕上げ （特記による）

5 フローリング張り

・単層フローリング　(19.5.1～7)（表19.5.1～6）

種　別	樹種	厚さ(mm)	工法	塗装
・ フローリングボード	※ナラ	※15　幅　75 長さ900以上	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品
・ フローリングブロック	※ナラ	※15　303×303	・ ・接着工法	
・ モザイクパーケット	※ナラ	・6　・8　・9	・接着工法	

・複層フローリング

種　別	樹種	種別	防湿処理	工法	塗装
・ 複合1種フローリング	※ナラ ・サクラ	・A種 ・B種	・行う ・行わない	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品
・ 複合2種フローリング	・ヒノキ	※C種			
・ 複合3種フローリング					
・ 大型積層フローリング	・ナラ ・サクラ		・行う ・行わない	・特殊張り工法 （体育館床）	

6 畳敷き

畳の種別　・A種　・B種　(19.6.2)（表19.6.1）
・C種　・D種（　　）

⑦ せっこうボード
その他ボード
及び合板張り

(19.7.2～3)（表19.7.1～5）

種　類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	HW ⓢ	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板	NW ⓢ	・15　・20　・25　・
○けい酸カルシウム板	0.8FK	タイプ2（無石綿）（○8　・8　・　）
○ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ（※9（不燃）・12　・　） ・凹凸タイプ（※12（不燃）・15・19・　）
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）	DR DR（凹凸） DR（軒天） DR（軒天凹凸）	※フラットタイプ 9（不燃） ・凹凸タイプ（※12 ・15）（不燃）
○せっこうボード	GB－R	○2.5（不燃）　○2.5（準不燃・不燃）
・不燃構造せっこうボード	GB－NC	9.5（不燃）　化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
○シージングせっこうボード	GB－S	12.5（不燃）
○強化せっこうボード	GB－F	12.5（不燃）　15.0（不燃）
・せっこうラスボード	GB－L	9.5
○化粧せっこうボード	GB－D	※12.5（不燃）　○9.5（準不燃）
・難燃合板	ⓢ	・生地、透明塗料塗り（ラワン合板程度） ・不透明塗料塗り（しな合板程度）
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による　厚さ1.2
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF ⓢ	・3　・7　・9　・12　・
・単板張りパーティクルボード	ⓢ	・無研磨板　・研磨板 ・10　・12　・15　・18　・
・ハードボード（素地）	HB ⓢ	・無研磨板（・スタンダード　・テンパード） ・研磨板　（・スタンダード　・テンパード）
・インシュレーションボード	IB ⓢ	A級（・天井仕上　・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18　・

合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・第三種
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材
※適用する　・適用しない
吸音材　(表19.7.1)

種　類	JISの記号	厚さ（mm）
・ロックウール吸音ボード1号	RW－B	※25
※グラスウール吸音ボード32K	GW－B	※25

⑧ 壁紙張り

(19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備　考
	紙	繊維（織物）	プラ（ビニル）	その他（化学繊維）	無機質		
図示			○			・不燃○準不燃・難燃	ﾊｲｸﾞﾚｰﾄﾞｸﾛｽ
						・不燃・準不燃・難燃	

素地ごしらえ　(表18.2.4～5)（表18.2.7）
モルタル、プラスター面　※B種　・A種（施工箇所：　　）
せっこうボード面　※B種　・A種（施工箇所：　　）
壁紙のホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種　(19.8.2)

⑨ 断熱・防露

(19.9.2～3)

種　類		施工箇所	厚さ（mm）	品質等
○押出法ポリスチレンフォーム保温板	※2種b	※一般部	・25 ・100	特定フロンを使用しないもの
	※3種b（スキン層付）	・接地部分	・25 ○ 30	
○現場発泡断熱材		※断熱材補修部分	――	特定フロンを使用しないもの 難燃性　・3級　・2級
		○一般部	○20 ・40	
		製造所　性能の確認できる資料を監督職員に提出する		
・断熱材兼用型枠	・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	※壁（図示の範囲）	※40以下	断熱抵抗 ＝厚さ/熱伝導率 ＝0.676以上 （㎡・k/w）
		製造所　建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの		

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した
断熱材のホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

特記事項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮　尺
			設計年月日 2023.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）
図面名称　特記仕様書３

No. A-04

⑳ ユニット及びその他の工事

① フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材	備考
事務室	⊙パネル構法 ・溝構法	100	⊙1.0G ・0.6G	⊙3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ⊙タイルカーペット	
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	

5,000Nについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。

表面仕上げ材の品質・規格等は、19章内装工事による
スロープ及びボーダー　※製造所の標準仕様　・図示
コンセント等の取付け対応　※製造所の標準仕様（コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数は図示
配線用取り出しパネル　配線取り出し開口：パネル１枚につき40mm×80mm程度の開口１ヶ所以上
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合
※20～30%　・
空調用吹き出しパネル　※無し
・有り（※固定式　・可変式　：施工箇所は図示）

2 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ(mm)	表面材種 厚さ(mm)	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
・スタッド式 ・スタッドパネル式 ・パネル式	・６０	※鋼板 （※0.6　・0.8）	※メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付け ・	・あり （　） ・なし	・あり ・なし

③ 移動間仕切

(20.2.4)

遮音性能	厚さ(mm)	表面材	表面仕上げ	操作方法
⊙一般タイプ	60	※鋼板	⊙焼付け塗装 ・壁紙張り	⊙手動式　・電動式 ・部分電動式
・遮音タイプ （36db以上）		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式　・電動式 ・部分電動式

表面仕上げの壁紙張りの品質は19章内装工事による
遮音性能はJIS A 6512の遮音試験に準拠する

④ トイレブース

表面仕上げ材　(20.2.5)
※メラミン樹脂系化粧板（標準色　アルミ製コーナーエッジ付き）
・ポリエステル樹脂系化粧板
足形状　※幅木型　・足金物型

⑤ 手すり

(20.2.6)

種別	施工箇所
※集成材クリアラッカー仕上げ （市販品　径　約45mm）	
⊙既成品	階段

⑥ 階段滑止め

材　種　ステンレスSUS304　(20.2.7)
形　状　ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド　※有り（・ステンレス製　※ビニル製）　・無し
幅（mm）　約35
取付け工法　※接着工法　・埋込み工法

⑦ 床目地棒

材　種　ステンレスSUS304　(20.2.8)

8 黒板及びホワイトボード

(20.2.9)

種類		寸法(mm)	色彩	備考
・黒板	※焼付け		※緑　・黒	※平面　・曲面　・スクリーン付引分
			※緑　・黒	
・ホワイトボード	※ほうろう		※白	※平面　・曲面　・スクリーン付引分

9 鏡

寸法（mm）　・図示　・　(20.2.10)
厚さ（mm）　※5　・

⑩ 表示

衝突防止表示　(20.2.11)
※図示（市販品　※ステンレス製　径約30mm　・　）
（⊙両面　・片面）
・無し
表示標識、案内用図記号についてはJIS Z 8210による
誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。

⑪ タラップ

種類・仕上げ材は特記による　(20.2.12)

12 煙突用成形ライニング

・煙突用成形ライニング材　(20.2.13)
最高使用温度　※650℃　・400℃

・キャスタブル耐火材
工　法　※こて押さえ
最高使用温度　※400℃

⑬ ブラインド

(20.2.14)

形式	種類	スラットの材質	スラットの幅(mm)
※横型	※ギヤ式　・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製	※25
・縦型	・１本操作コード ・２本操作コード	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100

14 ロールスクリーン

防炎性能　※有り　(20.2.15)

施工箇所	装置 電動	装置 手引	備考

⑮ カーテン

(20.2.16)

施工箇所	形式 片引	形式 引分	装置 電動	装置 ひも引	装置 手引	ひだの種類	性能	備考
レクチャーホール		○			○	片ひだ	遮光1級	
授乳室	○				○	片ひだ	ﾒﾃﾞｨｶﾙｶｰﾃﾝ	
男・女更衣室	○				○	片ひだ	ﾒﾃﾞｨｶﾙｶｰﾃﾝ	
階段下収納	○				○	片ひだ		

⑯ カーテンレール

材　種　※アルミニウム製　・ステンレス製　(20.2.16)
形　式　⊙片引き　⊙引分け（※暗幕用は300mm以上の召合せの重掛けとする）

⑰ ブラインドボックス及びカーテンボックス

・市販品（アルミニウム製　押出し型材）
溝幅×深さ（mm）　・90×150　※120×80　・120×150　・150×80　・
色彩　※B－1　・B－2（※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）
⊙図示

18 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能
・垂直方向 ・水平方向	※完全（全貫通型）スリット	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し

目地	内壁（幅×深さ）	外壁（幅×深さ）
目地材	シーリング材（見え掛かりのみ）	シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	※20×10　・	※20×10　・

19 止水板

形　状　・据置式　・壁張り式　・差込式
寸　法
製造所

⑳ 天井点検口（電気・機械設備工事）

材　質　アルミニウム製（※額縁タイプ　・目地タイプ）

21 床点検口

材　質　アルミニウム製（受け枠　※アルミ製　・ステンレス製）

22 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	耐荷重による種類
・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	水平荷重Ⅰ又は水平荷重Ⅱ
・鋼製物品棚	JIS S 1040の規格による	※１種　・２種　・３種

㉓ かぎ箱

市販品
形　式　・30組用　・60組用　⊙120組用　・

24 くつふきマット

市販品
材　質　・塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製受枠）　・ビニル製（ステンレス製受枠）
・硬質アルミニウム製（受枠とも）　・ステンレス製（受枠とも）

25 流し台ユニット

種類	寸法（L＝　mm）	適用内容	規格・品質等
・流し台	※1200　・1500　・1800	トラップ付き	※優良住宅部品 （セクショナルキッチンⅠ型）
・コンロ台	※600　・700	バックガード ※有り	
・つり戸棚	※1200　・900　・600		
・水切り棚	※1200　・900	ステンレス製 ※１段式	※市販品

26 屋内掲示板

枠の材質　※アルミニウム製
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

27 洗面カウンター

材　種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・人工大理石
奥行き（mm）　・約450　・約600

28 防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス	※6.8	※500	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・800	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800	表面仕上げ ※天井材張り

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

㉙ 視覚障害者用床タイル（誘導用及び注意喚起用床材）

ブロックパターンはJIS T 9251による　(19.2.2)
色彩は黄色を原則とする
屋　内　※塩化ビニル製　⊙磁器又はせっ器質タイル（※300　・　）
・レジンコンクリート製
屋　外　※レジンコンクリート製　⊙磁器又はせっ器質タイル（※300　・　）
⊙ステンレス製

30 旗竿

材　質　※アルミニウム合金製
形　式　※テーパー型　・同一断面型
地上高さ（m）　・6　・8　・10　・12
操作方法　※ハンドル式　・ロープ式
固定方法　・埋込式　・ベース式　・バンド式
製造所

31 旗竿受金物

材　種　ステンレス製SUS304

32 フェンス

・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス

33 屋外掲示板

照明器具　※有り　・無し
施　錠　※有り　・無し
製造所

34 車止め支柱

※ステンレス製（上下式鎖内蔵型）　径114.3mm　t＝2.5mm　H＝GL＋700mm
※スプリング付　・スプリング無し

㉟ 収納家具

材質
形状・寸法　※図示
ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

36 エキスパンション・ジョイント金物

材質　・アルミ　・ステンレス
クリアランス　・50　・100　・150　・
耐火性能　・有り（　）　・無し
防水型　※適用する　・適用しない

37 プレキャストコンクリート工事

コンクリートは表6.2.1［コンクリートの種別］のII類に準ずる　(20.3.2)
材料は6章3節［コンクリートの材料及び調合］による

38 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

間知石は表面がほぼ方形に近いもので、控えは四方落としとし、控え長さは面の最小辺の1.2倍とし、材種は特記材料はによる　(20.4.2)
コンクリート間知ブロックはJIS A 5371(プレキャスト無筋コンクリート製品）の積みブロックに基づき、種類及び質量区分は特記による

㉑ 排水工事

① 排水管

排水管用材料　(21.2.3)（表21.2.1）(21.3.1～3.2)

材種	管の種類	管形状（接合方法）
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※１種　・２種）	B形（ゴム接合）
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	※VP　・VU	
・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管	・REP-VU [G]	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・DV	

車道部の排水管の敷設　(21.3.1～2)
※図示
・砂基礎（地業厚さ20cm以上　材料　山砂の類）

② 排水桝及びふた

鋳鉄製マンホールふた　(21.2.2)

種類		適用荷重
・水封形 ・簡易気密形（パッキン式）	・密閉形（テーパー・パッキン式） ・中ふた付密閉形	・T－２用 ・T－６用 ・T－１４用 ・T－２０用

グレーチングふた　(21.2.2)

材質	形式	種類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
・鋼製 ⊙ステンレス製	※受枠付き ボルト固定 ※無し ・図示	・溝ふた用 ・桝ふた用 ・かさ上げ用 ⊙U字溝用	・歩行用 ⊙T－２用 ・T－６用 ・T－１４用 ・T－２０用	※細目 ※普通目 ⊙細目	※凹凸形 ※平形 ⊙凹凸形

③ 埋戻し土

※B種　・　(21.2.2～3)（表3.2.1）

4 浸透管及び浸透桝

製造所

22 舗装工事

1 盛り土に用いる材料

・A種　※B種　・C種　・D種　(22.2.3)（表3.2.1）

2 遮断層及び凍上抑制層の材料

・遮断層　※川砂、海砂又良質な山砂　・　(22.2.2～3)
厚さは図示
・凍上抑制層　※再生クラッシャラン　・クラッシャラン　切り込み砂利　・砂
厚さは図示
・フィルター層　※透水性舗装　車道部150mm・歩道部50mm

3 路床安定処理

※添加材料による安定処理　(22.2.2～3)（表22.2.1）
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントB種　・フライアッシュセメントB種
・生石灰（　）　・消石灰（　）
添加量　kg/m3（目標CBR　※5以上　・　）

4 路床土の支持力比試験

※行う（※乱した土　・乱さない土）　(22.2.5)

5 路床締固め度の試験

※行う　(22.2.5)

6 路盤材料 [G]

※再生クラッシャラン（RC-40）　(22.3.3)
・クラッシャラン（C-40）又はクラッシャランスラグ（CS-40）
透水性アスファルト舗装にもちいる場合は透水性の高いもの

7 アスファルト舗装

(22.4.2)（表22.4.1）

舗装の種類	車道部の基層	カラー舗装の種類
※アスファルト舗装	※無し　・有り	※顔料混入加熱アスファルト混合物
・カラー舗装	※無し　・有り	

カラー舗装の着色骨材　・有色骨材（焼成）　・着色骨材（樹脂被覆）
アスファルト　※再生アスファルト [G]　・ストレートアスファルト　(22.4.3)

加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)（表22.4.4）

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（13） ・細粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13F） ・細粒度ギャップアスファルト混合物（13F）
基層	・粗粒度アスファルト混合物（20）	

シールコート　※行わない　・行う（施工範囲：　）　(22.4.5)

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22.4.6)

8 コンクリート舗装

早強セメント　※使用しない　・使用する　(22.5.3)
注入材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ　(22.5.3)（表22.5.2）

溶接金網　※有り　・無し　(22.5.3～4)
厚さ試験　※行わない　・行う　(22.5.6)

9 透水性アスファルト舗装

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22.7.4)(22.7.6)

10 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装　(22.8.2～4)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材
※普通平板（N）　・カラー平板（C） ・洗出平板（W）　・擬石平板（S）	※300角	※60	※砂 ・モルタル

・インターロッキングブロック舗装　(22.8.2～4)

種類	厚さ(mm)	色彩及び表面加工等
※標準ブロック ・透水性ブロック ・誘導、注意喚起用ブロック	車道部　※80　・ 歩道部　※60　・	※標準品 誘導、注意喚起用は黄色系とする
・植生ブロック	※80　・100	

インターロッキングブロック

項目		品質・性能
材料	セメント	JIS R 5210ポルトランドセメント、JIS R 5211高炉セメント、JIS R 5212シリカセメント、JIS R 5213フライアッシュセメント、白色ポルトランドセメントとする。
	骨材	清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、細長の石片を含んでいない。
	混和材料	インターロッキングブロックの品質に有害な影響を及ぼさない。
	着色材料	無機質材料を用い、耐候性に優れ、かつインターロッキングブロックの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。
外観		使用上有害なきず、ひびわれ、欠け、変形等がない。

寸法許容差(mm)	長さ	幅	厚さ
普通タイプ	±3	±3	±3
透水性タイプ	±3	±3	+5～−1
植生用タイプ	±3	±3	±3

項目	タイプ	値
曲げ強度（N/mm2）	普通タイプ	5.0以上
	透水性タイプ	3.0以上
	植生用タイプ	4.0以上
透水係数（cm/sec）	透水性タイプ	1×10^{-2}以上
圧縮強度（N/mm2）	普通タイプ	32.0以上
	透水性タイプ	17.0以上

・舗石舗装　(22.8.2～4)

種類	厚さ(mm)	施工方法	基層
※小舗石（花こう岩）	※80～100　・	※うろこ張り	※コンクリート舗装 ・アスファルト舗装

11 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	布厚さ(mm)	揮発性有機溶剤の含有率
・１種 [G]	常温	液状	※白	※150	※1.0	塗料総質量に対して5%以下
・１種 [G]	加熱					
・３種１号	溶融	粉体状				

23 植栽工事

1 樹木の植栽基盤整備

芝及び地被類　(23.2.2～3)（表23.2.1～2）

適用	有効土層の厚さ(cm)	工法	整備範囲
※行う　・行わない	※20	※B種	※植栽範囲　・図示

樹木　(23.2.2～3)（表23.2.1～2）

樹木の樹高(m)	有効土層の厚さ(cm)	工法	整備範囲
・12以上	※100　・	※A種	・葉張りの範囲 ただし、低木は植栽範囲
・7超～12未満	※80　・	・B種	
・3超～7以下	※60　・	・C種	・図示
・3以下	※50　・	・D種	

工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

2 植込み用土

※現場発生土の良質土　・客土（※畑土　・黒土）　(23.2.3)

3 土壌改良材 [G]

※適用する　(23.2.3～4)
施工箇所　※植栽範囲　・図示

バークたい肥
有機物の含有量（乾物）：70%以上
炭素窒素比（C/N比）：35以下
陽イオン交換容量（乾物）：70meq/100g以上
pH：5.5～7.5
水分：55～65%
幼植物試験の結果：生育阻害その他の異常を認めない
窒素全量（現物）：0.5%以上
りん酸全量（現物）：0.2%以下
加里全量（現物）：0.1%以上

発酵下水汚泥コンポスト
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする
ひ素：0.005%以下
カドミウム：0.0005%以下
水銀：0.0002%以下
ニッケル：0.03%以下
クロム：0.05%以下
鉛：0.01%以下
有機物の含有量（乾物）：35%以上
炭素窒素比（C/N比）：20以下
pH：8.5以下
水分：50%以下
窒素全量（現物）：0.8%以上
りん酸全量（現物）：1.0%以上
アルカリ分（現物）：15%以下

4 支柱材

※杉の焼丸太（間伐材） [G]　・真竹　(23.3.2)

5 幹巻き用材料

※幹巻き用テープ　・わら及びこも　(23.3.2)

6 芝張り

種類　・こうらい芝　・野芝　(23.4.2)

7 屋上緑化

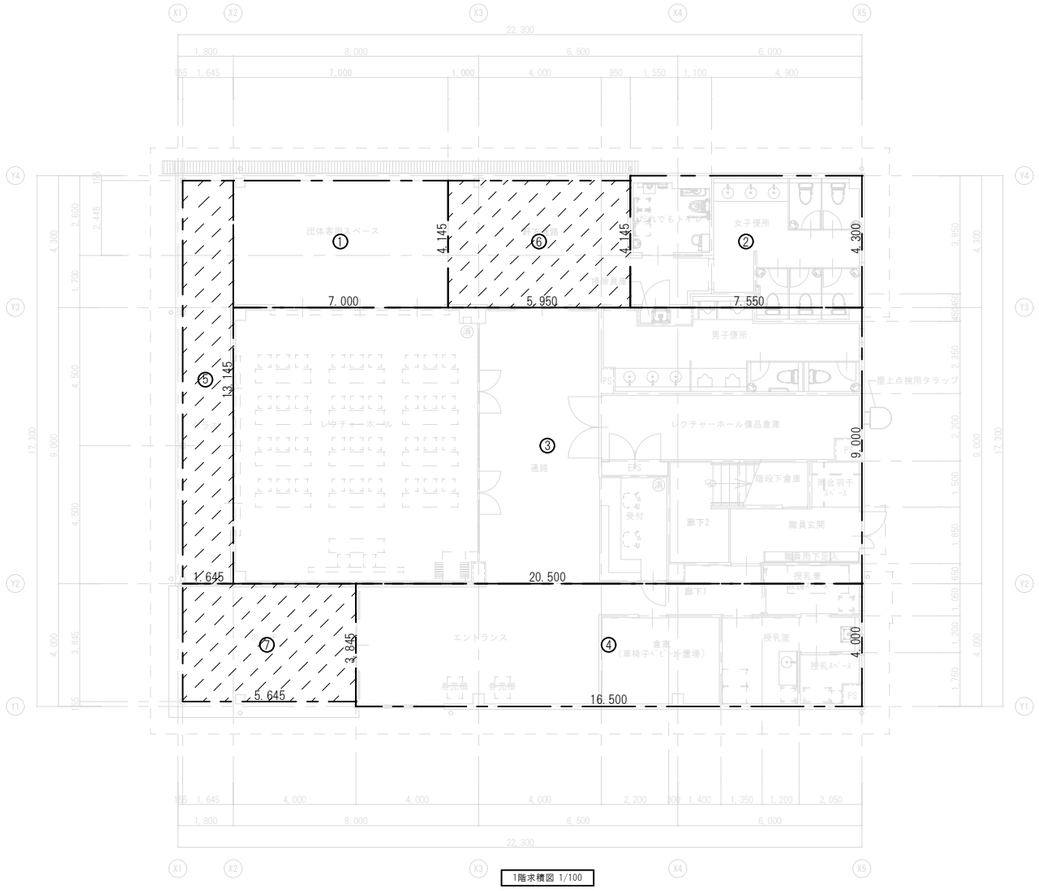
屋上緑化システム [G]　(23.5.2)
・管理方法による区分　・省管理型
質量の上限値　（　）kg/m2
かん水装置　・設ける（工事区分は図示）
透水層、保水層及び排水層等
保水層及び排水層の鉛直方向の排水性能：240 l /m2・h 以上
耐荷重性能
省管理型：3×10^{4}N/m2以上の載荷重で異常のないこと。
耐根層の材料　(23.5.3)
合成樹脂耐根シート（厚さ3mm以上）又は抗根性剤とする（耐根性能の実績を有すること）
植込み用土　製造所の仕様による
植栽の種類　製造所の指定するものとする
・管理方法による区分　・管理型

特記事項

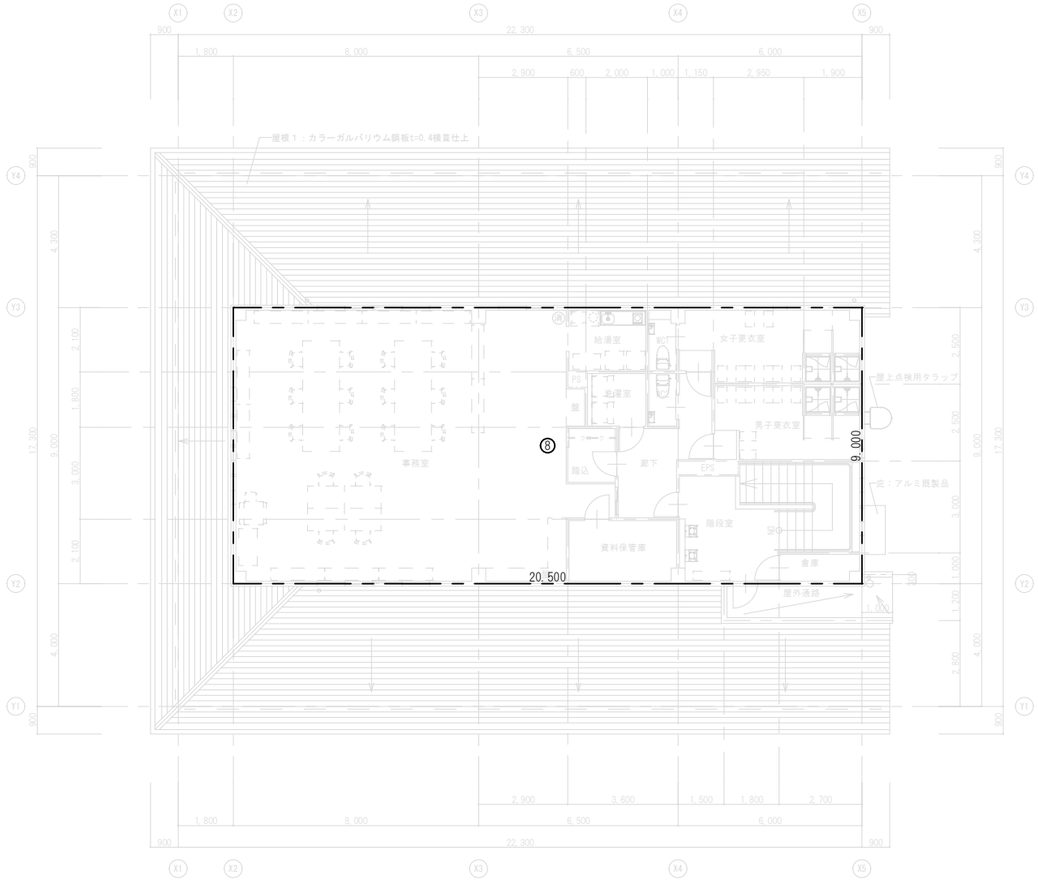
山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮尺
			設計年月日 2023.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北—仮称ビジターセンター）
図面名称　特記仕様書４
No. A-05



1階求積図 1/100



2階求積図 1/100

・・・建築面積参入部分

面積表

1階床面積

①	7.000	×	4.145	=	29.015000
②	7.550	×	4.300	=	32.465000
③	20.500	×	9.000	=	184.500000
④	16.500	×	4.000	=	66.000000
					311.980000

311.98㎡

2階床面積

⑧	20.500	×	9.000	=	184.500000
					184.500000

184.50㎡

延床面積

311.98 + 184.50 = 496.48㎡

建築面積

①	7.000	×	4.145	=	29.015000
②	7.550	×	4.300	=	32.465000
③	20.500	×	9.000	=	184.500000
④	16.500	×	4.000	=	66.000000
⑤	1.645	×	13.145	=	21.623525
⑥	5.950	×	4.145	=	24.662750
⑦	5.645	×	3.845	=	21.705025
					379.971300

379.97㎡

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/100 A3→1/200
					設計年月日 2023.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）

図面名称　建物求積図・床面積表

No. A-06

部位	仕上げ
屋根	屋根１：鉄骨母屋C-100*50*20*2.3、野地板：高圧木毛板t=20、アスファルトルーフィング940下地、カラーガルバリウム鋼板t=0.4横葺仕上、雪止めアングル：ＳＵＳ製塗装品（専用金具）
	屋根２：平場/合成高分子系ルーフィングシート防水断熱仕様 塩化ビニル樹脂系 t=1.5、硬質ウレタンフォームt=50、接着工法（非歩行・遮熱仕様）、コンクリート金ゴテ下地
	立上り/合成高分子系ルーフィングシート防水 塩化ビニル樹脂系 t=1.5、接着工法（非歩行・遮熱仕様）、硬質木片セメント板 t=18下地
	アルミ笠木W=200
樋・ドレイン	屋根１：軒樋/ガルバリウム製落葉除け一体型軒樋、竪樋/ガルバリウム製丸竪樋φ90
	屋根２：竪樋/アルミ製丸型（バンドレスタイプ）φ114、ドレイン/鋳鉄製横引ドレイン 100用
軒天	軒天：ケイカル板t=6.0 EP-G塗、LGS下地
	軒先換気金物：カラーガルバリウム鋼板製 既製品
破風・鼻隠し	カラーガルバリウム鋼板 t=0.4 曲げ加工、高圧木毛セメント板 t=25下地
庇	アルミ既製品 W1600×D700、先端樋付
外壁	外壁１：鉄骨胴縁C-100×50×20×2.3@600下地、断熱材:グラスウール24Kt=100、透湿防水シートt=0.2、通気木胴縁 15×90@600(タテ)、耐水合板t=12、
	アスファルトフェルト430、窯業系平型スレート（ラップ張り）
	外壁２：鉄骨胴縁C-100×50×20×2.3@600下地、断熱材:グラスウール24Kt=100、透湿防水シートt=0.2、通気胴縁金物、窯業系サイディング(セメント調)t=16横張り、アルミ水切金物
	アルミオーバーハング水切金物
	外壁３：鉄骨胴縁C-100×50×20×2.3@600下地、断熱材:グラスウール24Kt=100、透湿防水シートt=0.2、通気胴縁金物、窯業系サイディング(リブ)t=16横張り
	アルミオーバーハング水切金物
	外壁４：鉄骨胴縁C-100×50×20×2.3@600下地、断熱材:グラスウール24Kt=100、透湿防水シートt=0.2、耐水合板 t=12、木胴縁 15×45@300(タテ)
	外装用杉羽目板張り t=14 W=130 WP塗、アルミ水切金物
外巾木	コンクリート打放し補修
開口部	自動扉(エンジン内蔵)両引分け扉 見込100 アルミ引違い窓 FIXアルミサッシ アルミ外倒し窓(オペレーター付) 見込70 アルミフロントサッシ 見込100
	スチール製ドア 見込100
ガラス	FL6+A6+FL5 FL5+A6+FL3 F5+A6+FL3
ポーチ	床：磁器質300角タイル貼
	磁器質300角視覚障がい者用床タイル、ステンレス製点字鋲
	鉄骨柱：ＤＰ(3級)、床・柱取合部：コーキング
	天井：ケイカル板t=6.0 EP-G塗、LGS下地
団体客用スペース	床：コンクリート金ゴテ（勾配施工）、 目地@3000以内
	鉄骨柱：ＤＰ(3級)、床・柱取合部：コーキング
	天井：ケイカル板t=6.0 EP-G塗、LGS下地

部位	仕上げ
軒下通路	床：コンクリート金ゴテ（勾配施工）、薄層舗装吹付
	鉄骨柱：ＤＰ(3級)、床・柱取合部：コーキング
	天井：ケイカル板t=6.0 EP-G塗、LGS下地
	ＳＵＳ製床目地棒
テラス	床：コンクリート金ゴテ（勾配施工）、 目地@3000以内
	鉄骨化粧柱（意匠）：□150×150×6、ＤＰ(3級)、床・柱取合部：コーキング
	天井：ケイカル板t=6.0 EP-G塗、LGS下地
	手摺：ステンレス製 支柱 12×50@120 手摺 FB-12×50 H=800
屋外通路	床：平場/コンクリート金ゴテ下地、プライマーの上、ウレタン塗膜防水接着工法(X-2)、防滑性複層ビニル床シートt=2.5
	立上り/硬質木片セメント板 t=18下地、プライマーの上、ウレタン塗膜防水接着工法(X-2)
	壁/透湿防水シートt=0.2、通気胴縁金物、窯業系サイディング(セメント調)t=16横張り、アルミ水切金物
	笠木/アルミ笠木W=200、ドレイン/鋳鉄製中間ドレイン 100用
断熱材	床:押出法ポリスチレンフォームt=30、防湿ポリエチレンフィルム t=0.15 壁/グラスウール24Kt=100 天井/グラスウール24Kt=100
	屋根２：屋根仕様による
	外周部RC立上り（縦胴縁受）：吹付けウレタンフォームＡ種１ t=20
その他	太陽光発電パネル基礎：天端/コンクリート金ゴテ下地、プライマーの上、ウレタン塗膜防水接着工法(X-2)
	立上り/合成高分子系ルーフィングシート防水 塩化ビニル樹脂系 t=1.5、接着工法（非歩行・遮熱仕様）、アルミ製防水押エ金物
	屋上配線取り出し既成ユニット：下部・中間部/ＦＲＣ製、上部/高耐食性メッキ鋼板 t=1.0
	屋上点検用タラップ：ステンレス製タラップ、安全ガード、取付金物共
	排水側溝：U形側溝300、側溝蓋：ステンレス製グレーチング W=300 ノンスリップ・細目タイプ (T-2)
	集水桝：300×300、集水桝蓋：ステンレス製グレーチング 300×300 ノンスリップ・細目タイプ (T-2)
	定礎板：御影石 W400×H300×t20 文字彫込共

＜凡例（塗装記号）＞

・ＥＰ　　－　合成樹脂エマルションペイント
・ＥＰ－Ｇ　　－　つや有合成樹脂エマルションペイント
・ＳＯＰ　　－　合成樹脂調合ペイント
・ＯＳＣＬ　　－　オイルステイン・クリヤラッカー
・ＤＰ　　－　耐候性塗料塗り
・溶融亜鉛メッキ－　Ａ種(6mm以上)・Ｂ種(3.2mm以上)・Ｃ種(1.6mm以上)

＜メーカーリスト（同等品以上）＞

・カラーガルバリウム鋼板t=0.4横葺仕上：ダンツキルーフ１８２【元旦ビューティー工業】
・合成高分子系ルーフィングシート防水断熱仕様：１２６仕様【ロンシール工業】
・合成高分子系ルーフィングシート防水(立上り)：１１０仕様仕様【ロンシール工業】
・ガルバリウム製落葉除け一体型軒樋：元旦内樋【元旦ビューティー工業】
・軒先換気金物：FV-N06F-L27【城東テクノ】
・窯業系サイディング t=16(セメント調)：ＳＯＬＩＤ typeF facade【ＫＭＥＷ】
・窯業系平型スレート（ラップ張り）：ＳＯＬＩＤ typeM_LAP【ＫＭＥＷ】
・窯業系サイディング t=16(リブ)：モダンストライプ16【ＫＭＥＷ】
・磁器質300角タイル貼：コンテⅡ【LIXIL】
・防滑性複層ビニル床シート：ロンマットＭＥ ロゼッタ【ロンシール工業】
・屋上配線取り出し既成ユニット：ハトコット【昭和電工器材】
・薄層舗装吹付：塗布式ソイルコート 令和の路【アステス】

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北ー仮称ビジターセンター）
					設計年月日 2023.00.00	図面名称 外部仕上表

No. A-07

	室名	F L	床	巾木	壁 下地	壁 仕上	天井	廻り縁	天井高	備考
1階 ビジターセンター	エントランス	±0	磁器質300角タイル貼	アルミ H=60 木製 H=60 ＯＳＣＬ塗	ＬＧＳ ＬＧＳ ＬＧＳ	強化石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗 石膏ボード t=12.5下地、杉板本実張り t=12 W=130 ＣＬ 合板 t=12下地、窯業系平型スレート（ラップ張り）	ＬＧＳ下地 石膏ボード t=9.5 ＥＰ-Ｇ塗	塩ビ製	2,700	自動ドア防護柵：フレーム/SUS製、パネル/ポリカーボネート(クリア) W900×H1,000 ピクチャーレール：アルミ製（フック10個/箇所）、コーナー見切り材：杉 30×30 ＵＣ塗、スマートコーナー見切：GL既製品 下り壁見切：杉 30×30 ＵＣ塗
	通路	±0	磁器質300角タイル貼	アルミ H=60 木製 H=60 ＯＳＣＬ塗	ＬＧＳ ＬＧＳ	強化石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗 石膏ボード t=12.5下地、杉板本実張り t=12 W=130 ＣＬ	ＬＧＳ下地 石膏ボード t=9.5 ＥＰ-Ｇ塗	塩ビ製	2,700	自動ドア防護柵：フレーム/SUS製、パネル/ポリカーボネート(クリア) W900×H1,000 ピクチャーレール：アルミ製（フック10個/箇所） コーナー見切り材：杉 30×30 ＵＣ塗 下り壁見切：杉 30×30 ＵＣ塗
	受付	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60 木製 H=60 ＯＳＣＬ塗	ＬＧＳ ＬＧＳ	強化石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗 石膏ボード t=12.5下地、杉板本実張り t=12 W=130 ＣＬ	ＬＧＳ下地 石膏ボード t=9.5 ＥＰ-Ｇ塗	塩ビ製	2,500	コーナー見切り材：杉 30×30 ＵＣ塗 下り壁見切：杉 30×30 ＵＣ塗 消火器スタンド
	レクチャーホール	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート（木目調） t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	強化石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 石膏ボード t=9.5 捨張 ロックウール化粧吸音板 t=9.0	塩ビ製	2,700	カーテンボックス：木製 W150× H150、カーテンレール(W)、カーテン（遮光1級） プロジェクタースクリーン：天吊型手動昇降式 120インチ（16：9・マスク無）、天井埋込型プロジェクタースクリーンボックス：アルミ製 120インチ用 ピクチャーレール：アルミ製（フック10個/箇所） ＳＵＳ製床目地棒、消火器ボックス（壁埋込タイプ）
	レクチャーホール備品倉庫	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	
	廊下1	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	強化石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 石膏ボード t=9.5 ＥＰ-Ｇ塗	塩ビ製	2,500	
	倉庫(車椅子・ベビーカー置場)	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	
	授乳室	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	強化石膏ボード t=12.5 ビニルクロス 一部、防水石膏ボード t=12.5 木目調化粧ケイカル板 t=6（シール目地）	ＬＧＳ下地 石膏ボード t=9.5 ビニルクロス	塩ビ製	2,500	アルミ製壁見切 天井吊りカーテンレール、メディカルカーテンH1850×W1100 ライニング：ＬＧＳ１００下地、甲板：メラミン化粧板 t=20 D=150
	授乳スペース	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	強化石膏ボード t=12.5 ビニルクロス	ＬＧＳ下地 石膏ボード t=9.5 ビニルクロス	塩ビ製	2,500	
	授乳兼救護スペース	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	強化石膏ボード t=12.5 ビニルクロス	ＬＧＳ下地 石膏ボード t=9.5 ビニルクロス	塩ビ製	2,500	
	職員玄関	±0	セルフレベリング下地 t=10 防滑性ビニル床シート t=2.5	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,150 2,650	上り框：SUS製 150×50 ステンレスポールφ32 天吊用ブラケット金物6ヶ所 下り壁見切：塩ビ製
	廊下2	+150	シンダーコンクリートt=150 金ゴテ押え下地 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500 2,550	
	階段下収納	+150	シンダーコンクリートt=150 金ゴテ押え下地 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	スチール ＳＯＰ塗		—	上り框：SUS製 150×50 三方枠：スチール製 SOP t=25 W800×H1400 壁付カーテンレール(S)、カーテン
	男子便所	±0	磁器質150角タイル貼	アルミ H=60	ＬＧＳ	防水石膏ボード t=12.5下地、木目調化粧ケイカル板 t=6（シール目地）	ＬＧＳ下地 ケイカル板 t=6 ＥＰ-Ｇ塗	塩ビ製	2,500	ライニング：ＬＧＳ１００下地、甲板：メラミン化粧板 t=20 D=150 汚垂石：磁器質600×900角タイル貼、三方枠：スチール製 DP t=25 W1000×H2000、化粧鏡 W2440×H800 壁：グラスウール24K t=100充填、天井：グラスウール24K t=100敷込、ＳＵＳ製床目地棒、洗面カウンター（機械設備工事） ステンレス製樹脂被覆Ｌ型手摺（機械設備工事）、ステンレス製樹脂被覆小便器手摺（機械設備工事）、ベビーチェア（機械設備工事）
	女子便所	±0	磁器質150角タイル貼	アルミ H=60	ＬＧＳ	防水石膏ボード t=12.5下地、木目調化粧ケイカル板 t=6（シール目地）	ＬＧＳ下地 ケイカル板 t=6 ＥＰ-Ｇ塗	塩ビ製	2,500	ライニング：ＬＧＳ１００下地、甲板：メラミン化粧板 t=20 D=150 三方枠：スチール製 DP t=25 W1000×H2000 壁：グラスウール24K t=100充填、天井：グラスウール24K t=100敷込、ＳＵＳ製床目地棒、化粧鏡 W2430×H800 ステンレス製樹脂被覆Ｌ型手摺（機械設備工事）、ベビーチェア（機械設備工事）、洗面カウンター（機械設備工事）
	だれでもトイレ	±0	磁器質150角タイル貼	アルミ H=60	ＬＧＳ	防水石膏ボード t=12.5下地、化粧ケイカル板 t=6（シール目地） 防水石膏ボード t=12.5二重張り下地、化粧ケイカル板 t=6（シール目地）	ＬＧＳ下地 ケイカル板 t=6 ＥＰ-Ｇ塗	塩ビ製	2,500	多機能トイレ（オストメイト・乳幼児連れ配慮在来プラン）（機械設備工事） 壁：グラスウール t=100充填、天井：グラスウール t=100敷込 ＳＵＳ製床目地棒
	掃除具庫	±0	モルタル金ゴテ	アルミ H=60	ＬＧＳ	防水石膏ボード t=12.5下地、化粧ケイカル板 t=6（シール目地）	ＬＧＳ下地 ケイカル板 t=6 ＥＰ-Ｇ塗	塩ビ製	2,500	

＜凡例（下地記号）＞
- Ｃ ：コンクリート
- ＣＢ ：コンクリートブロック t=100・120
- ＬＧＳ：軽量鉄骨下地 壁：65・100型 @303・455、天井：25型（外部） @303・360・19型（内部） @303・360

＜内装準不燃・不燃番号＞

・石膏ボード t=12.5	建告第1400号 第1-15
・強化石膏ボード t=12.5	NM-8615
・防水石膏ボード t=12.5	NM-1498
・化粧ケイカル板 t=6	NM-1453
・木目調化粧ケイカル板 t=6	NM-1453
・石膏ボード t=9.5	QM-9828
・化粧石膏ボード t=9.5	QM-0524
・ケイカル板 t=6	NM-3522

＜その他＞
- 塗装仕上げを行うボードの継目部分は、ジョイントテープなどを使用し目地処理を行うこと。
- 天井点検口については電気・機械設備工事とする。
- 使用材料は、ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆ とする。
- ステンレスは、特記なき限りＨＬ仕上とする。
- ビニル床シートは、耐湿工法とする。
- 木製造作材仕様は下記のとおりとする。
  額縁・三方枠：MDF基材（シート化粧） t=25
  カーテンボックス：MDF基材（シート化粧）
- 天井下地は、屋外LGS25型、屋内LGS19型とする。
- ライニング下地はLGS100型とする。
- 手摺・衛生器具・家具等の取付部は下地補強を施す。
- 耐水合板はＴ１とし、合板はＴ２とする。
- 屋内壁外周部・柱型下地は、ＬＧＳ19型とする。

＜メーカーリスト（同等品以上）＞
- 磁器質300角タイル貼：コンテⅡ【LIXIL】
- 磁器質150角タイル貼：レストルームキラミック ドライ清掃タイプ【LIXIL】
- 磁器質600×900角タイル貼：キラミックステップスリム【LIXIL】
- ビニル床シート（木目調）：ロンMoku【ロンシール工業】
- 防滑性ビニル床シート：ロンマットME カステル【ロンシール工業】
- 防汚性ビニル床シート：サニタリウムN【ロンシール工業】
- 消火器スタンド：UFB-3F-3027-PWH-R【ユニオン】
- 消火器ボックス（壁埋込タイプ）：UFB-1F-2001N-PWH【ユニオン】

＜化学物質の濃度測定箇所＞ 主要居室：計６ヶ所
- レクチャーホール/２ヶ所
- 事務室/２ヶ所
- 受付/１ヶ所
- 授乳兼救護スペース/１ヶ所

特記事項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮尺
			設計年月日 2023.00.00

工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北ー仮称ビジターセンター）

図面名称 内部仕上表１

No. A-08

	室名	F L	床	巾木	壁 下地	壁 仕上	天井	廻り縁	天井高	備考
2階 ビジターセンター	廊下	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	
	事務室	±0 +100	コンクリート金ゴテ下地 防塵塗装 ＯＡフロア H=100 タイルカーペット t=6.5 500角 踏込・クローク：セルフレベリング下地 t=10、ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 石膏ボード t=9.5 捨張 ロックウール化粧吸音板 t=9.0	塩ビ製	2,700 2,800 2,000(ｸﾛｰｸ)	上り框：SUS製 100×50 クローク：ステンレスポールφ32 天吊用ブラケット金物3ヶ所 下り壁見切：塩ビ製、ブラインド W3670×H1460(AW4)・W1800×H1460(AW5)・W3810×H660(AW6) 消火器スタンド
	給湯室	+100	コンクリート金ゴテ下地 乾式二重床 H=100 パーティクルボード t=20 合板 t=12.0下地 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	ミニキッチン：W1500 詳細図参照 三方枠：木製 t=25 W800×H2000 ＳＵＳ製床目地棒
	資料保管庫	+100	コンクリート金ゴテ下地 乾式二重床 H=100 パーティクルボード t=20 合板 t=12.0下地 **タイルカーペット t=6.5 500角**	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	
	洗濯室	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗 一部、防水石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	ライニング：ＬＧＳ１００下地、甲板：メラミン化粧板 t=20 D=150
	ＷＣ1	±0	セルフレベリング下地 t=10 防汚性ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	甲板：メラミン化粧板 t=20 D=300 壁：グラスウール24K t=50充填、天井：グラスウール t=100敷込
	ＷＣ2	±0	セルフレベリング下地 t=10 防汚性ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	壁：グラスウール24K t=50充填、天井：グラスウール t=100敷込
	女子更衣室	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	シャワーユニット0808：詳細図参照 ＳＵＳ製床目地棒 天井吊りカーテンレール、メディカルカーテンH1850×W900 シャワーユニット開口枠：樹脂製４方枠
	男子更衣室	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	シャワーユニット0808：詳細図参照 ＳＵＳ製床目地棒 天井吊りカーテンレール、メディカルカーテンH1850×W900 シャワーユニット開口枠：樹脂製４方枠
	倉庫	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	
	階段室	±0	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0	ソフト H=60	ＬＧＳ ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗 防水石膏ボード t=12.5下地、化粧ケイカル板 t=6（シール目地）	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	2,500	ライニング：ＬＧＳ１００下地、甲板：メラミン化粧板 t=20 D=185 アルミ製壁見切
ビジターセンター 1～2階	階段		踏面：モルタル金ゴテ t=30（溶接金網 φ6-100×100） ビニル床シート t=2.0 蹴上：ビニル床シート t=2.0 ササラ（スチール）：ＳＯＰ塗		ＬＧＳ	石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗	ＬＧＳ下地 化粧石膏ボード t=9.5	塩ビ製	―	樹脂製階段手摺 φ34（ブラケット共） Ｌ型エンドキャップ、アルミ製ノンスリップ（ビニルタイヤ付） フラットエンド有 手摺笠木：タモ集成材 t=30 W=145・183 ＵＣ塗 甲板：タモ集成材 t=30 D=240 ＵＣ塗

特記事項

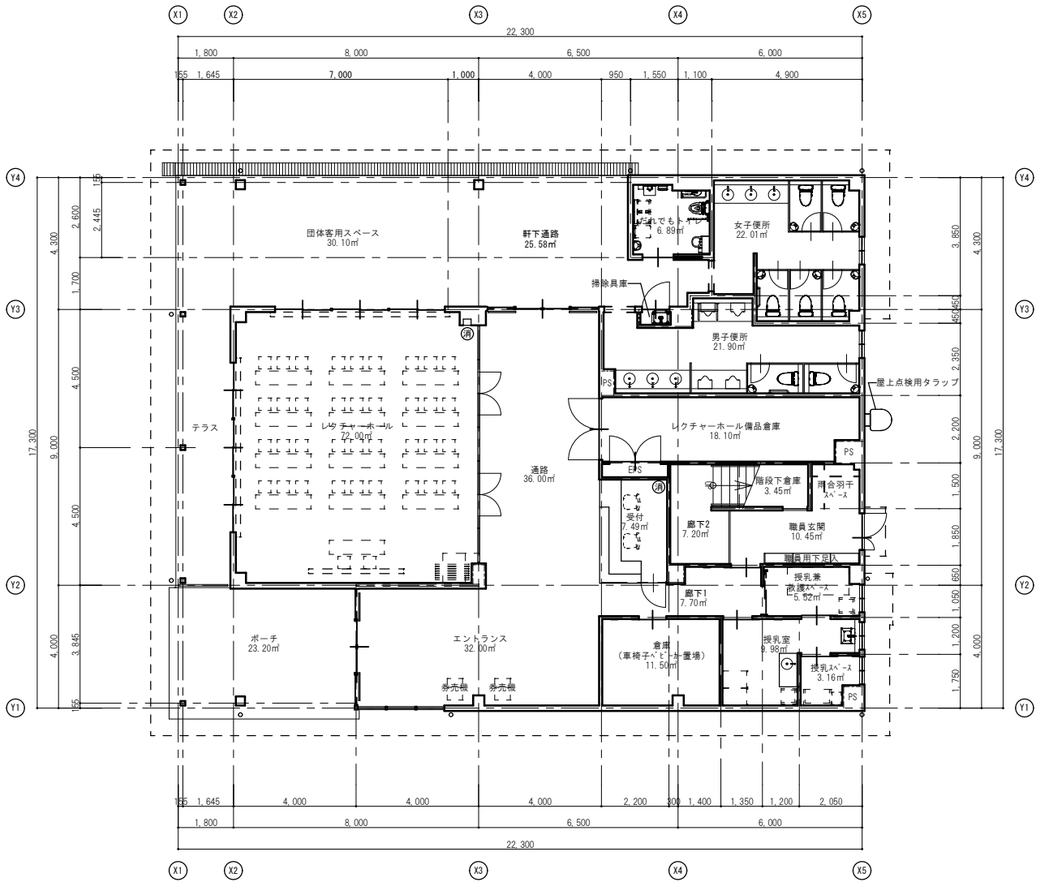
山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮尺
			設計年月日 2023.00.00

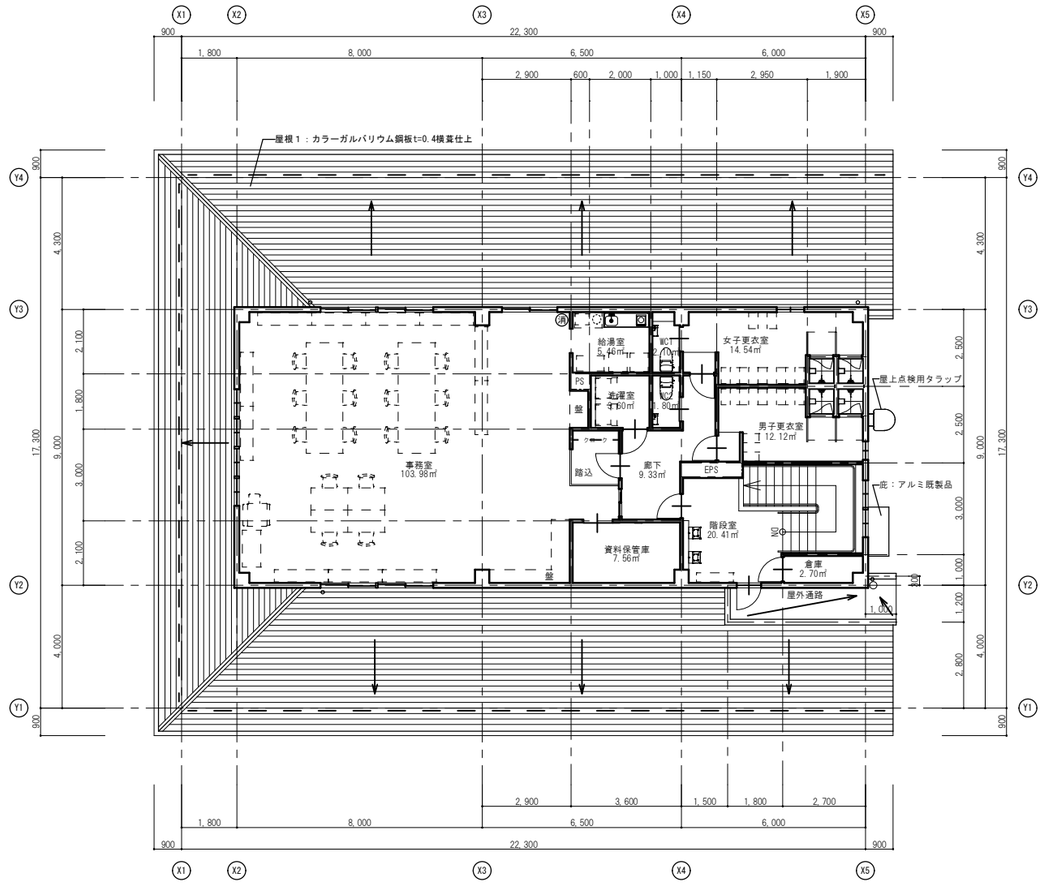
工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）

図面名称 内部仕上表２

No. A-09

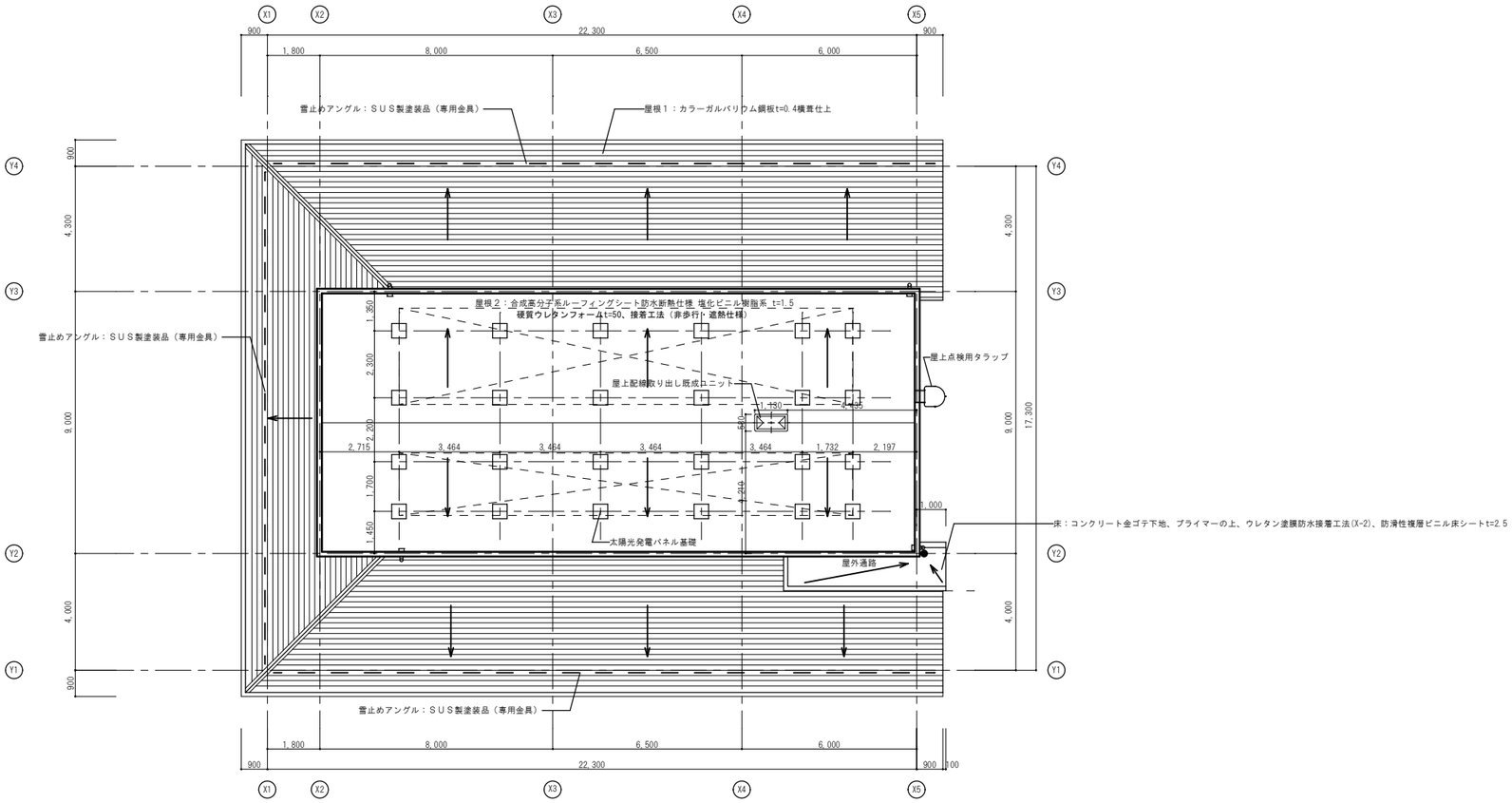


1階平面図 1/100



2階平面図 1/100

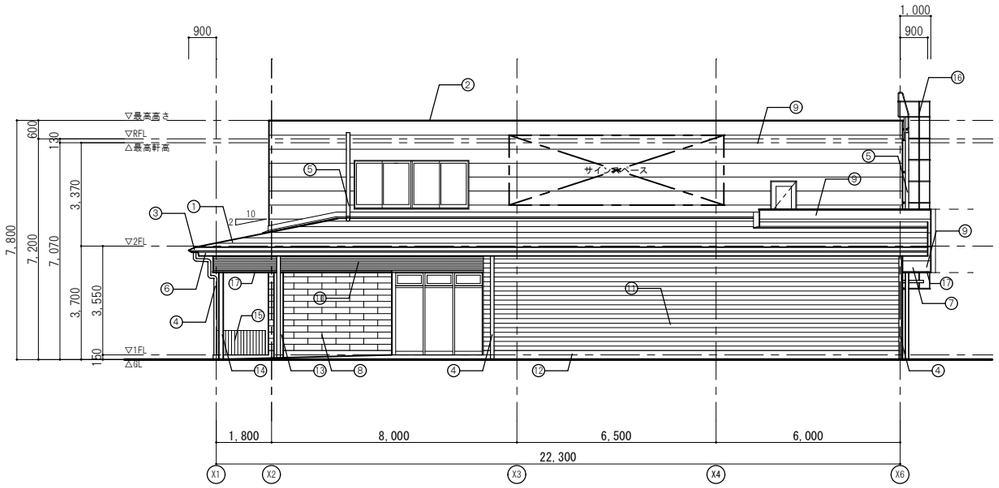
特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/100 A3→1/200 設計年月日 2023.00.00	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター） 図面名称 平面図	No. A-10



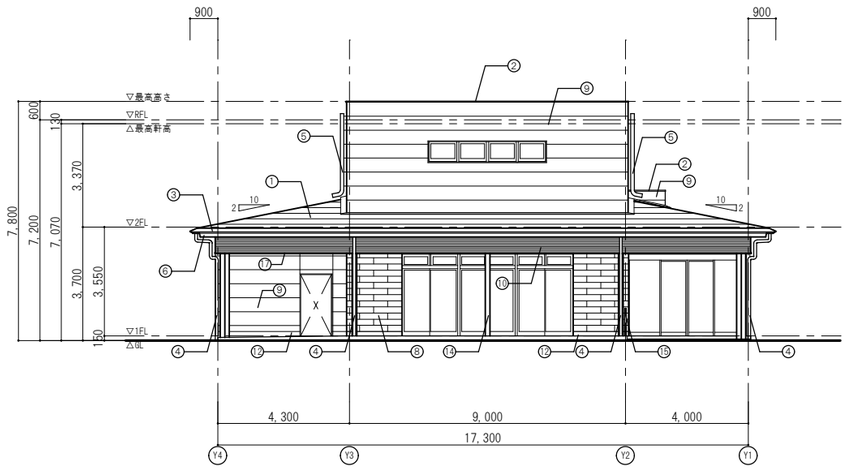
屋根伏図 1/100

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/100 A3→1/200	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北ー仮称ビジターセンター）
					設計年月日 2023.00.00	図面名称 屋根伏図
						No. A-11

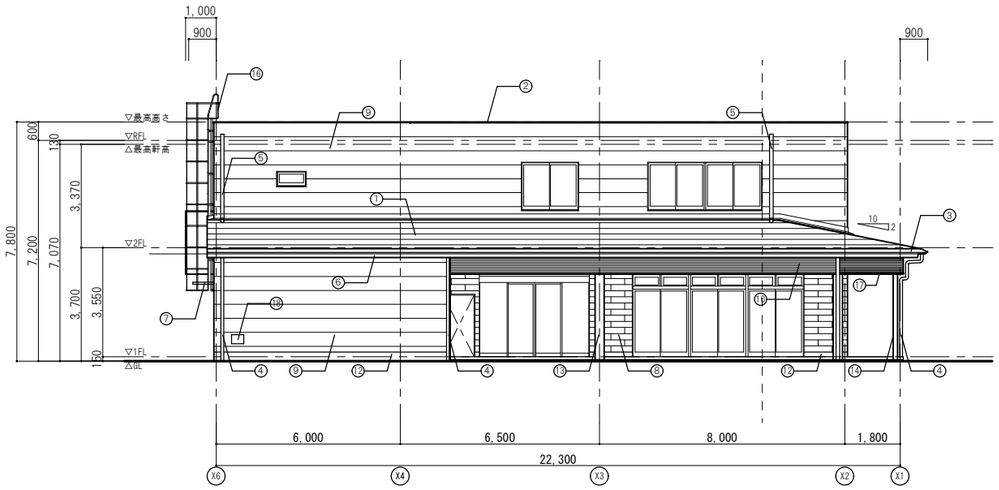
記号	部位	仕　上	記号	部位	仕　上	記号	部位	仕　上
①	屋根1	カラーガルバリウム鋼板t=0.4横葺仕上	⑦	庇	アルミ既製品　W1600×D700、先端種付	⑬	鉄骨柱	ＤＰ(3級)
②	笠木	アルミ笠木 W=200	⑧	外壁1	窯業系平型スレート（ラップ張り）	⑭	鉄骨化粧柱	ＤＰ(3級)
③	軒樋	ガルバリウム製落葉除け一体型軒樋	⑨	外壁2	窯業系サイディング(セメント調)t=16横張り	⑮	手摺	ステンレス製　支柱 12×50@120　手摺 FB-12×50　H=800
④	竪樋	ガルバリウム製丸竪樋φ90	⑩	外壁3	窯業系サイディング t=16(リブ)横張り	⑯	タラップ	ステンレス製タラップ、安全ガード、取付金物共
⑤	竪樋	アルミ製丸型（バンドレスタイプ）φ114	⑪	外壁4	外装用杉羽目板張り t=14 W=130　WP塗	⑰	水切	アルミオーバーハング水切金物
⑥	破風鼻隠し	カラーガルバリウム鋼板 t=0.4 曲げ加工、高圧木毛セメント板 t=25下地	⑫	外巾木	コンクリート打放し補修	⑱	定礎板	御影石 W400×H300×t20 文字彫込共



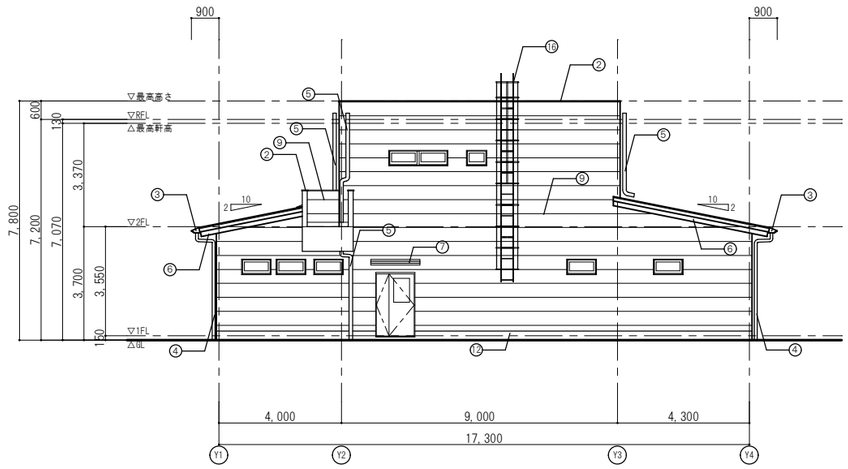
南側立面図 1/100



西側立面図 1/100



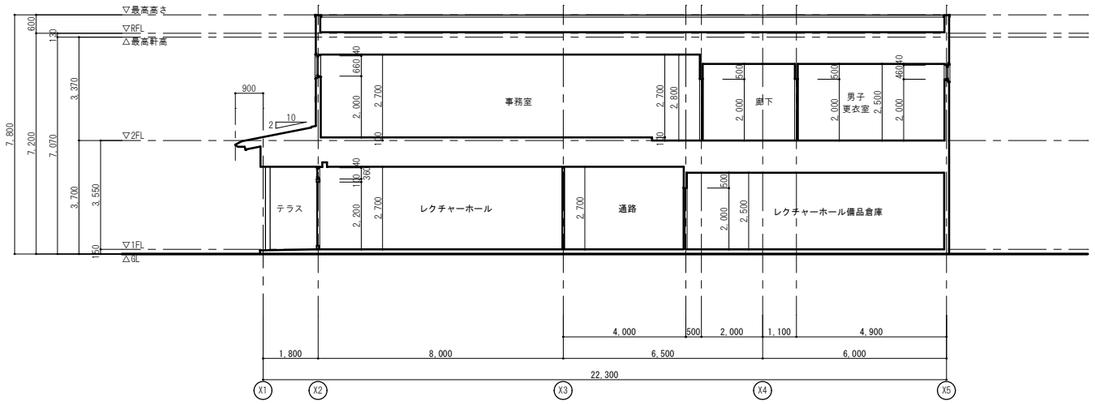
北側立面図 1/100



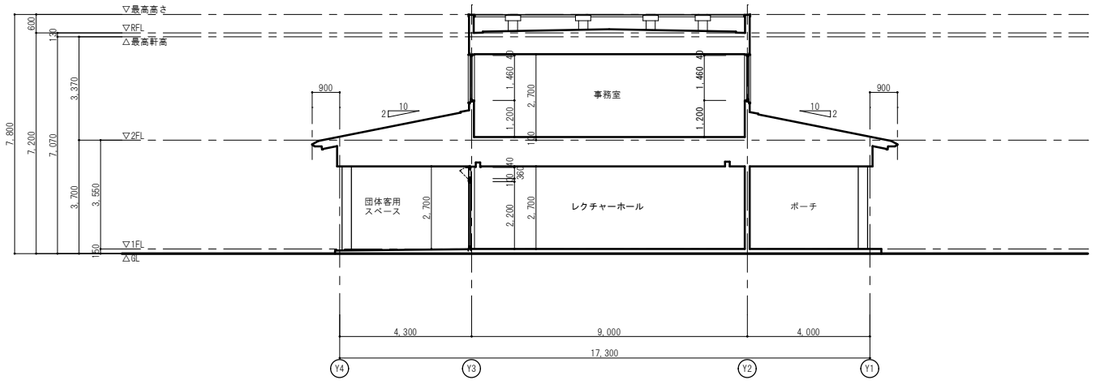
東側立面図 1/100

特　記	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮　尺 A1→1/100 A3→1/200	工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）
事　項					設計年月日 2023.00.00	図面名称　立面図

No. A-12

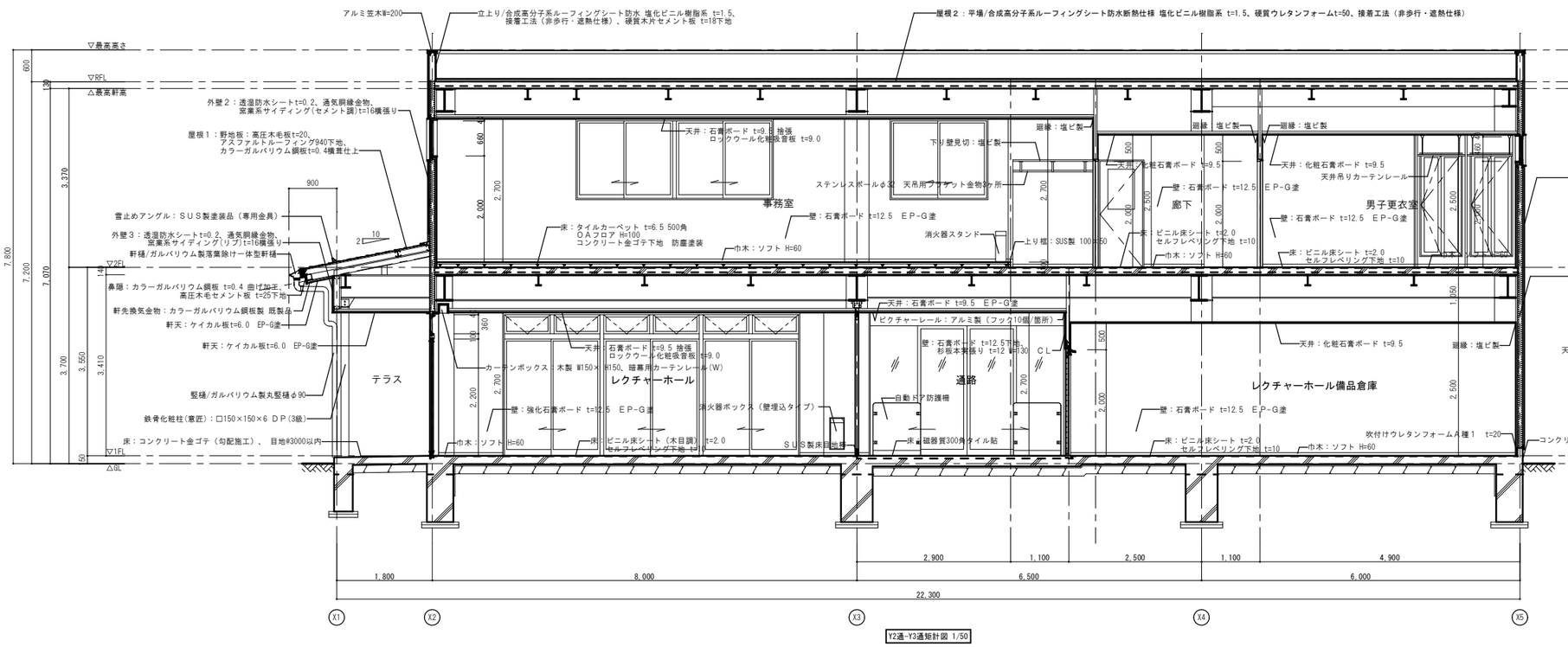


Y2通-Y3通断面図 1/100

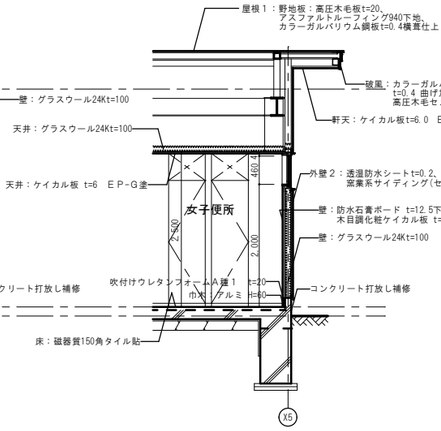


X2通-X3通断面図 1/100

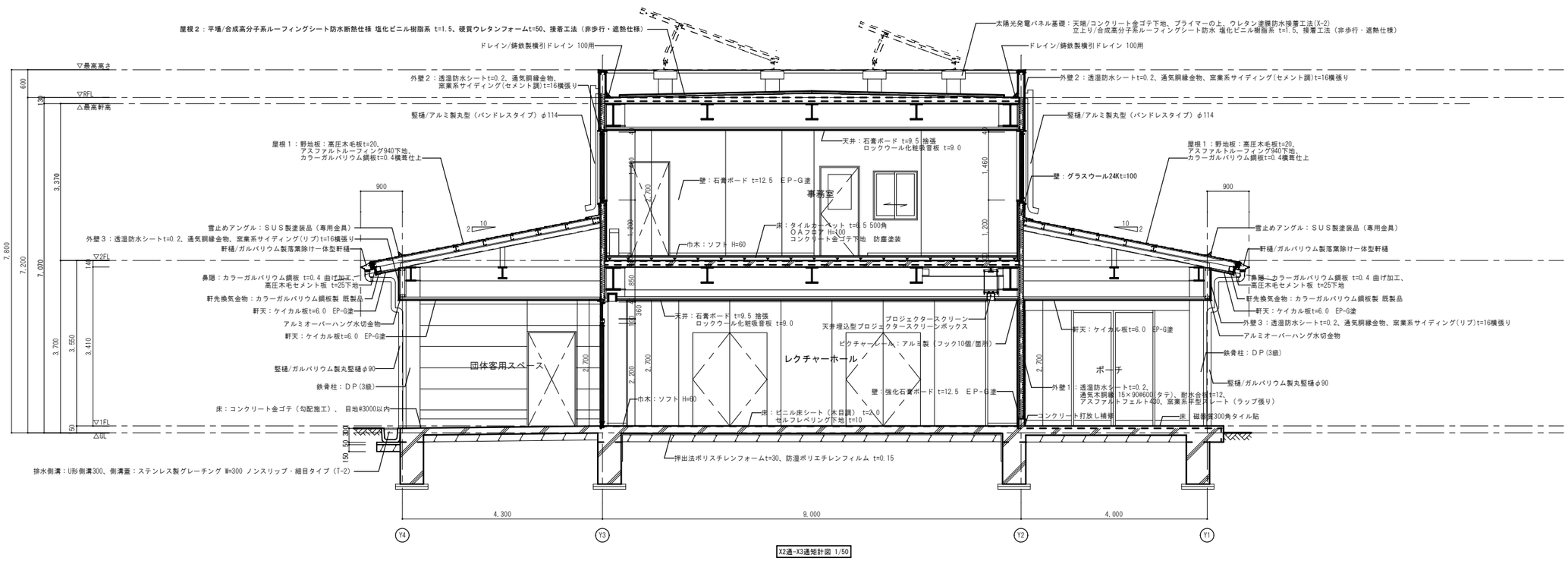
特　記 事　項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮　尺 A1→1/100 A3→1/200 設計年月日 2023.00.00	工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター） 図面名称　断面図	No. A-13



Y2通-Y3通矩計図 1/50



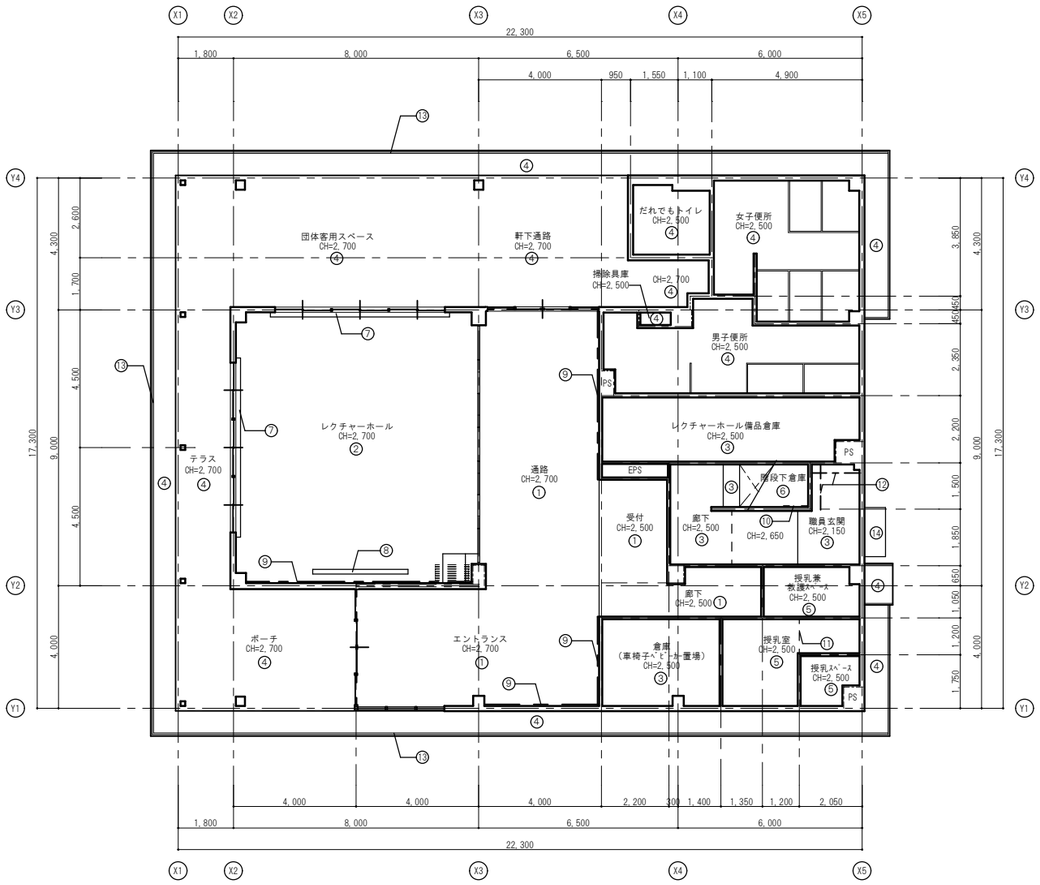
Y3通-Y4通矩計図 1/50



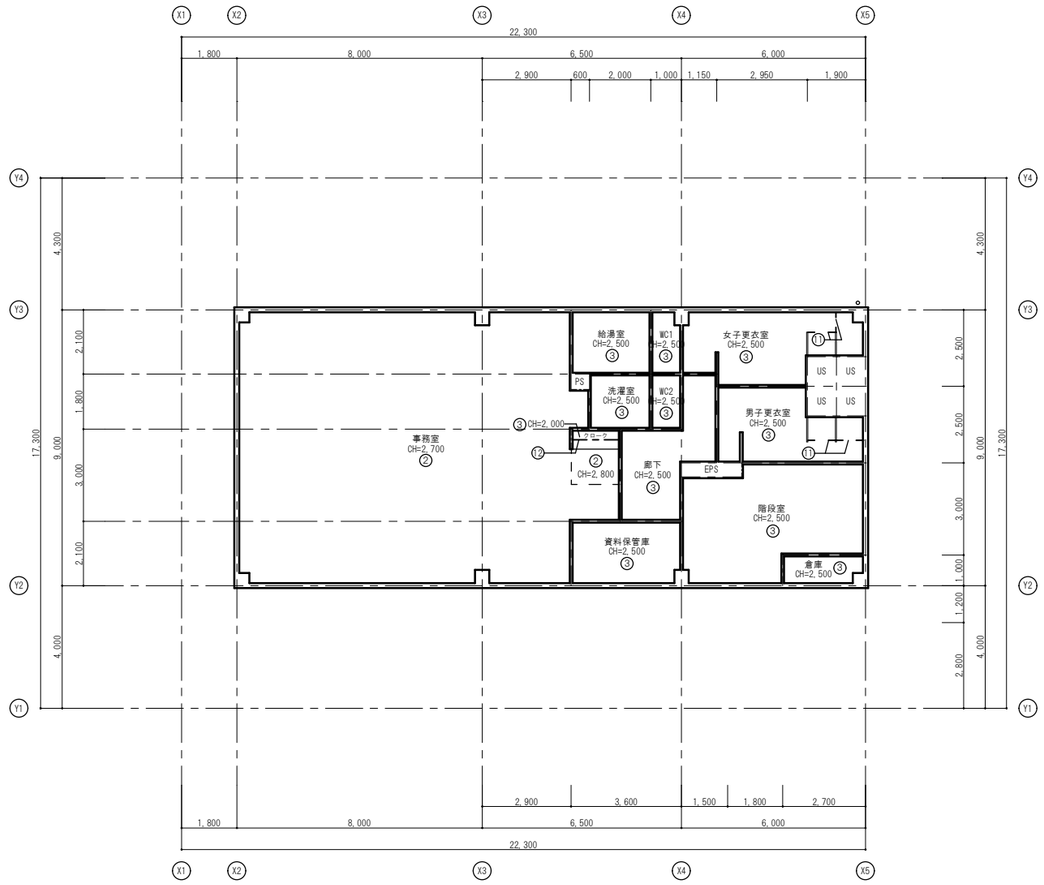
X2通-X3通矩計図 1/50

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/50 A3→1/100 設計年月日 2023.00.00	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター） 図面名称 矩計図	No. A-14

記号	仕　上	記号	仕　上	記号	仕　上
①	石膏ボード t=9.5　ＥＰ-Ｇ塗	⑦	カーテンボックス：木製 W150× H150 カーテンレール(W)	⑬	軒先換気金物：カラーガルバリウム鋼板製 既製品
②	ロックウール化粧吸音板 t=9.0	⑧	プロジェクタースクリーン：天吊型手動昇降式 120インチ（16：9・マスク無） 天井埋込型プロジェクタースクリーンボックス：アルミ製 120インチ用	⑭	庇：アルミ既製品　W1600×D700、先端樋付
③	化粧石膏ボード t=9.5	⑨	ピクチャーレール：アルミ製（フック10個/箇所）		
④	ケイカル板 t=6　ＥＰ-Ｇ塗	⑩	壁付カーテンレール(Ｓ)		
⑤	ビニルクロス	⑪	天井吊りカーテンレール		
⑥	スチール　ＳＯＰ塗	⑫	ステンレスポールφ32　天吊用ブラケット金物共		

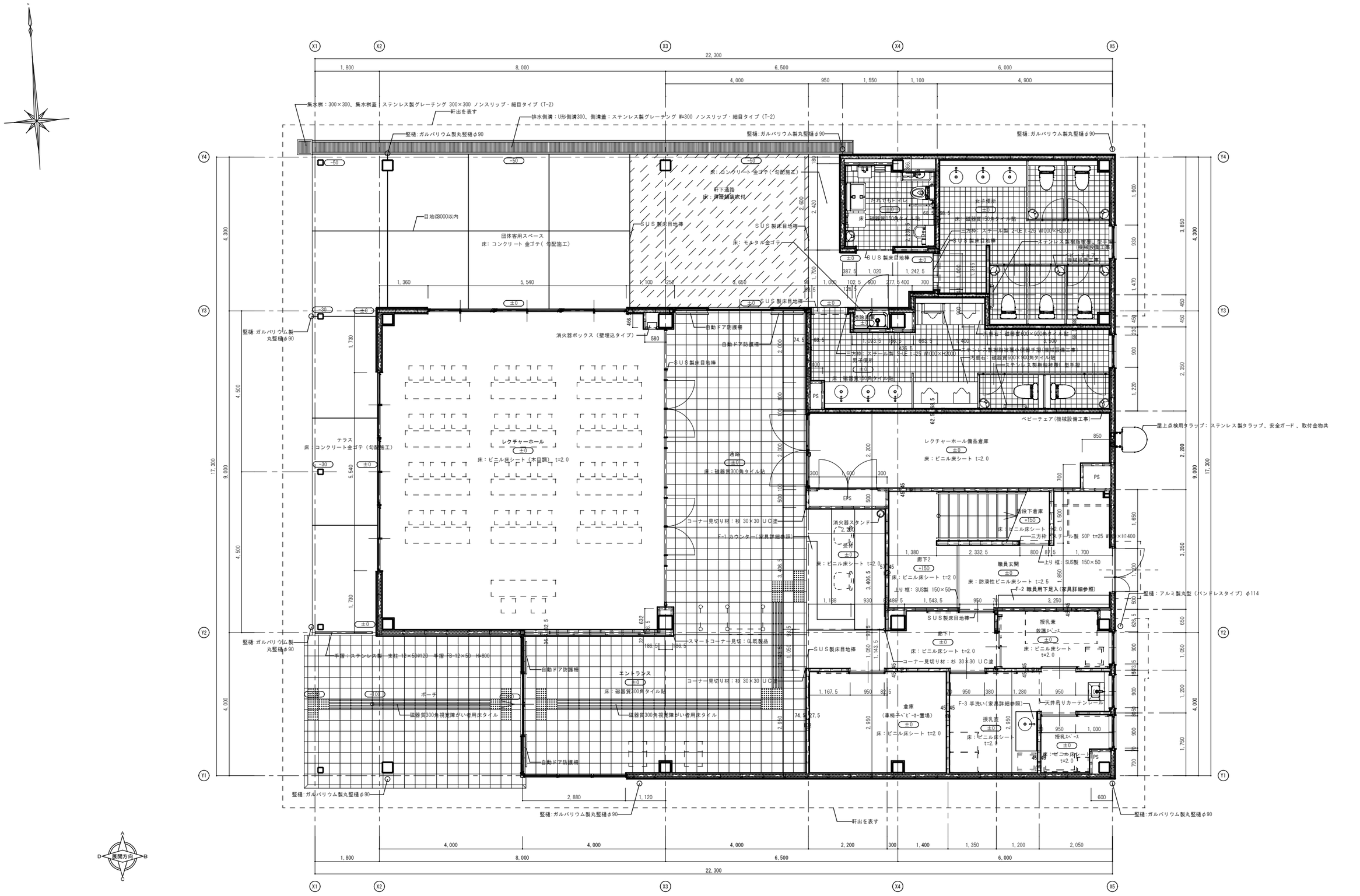


1階天井伏図 1/100

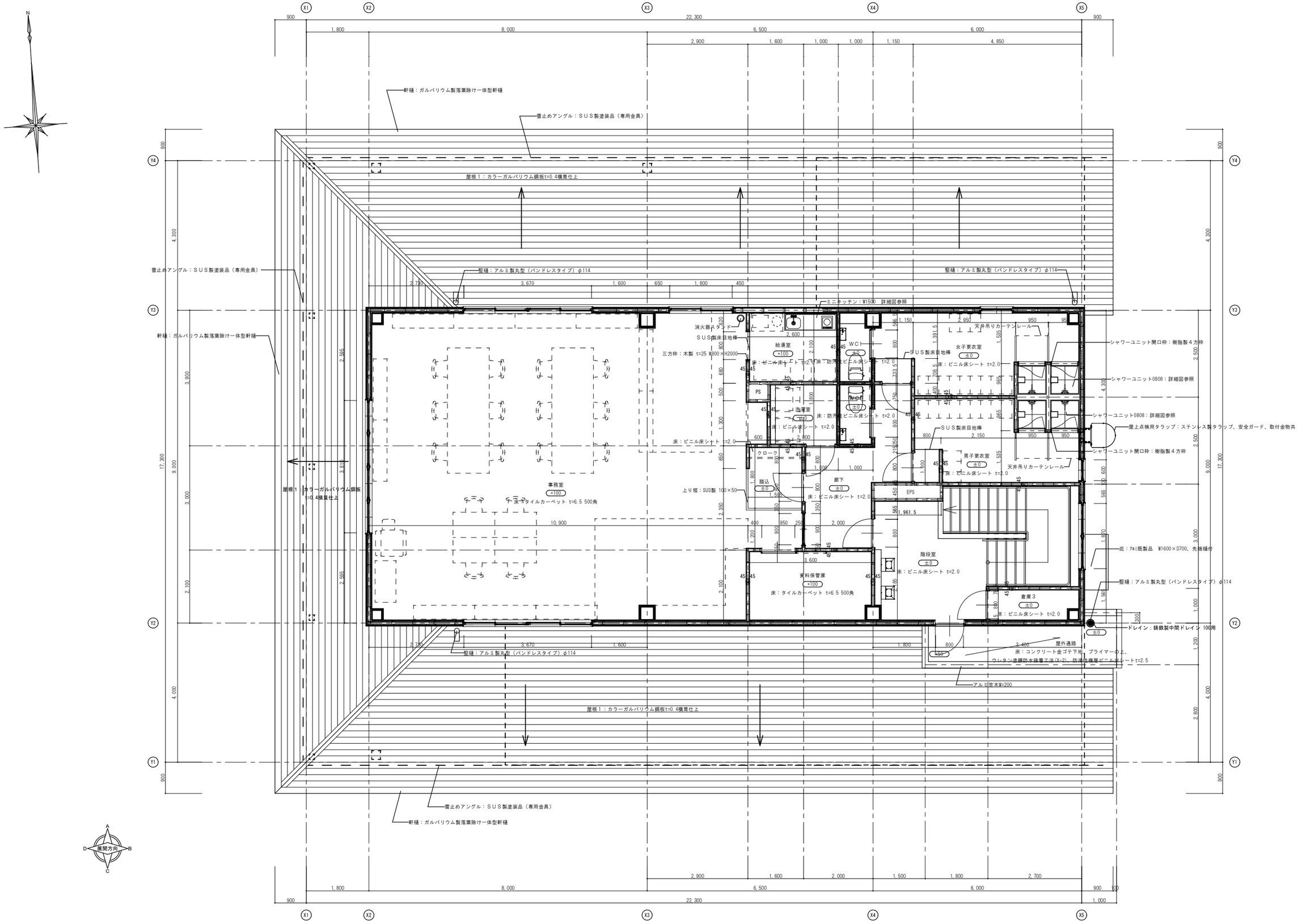


2階天井伏図 1/100

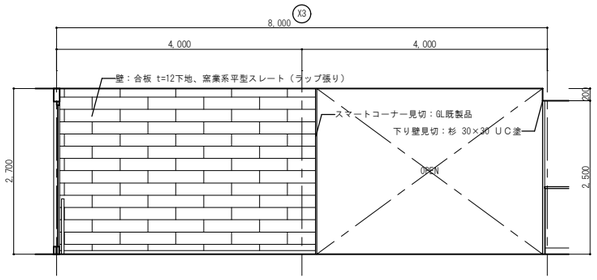
特　記 事　項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮　尺 A1→1/100 A3→1/200 設計年月日 2023.00.00	工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター） 図面名称　天井伏図	No. A-15



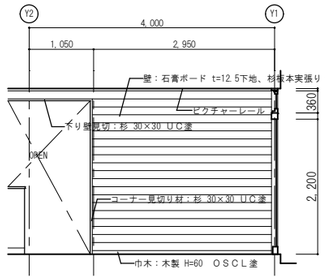
特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/50 A3→1/100	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）	No. A-16
					設計年月日 2023.00.00	図面名称 1階平面詳細図	



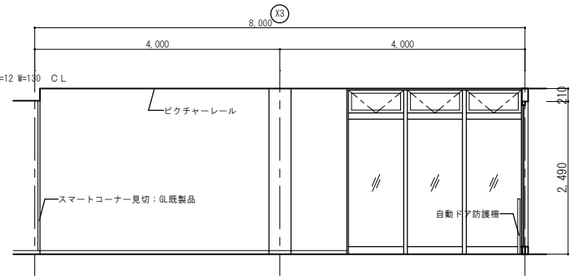
特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/50 A3→1/100	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北ー仮称ビジターセンター）	No. A-17
					設計年月日 2023.00.00	図面名称 ２階平面詳細図	



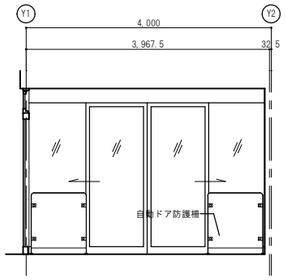
エントランス　A



エントランス　B



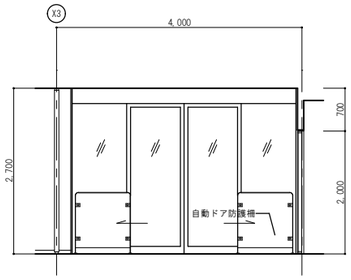
エントランス　C



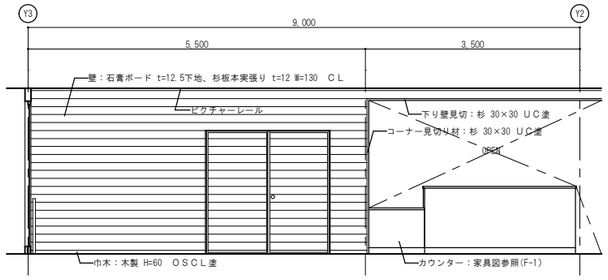
エントランス　D

エントランス	
床	磁器質300角タイル貼
巾　木	アルミ H=60
壁	LGS下地 強化石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 石膏ボード t=9.5　ＥＰ-Ｇ塗 塩ビ製廻り縁

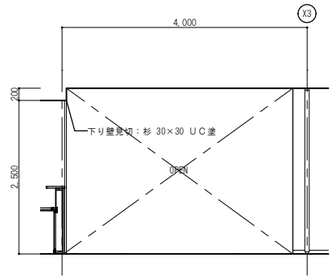
註）特記なき仕上は、上記表による。



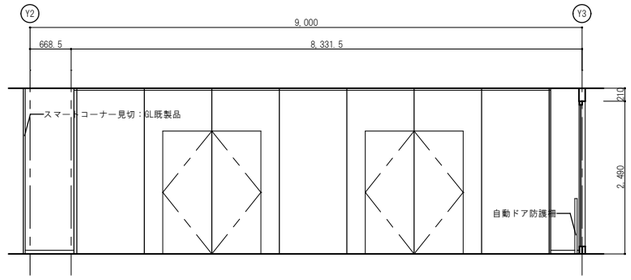
通路　A



通路　B



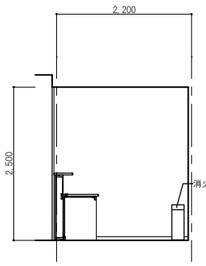
通路　C



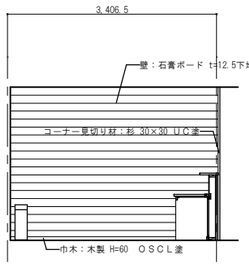
通路　D

通路	
床	磁器質300角タイル貼
巾　木	アルミ H=60
壁	LGS下地 強化石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 石膏ボード t=9.5　ＥＰ-Ｇ塗 塩ビ製廻り縁

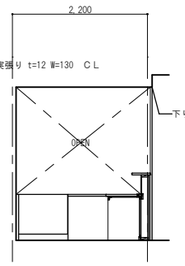
註）特記なき仕上は、上記表による。



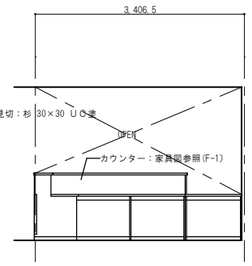
受付　A



受付　B



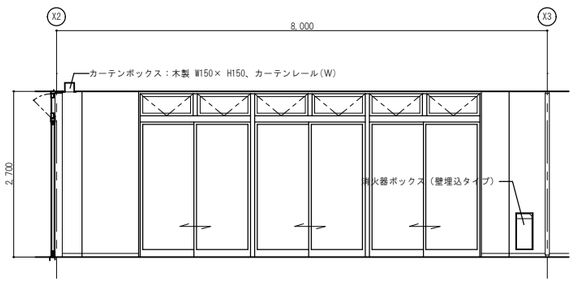
受付　C



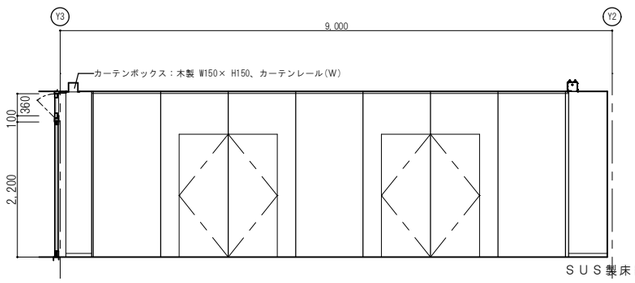
受付　D

受付	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 強化石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 石膏ボード t=9.5　ＥＰ-Ｇ塗 塩ビ製廻り縁

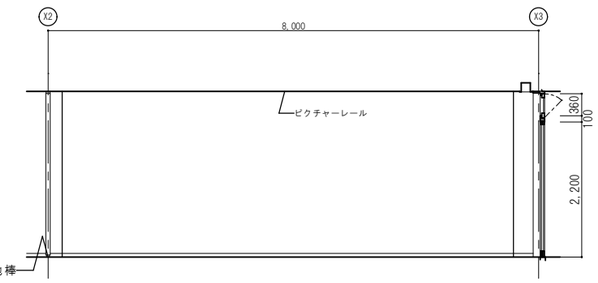
註）特記なき仕上は、上記表による。



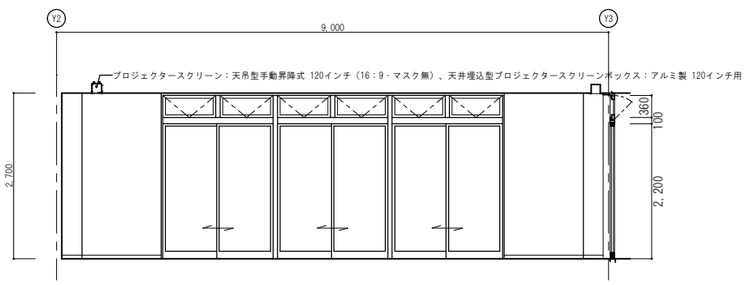
レクチャーホール　A



レクチャーホール　B



レクチャーホール　C



レクチャーホール　D

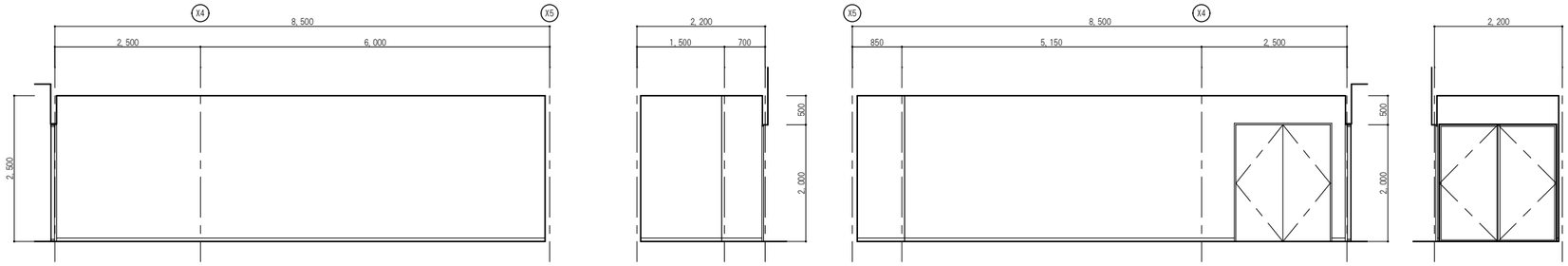
レクチャーホール	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート（木目調） t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 強化石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地、石膏ボード t=9.5 捨張 ロックウール化粧吸音板 t=9.0 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。

特　記
事　項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮　尺	工事名称	遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）	No.
			A1→1/50 A3→1/100			A-18
			設計年月日 2023.00.00	図面名称	展開図１	



レクチャーホール備品倉庫　A

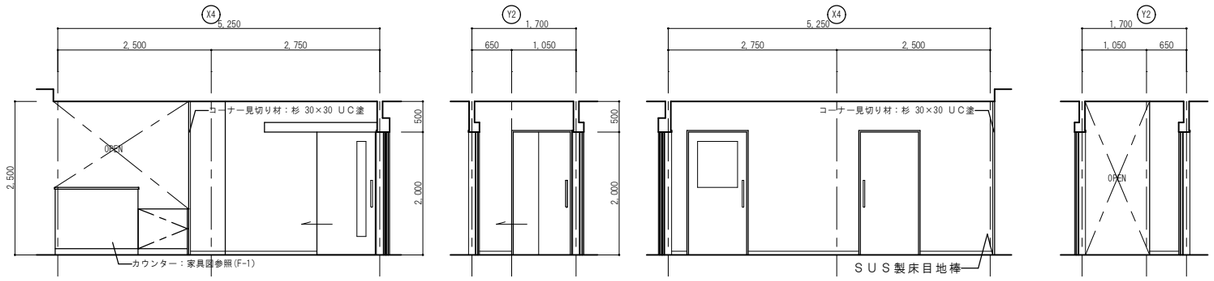
レクチャーホール備品倉庫　B

レクチャーホール備品倉庫　C

レクチャーホール備品倉庫　D

レクチャーホール備品倉庫	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。



廊下1　A

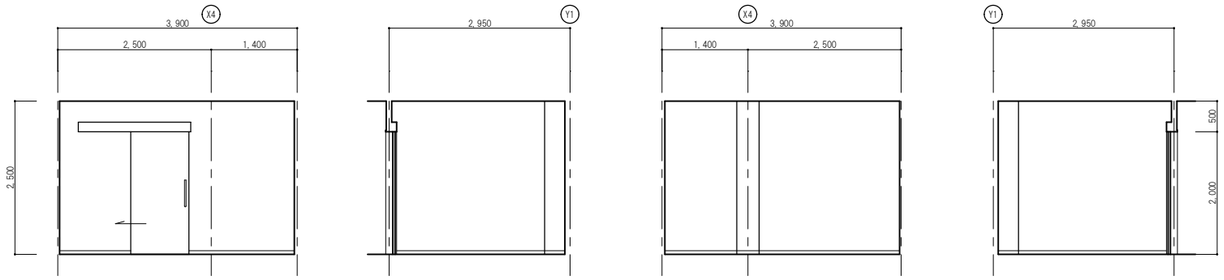
廊下1　B

廊下1　C

廊下1　D

廊下1	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 強化石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 石膏ボード t=9.5　ＥＰ-Ｇ塗 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。



倉庫(車椅子ﾍﾞﾋﾞｰｶｰ置場)　A

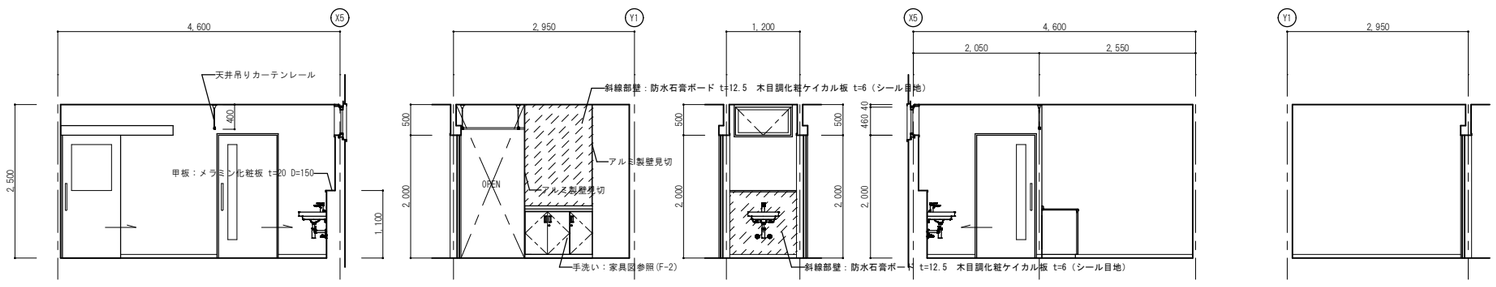
倉庫(車椅子ﾍﾞﾋﾞｰｶｰ置場)　B

倉庫(車椅子ﾍﾞﾋﾞｰｶｰ置場)　C

倉庫(車椅子ﾍﾞﾋﾞｰｶｰ置場)　D

倉庫(車椅子ﾍﾞﾋﾞｰｶｰ置場)	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。



授乳室　A

授乳室　B

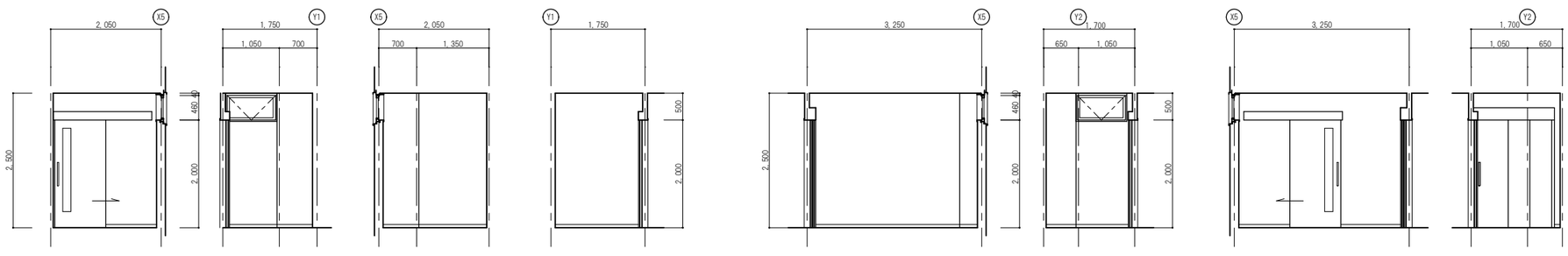
授乳室　B

授乳室　C

授乳室　D

授乳室	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 強化石膏ボード t=12.5　ビニルクロス
天　井	LGS下地 石膏ボード t=9.5　ビニルクロス 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。



授乳スペース　A

授乳スペース　B

授乳スペース　C

授乳スペース　D

授乳兼救護スペース　A

授乳兼救護スペース　B

授乳兼救護スペース　C

授乳兼救護スペース　D

授乳スペース	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 強化石膏ボード t=12.5　不燃ビニルクロス
天　井	LGS下地 石膏ボード t=9.5　ビニルクロス 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。

授乳兼救護スペース	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 強化石膏ボード t=12.5　不燃ビニルクロス
天　井	LGS下地 石膏ボード t=9.5　ビニルクロス 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。

特　記
事　項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

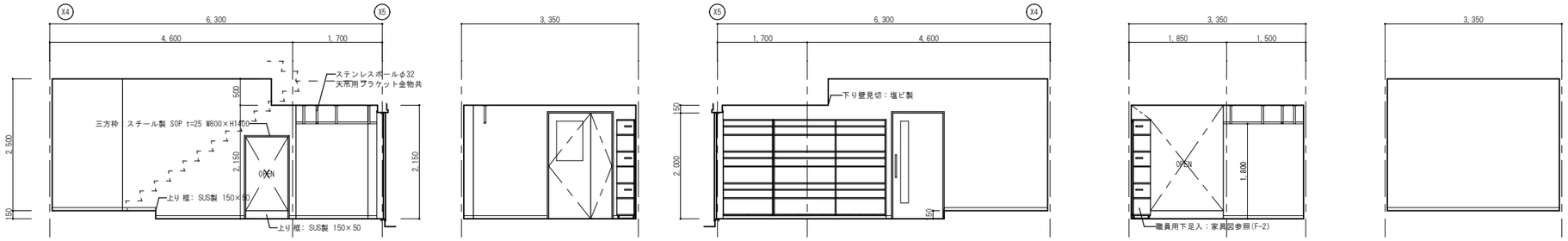
縮　尺　A1→1/50 A3→1/100

設計年月日　2023.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）

図面名称　展開図２

No. A-19



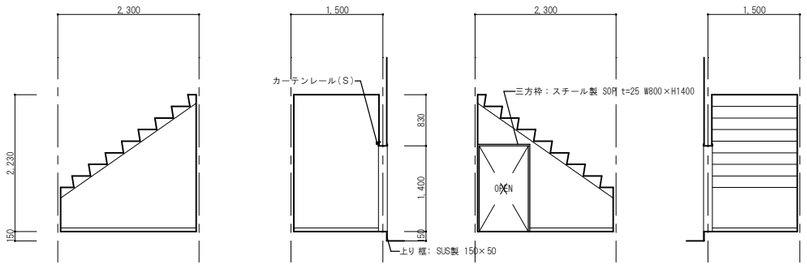
職員玄関・廊下2 A　職員玄関 B　職員玄関・廊下2 C　職員玄関 D　廊下2 D

職員玄関	
床	セルフレベリング下地 t=10 防滑性ビニル床シート t=2.5
巾 木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗
天 井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。

廊下2	
床	シンダーコンクリートt=150 金ゴテ押え下地 ビニル床シート t=2.0
巾 木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗
天 井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

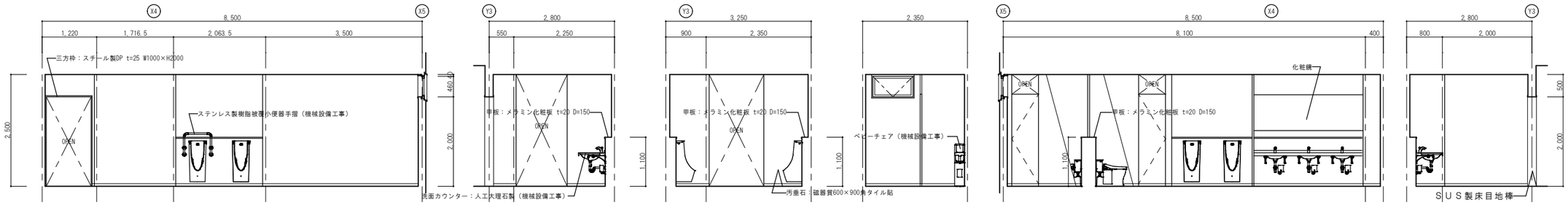
註）特記なき仕上は、上記表による。



階段下収納 A　階段下収納 B　階段下収納 C　階段下収納 D

階段下収納	
床	シンダーコンクリートt=150 金ゴテ押え下地 ビニル床シート t=2.0
巾 木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5 ＥＰ-Ｇ塗
天 井	スチール ＳＯＰ塗

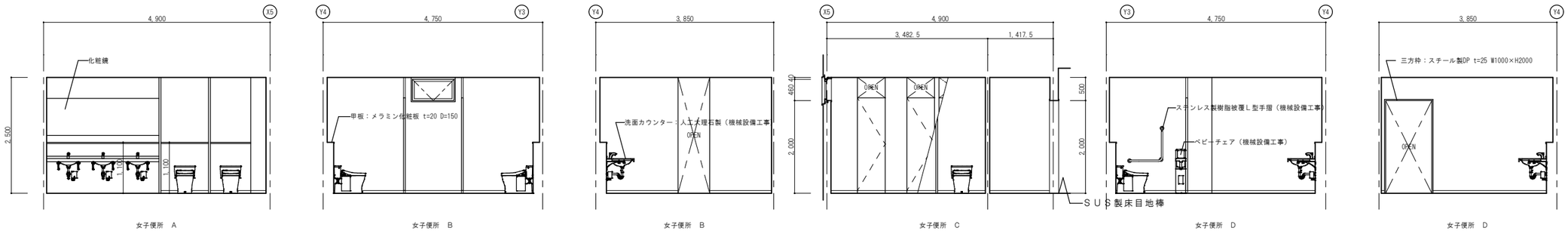
註）特記なき仕上は、上記表による。



男子便所 A　男子便所 B　男子便所 B　男子便所 B　男子便所 C　男子便所 D

男子便所	
床	磁器質150角タイル貼
巾 木	アルミ H=60
壁	LGS下地 防水石膏ボード t=12.5下地 化粧ケイカル板 t=6（シール目地） グラスウール t=100充填
天 井	LGS下地 ケイカル板 t=6 ＥＰ-Ｇ塗 塩ビ製廻り縁 グラスウール t=100敷込

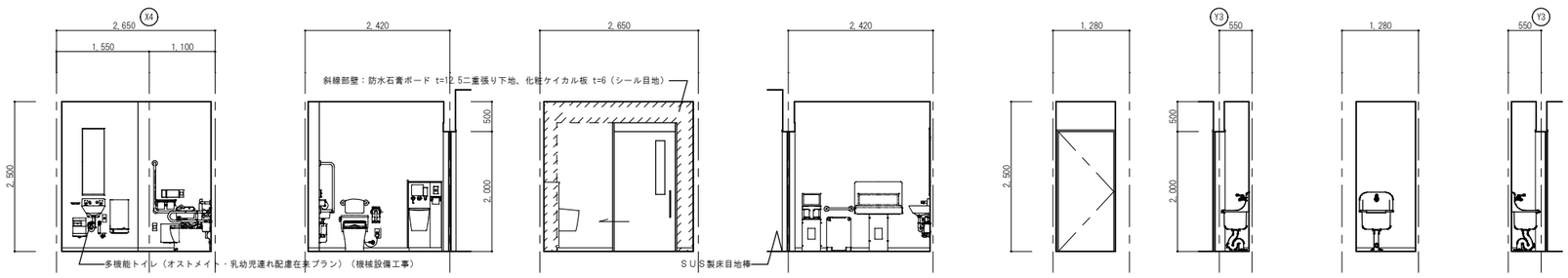
註）特記なき仕上は、上記表による。



女子便所 A　女子便所 B　女子便所 B　女子便所 C　女子便所 D　女子便所 D

女子便所	
床	磁器質150角タイル貼
巾 木	アルミ H=60
壁	LGS下地 防水石膏ボード t=12.5下地 化粧ケイカル板 t=6（シール目地） グラスウール t=100充填
天 井	LGS下地 ケイカル板 t=6 ＥＰ-Ｇ塗 塩ビ製廻り縁 グラスウール t=100敷込

註）特記なき仕上は、上記表による。



だれでもトイレ A　だれでもトイレ B　だれでもトイレ C　だれでもトイレ D　掃除具庫 A　掃除具庫 B　掃除具庫 C　掃除具庫 D

だれでもトイレ	
床	磁器質150角タイル貼
巾 木	アルミ H=60
壁	LGS下地 防水石膏ボード t=12.5下地 化粧ケイカル板 t=6（シール目地） グラスウール t=100充填
天 井	LGS下地 ケイカル板 t=6 ＥＰ-Ｇ塗 塩ビ製廻り縁 グラスウール t=100敷込

註）特記なき仕上は、上記表による。

掃除具庫	
床	モルタル金ゴテ
巾 木	アルミ H=60
壁	LGS下地 防水石膏ボード t=12.5下地 化粧ケイカル板 t=6（シール目地）
天 井	LGS下地 ケイカル板 t=6 ＥＰ-Ｇ塗 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。

特 記 事 項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

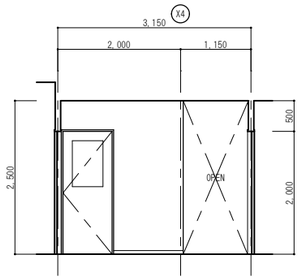
縮 尺 A1→1/50 A3→1/100

設計年月日 2023.00.00

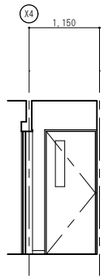
工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）

図面名称 展開図３

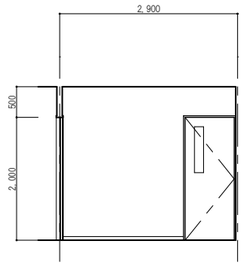
No. A-20



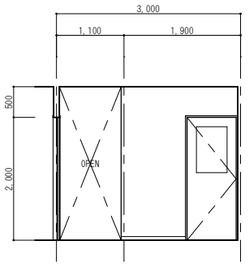
廊下(2F)　A



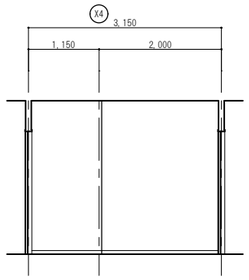
廊下(2F)　A



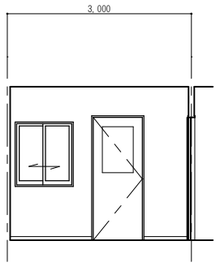
廊下(2F)　B



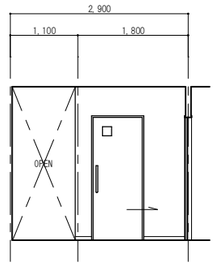
廊下(2F)　B



廊下(2F)　C



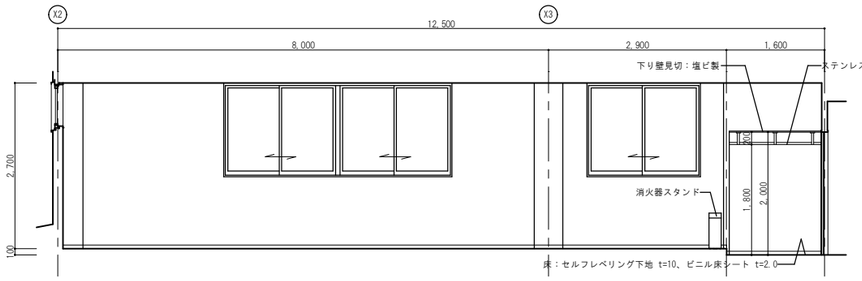
廊下(2F)　D



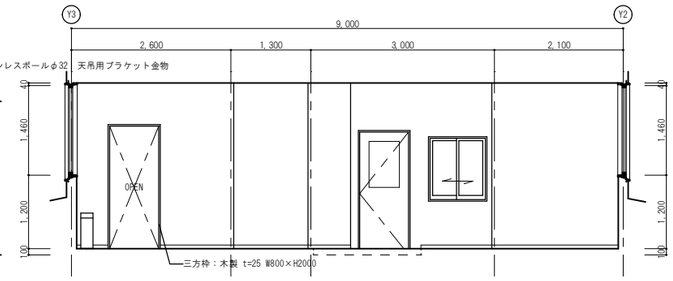
廊下(2F)　D

廊下(2F)	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

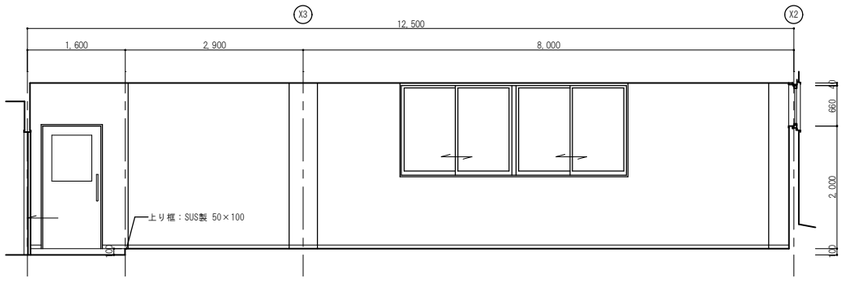
註）特記なき仕上は、上記表による。



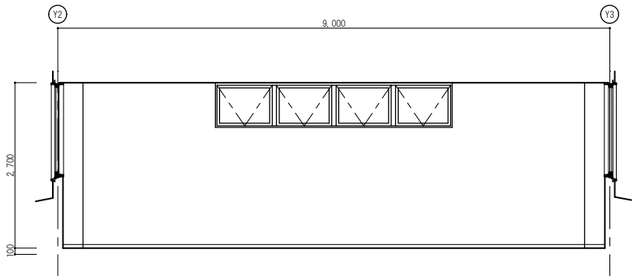
事務室　A



事務室　B



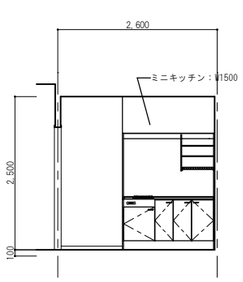
事務室　C



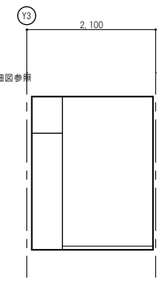
事務室　D

事務室	
床	コンクリート金ゴテ下地　防塵塗装 ＯＡフロア H=100 タイルカーペット t=6.5 500角
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地、石膏ボード t=9.5 捨張 ロックウール化粧吸音板 t=9.0 塩ビ製廻り縁

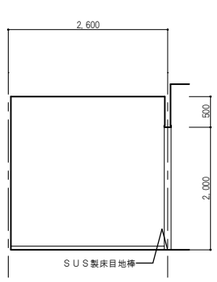
註）特記なき仕上は、上記表による。



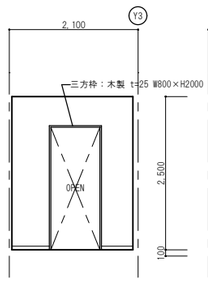
給湯室　A



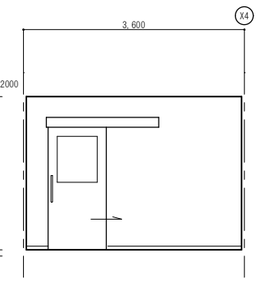
給湯室　B



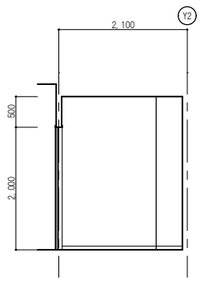
給湯室　C



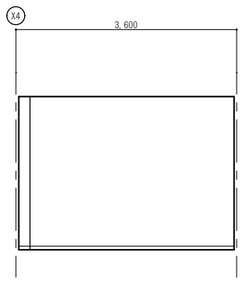
給湯室　D



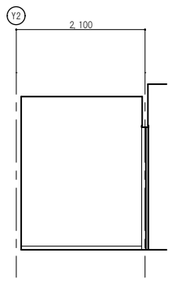
資料保管庫　A



資料保管庫　B



資料保管庫　C



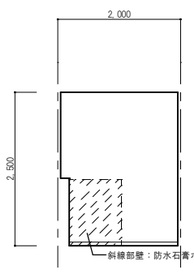
資料保管庫　D

給湯室	
床	コンクリート金ゴテ下地 乾式二重床 H=100　パーティクルボード t=20 合板 t=12.0下地 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

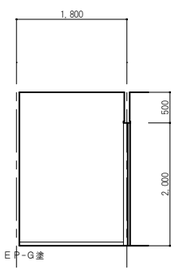
註）特記なき仕上は、上記表による。

資料保管庫	
床	コンクリート金ゴテ下地 乾式二重床 H=100　パーティクルボード t=20 合板 t=12.0下地 タイルカーペット t=6.5 500角
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

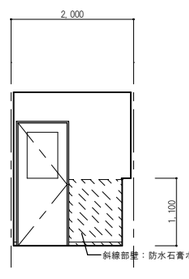
註）特記なき仕上は、上記表による。



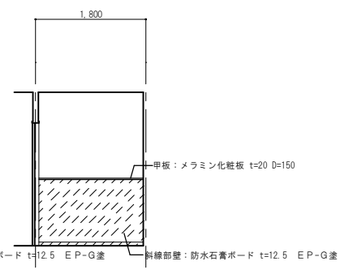
洗濯室　A



洗濯室　B



洗濯室　C



洗濯室　D

洗濯室	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾　木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5　ＥＰ-Ｇ塗
天　井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。

特記事項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

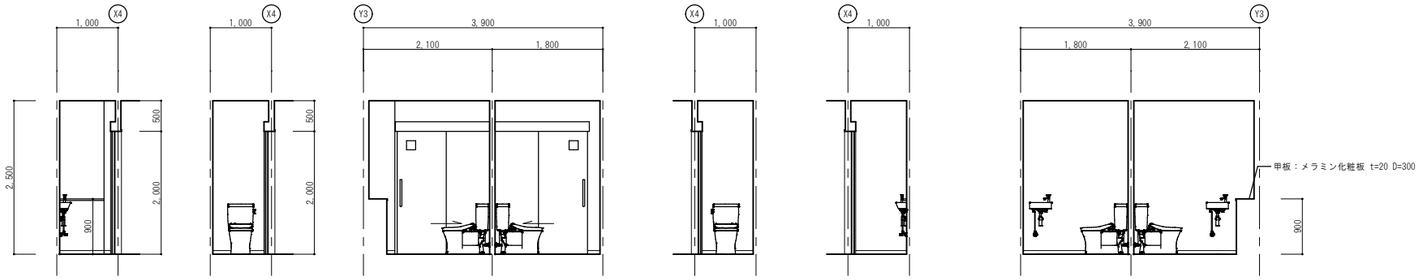
縮尺　A1→1/50 A3→1/100

設計年月日　2023.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）

図面名称　展開図４

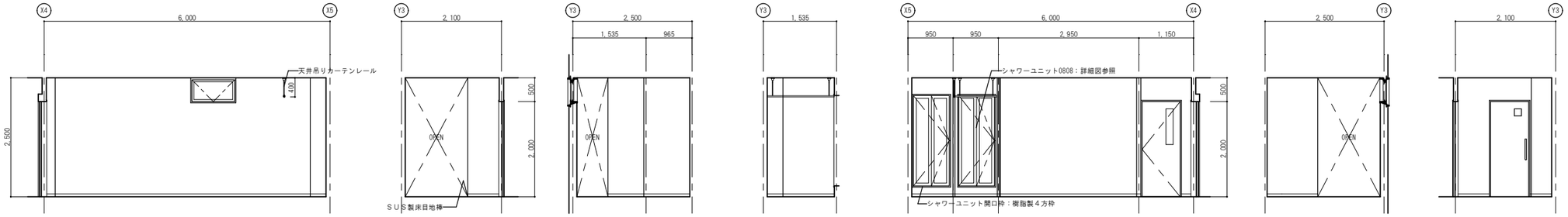
No. A-21



WC1 A　WC2 A　WC1 B　WC2 B　WC1 C　WC2 C　WC2 D　WC1 D

WC1・WC2	
床	セルフレベリング下地 t=10 防汚性ビニル床シート t=2.0
巾 木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5 EP-G塗 グラスウール t=50充填
天 井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁 グラスウール t=100敷込

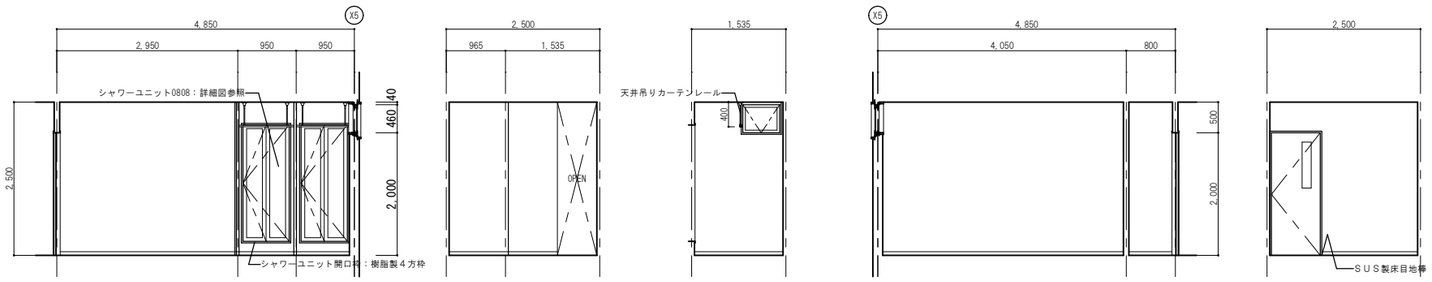
註）特記なき仕上は、上記表による。



女子更衣室 A　女子更衣室 B　女子更衣室 B　女子更衣室 B　女子更衣室 C　女子更衣室 D　女子更衣室 D

女子更衣室	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾 木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5 EP-G塗
天 井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

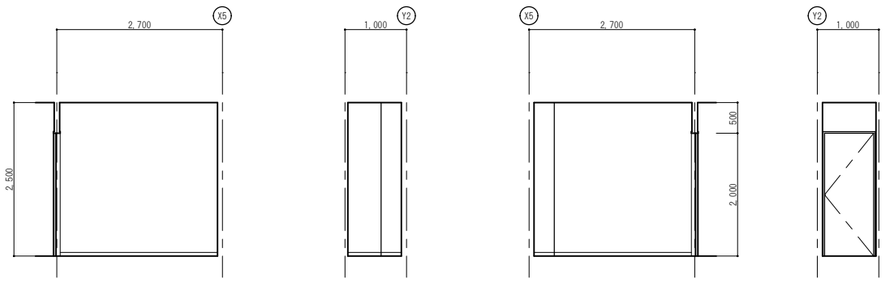
註）特記なき仕上は、上記表による。



男子更衣室 A　男子更衣室 B　男子更衣室 B　男子更衣室 C　男子更衣室 D

男子更衣室	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾 木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5 EP-G塗
天 井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

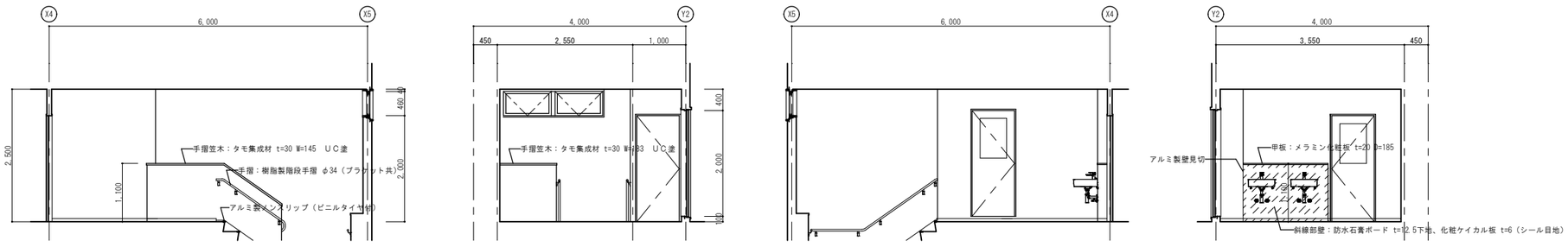
註）特記なき仕上は、上記表による。



倉庫 A　倉庫 B　倉庫 C　倉庫 D

倉庫	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾 木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5 EP-G塗
天 井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。



階段室 A　階段室 B　階段室 A　階段室 D

階段室	
床	セルフレベリング下地 t=10 ビニル床シート t=2.0
巾 木	ソフト H=60
壁	LGS下地 石膏ボード t=12.5 EP-G塗
天 井	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 塩ビ製廻り縁

註）特記なき仕上は、上記表による。

特 記 事 項

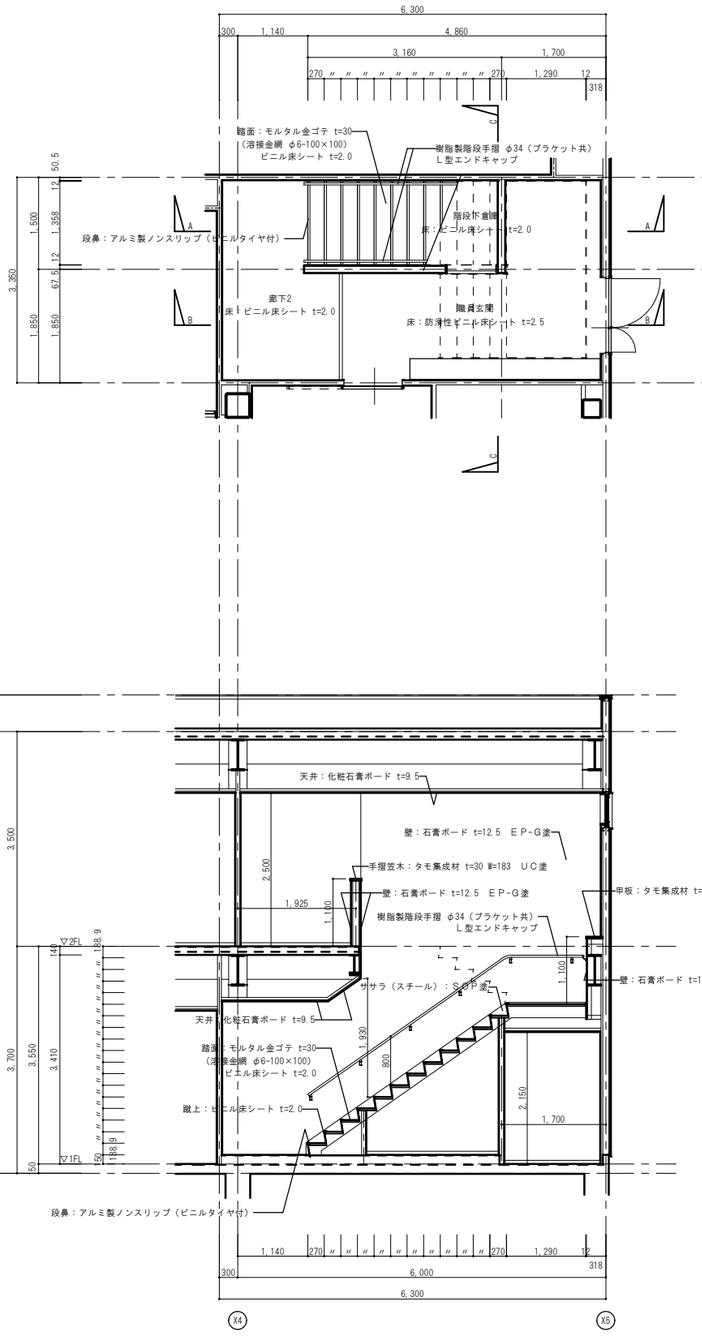
山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

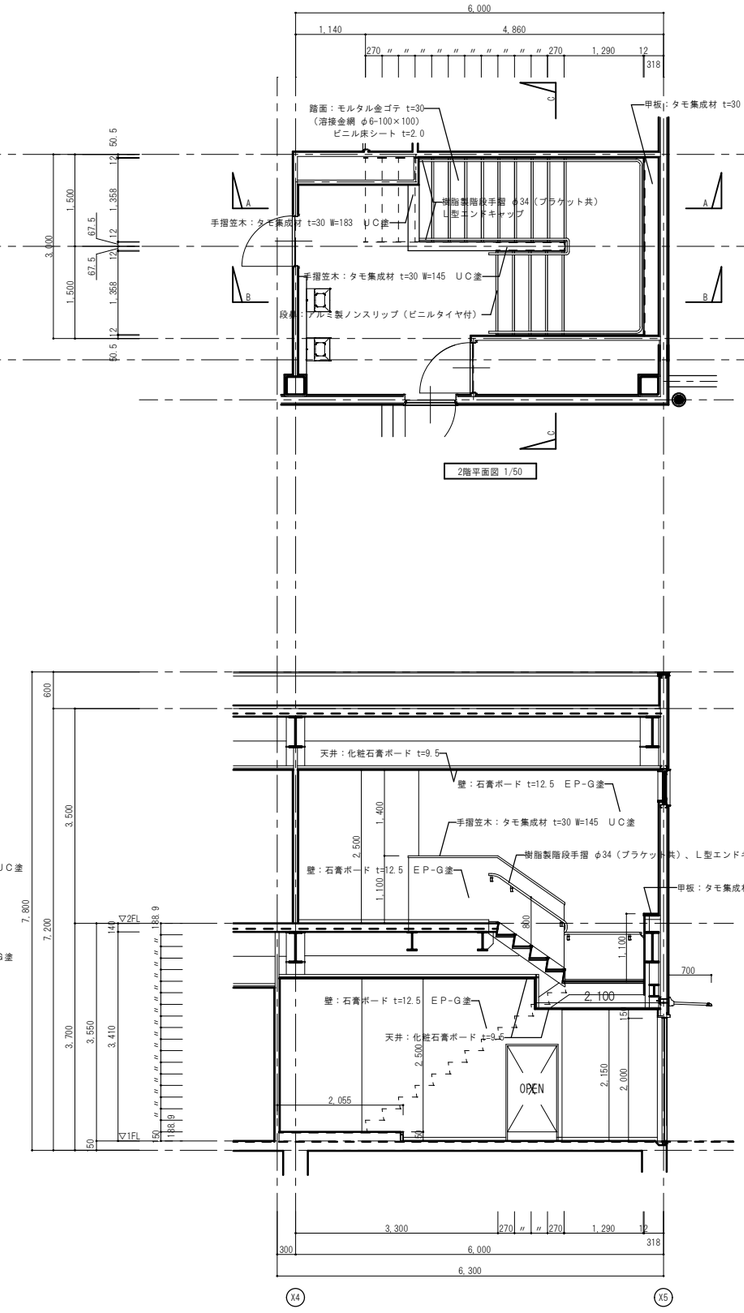
縮 尺　A1→1/50 A3→1/100
設計年月日　2023.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）
図面名称　展開図５

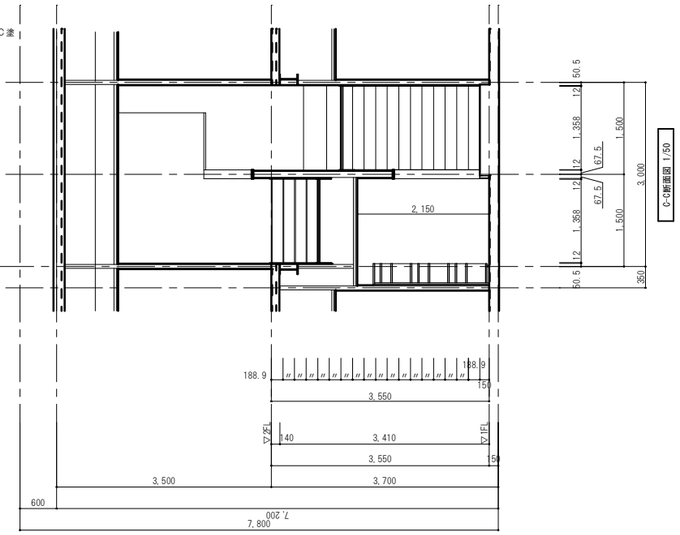
No. A-22



A-A断面図 1/50



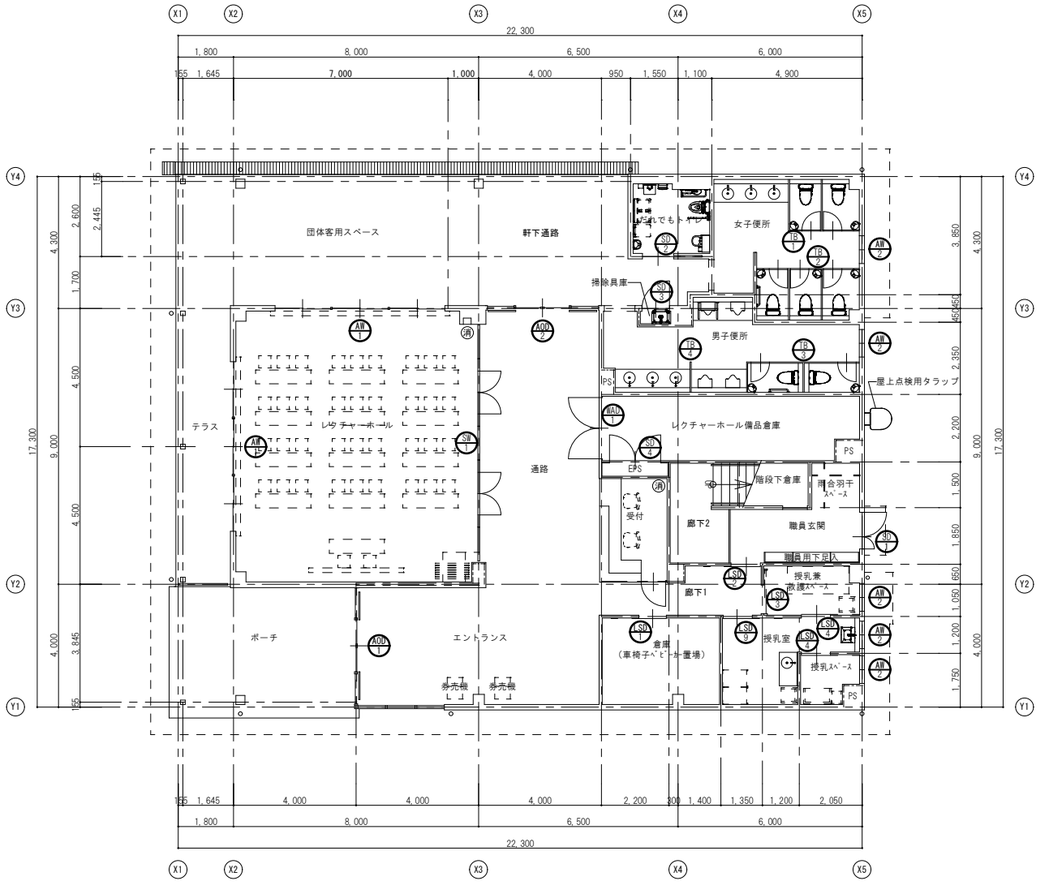
B-B断面図 1/50



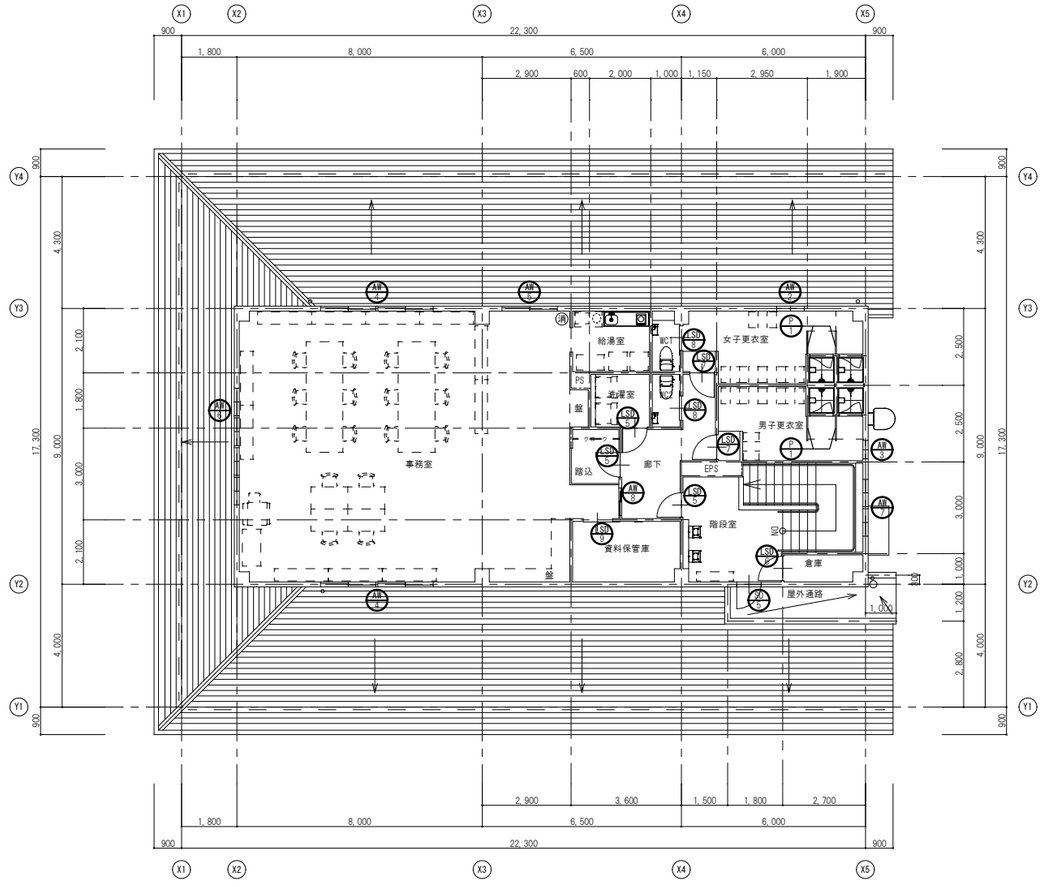
C-C断面図 1/50

2階平面図 1/50

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/50 A3→1/100	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北ー仮称ビジターセンター）	No. A-23
					設計年月日 2023.00.00	図面名称 階段詳細図	

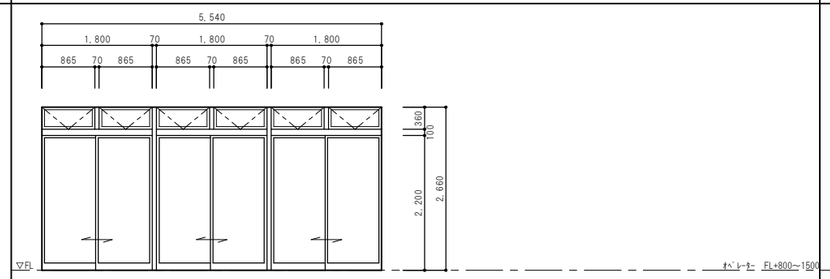
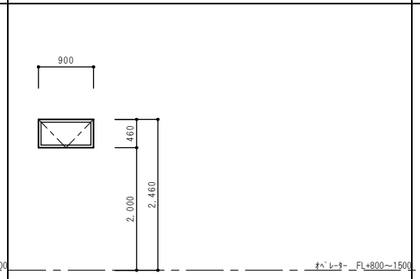
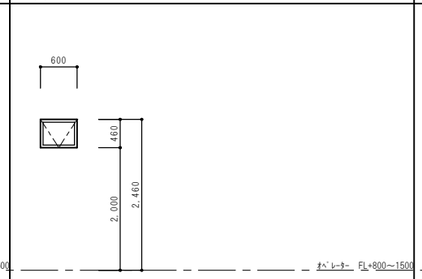
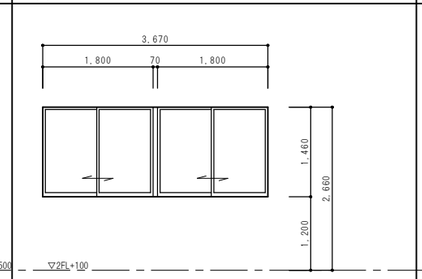
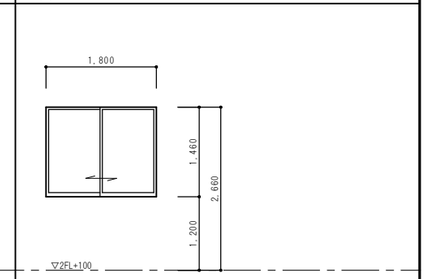


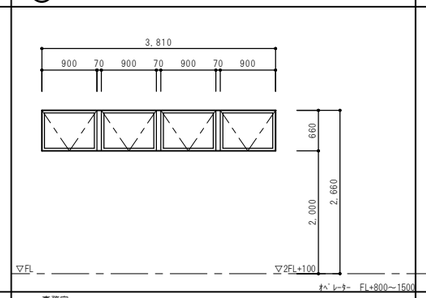
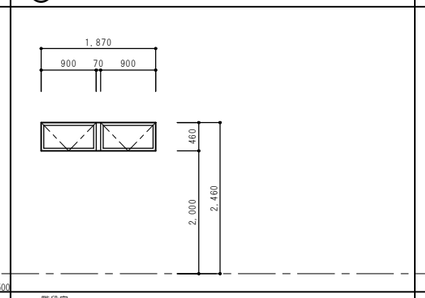
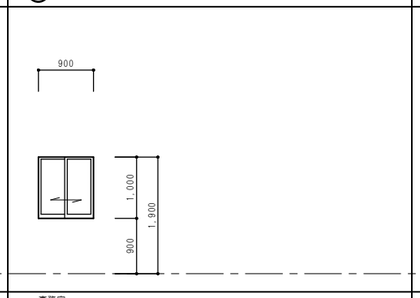
1階平面図 1/100

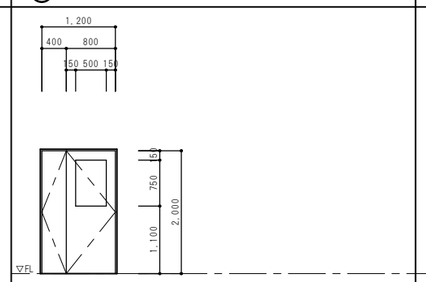
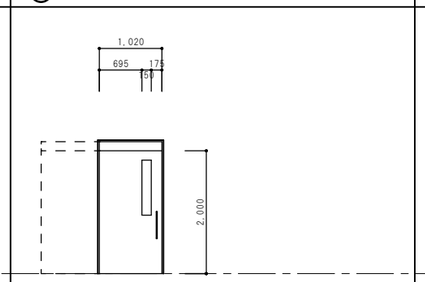
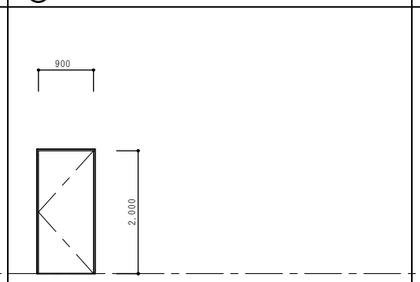
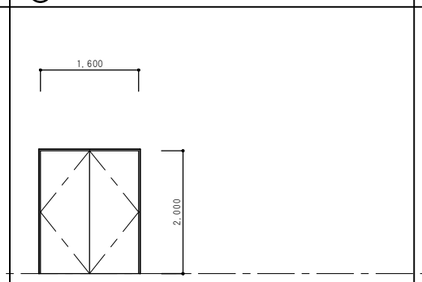
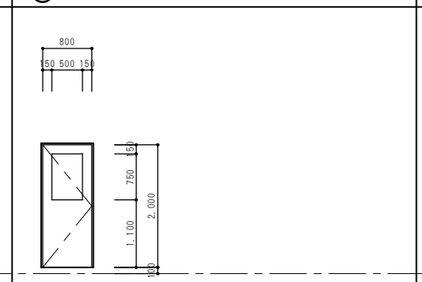


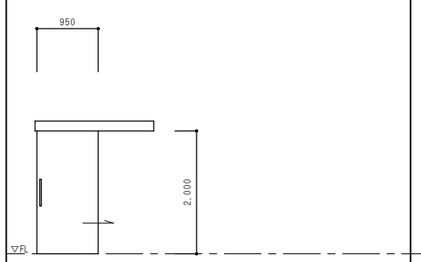
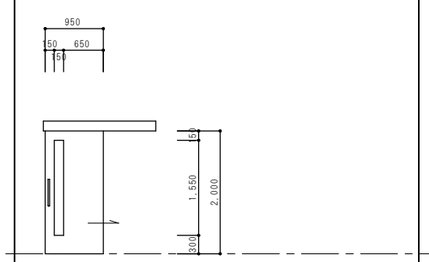
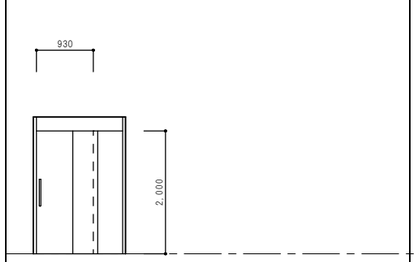
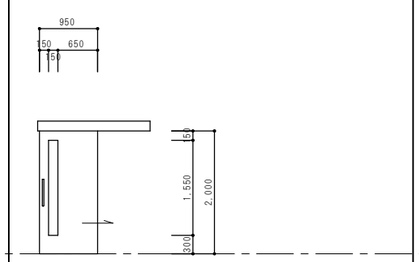
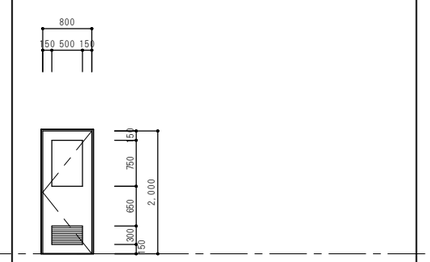
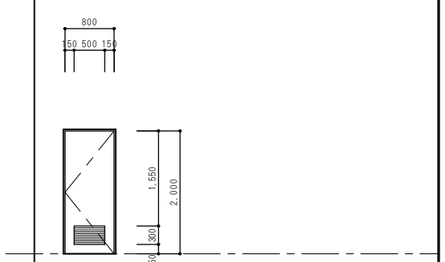
2階平面図 1/100

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/100 A3→1/200 設計年月日 2023.00.00	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター） 図面名称 建具キープラン	No. A-24

記号・数量	AW 1 2	AW 2 6	AW 3 1	AW 4 2	AW 5 1
形状					
場所	レクチャーホール	授乳室、授乳ｽﾍﾟｰｽ、授乳兼救護ｽﾍﾟｰｽ、女子便所、男子便所、女子更衣室	男子更衣室	事務室	事務室
形式・見込	外側し窓付引違い３連窓 70	外側し窓 70	外側し窓 70	引違い２連窓 70	引違い窓 70
材質・仕上	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
硝子	下部：FL6+A6+FL5　上部：FL5+A6+FL3	F5+A6+FL3	F5+A6+FL3	FL5+A6+FL3	FL5+A6+FL3
金物	標準金物一式、クレセント、フラット下枠、隠蔽式オペレーター、カーテン	標準金物一式、水切、隠蔽式オペレーター	標準金物一式、水切、隠蔽式オペレーター	標準金物一式、クレセント、水切、ブラインド	標準金物一式、クレセント、水切、ブラインド
備考	網戸、ＲＣ枠＋外見切り	網戸、ＲＣ枠＋外見切り	網戸、ＲＣ枠＋外見切り	網戸、ＲＣ枠＋外見切り	網戸、ＲＣ枠＋外見切り

記号・数量	AW 6 1	AW 7 1	AW 8 1			
形状						
場所	事務室	階段室	事務室			
形式・見込	外側し４連窓 70	外側し２連窓 70	引違いカウンター窓 70			
材質・仕上	アルミ	アルミ	アルミ			
硝子	FL5+A6+FL3	FL5+A6+FL3	FL5			
金物	標準金物一式、水切、隠蔽式オペレーター、ブラインド	標準金物一式、水切、隠蔽式オペレーター、	標準金物一式、クレセント			
備考	網戸、ＲＣ枠＋外見切り	網戸、ＲＣ枠＋外見切り				

記号・数量	SD 1 1	SD 2 1	SD 3 1	SD 4 1	SD 5 1	
形状						
場所	職員玄関	だれでもトイレ	掃除具庫	EPS	屋外通路	
形式・見込	額付親子開きドア 100	額付きハンガー片引きドア（壁内収納） 100	片開きドア 100	両開き点検扉 33	額付片開きドア 100	
材質・仕上	溶融亜鉛メッキ鋼板防錆塗装 t=1.6　２－ＵＥ	溶融亜鉛メッキ鋼板防錆塗装 t=0.8　２－ＵＥ	溶融亜鉛メッキ鋼板防錆塗装 t=1.6　２－ＵＥ	溶融亜鉛メッキ鋼板防錆塗装 t=1.6　ＳＯＰ	溶融亜鉛メッキ鋼板防錆塗装 t=1.6　２－ＵＥ	
硝子	FL5+A6+FL3	強化型板ガラス t=4			FL5+A6+FL3	
金物	標準金物一式、丁番、ＤＣ、レバーハンドル、水切、ステンレス下枠、フランス落し	標準金物一式、把手、ステンレス下枠、大型サムターン、非常解付き表示錠	標準金物一式、丁番、ＤＣ、ケースハンドル、水切、ステンレス下枠	標準金物一式、丁番、平面ハンドル（鍵付き）、フランス落し	標準金物一式、丁番、ＤＣ、レバーハンドル、水切、ステンレス下枠	
備考	外/シリンダー錠・内/サムターン	自閉装置、全開ストッパー、カームスライダー【文化シヤッター】同等品	外/シリンダー錠・内/空		外/シリンダー錠・内/サムターン	

記号・数量	LSD 1 1	LSD 2 1	LSD 3 1	LSD 4 2	LSD 5 3	LSD 6 1
形状						
場所	倉庫(車椅子ﾊﾞｹﾞｰﾄ置場)	職員玄関	授乳兼救護スペース	授乳スペース、授乳兼救護スペース	階段室・事務室・洗濯室	倉庫
形式・見込	片引きハンガードア 100	額付片引きハンガードア 100	２枚連動片引きハンガードア 216	額付片引きハンガードア 100	額・ガラリ付片開きドア 100	ガラリ付片開きドア 100
材質・仕上	化粧鋼板 t=0.6mm	化粧鋼板 t=0.6mm	溶融亜鉛メッキ鋼板 t=0.6mm　焼付塗装	化粧鋼板 t=0.6mm	化粧鋼板 t=0.6mm	化粧鋼板 t=0.6mm
硝子		FL4		F5	FL4	
金物	標準金物一式、引棒、ハンガーレール、指はさみ防止戸当、戸先安全ゴム	標準金物一式、引戸錠、引棒、ハンガーレール、指はさみ防止戸当、戸先安全ゴム	標準金物一式、引棒、ハンガーレール、指はさみ防止戸当、戸先安全ゴム	標準金物一式、表示錠、引棒、ハンガーレール、指はさみ防止戸当、戸先安全ゴム	標準金物一式、丁番、ＤＣ、レバーハンドル、ステンレス下枠	標準金物一式、丁番、ＤＣ、レバーハンドル、ステンレス下枠
備考	自閉装置、全開ストッパー、外/シリンダー錠・内/サムターン、引き残し：150	自閉装置、全開ストッパー、外/シリンダー錠・内/サムターン引き残し：150	自閉装置、全開ストッパー、非常解付き表示錠、引き残し：130	自閉装置、全開ストッパー、外/シリンダー錠・内/サムターン、引き残し：150	外/シリンダー錠・内/サムターン（洗濯室のみ両側空）	外/シリンダー錠・内/サムターン

特記事項

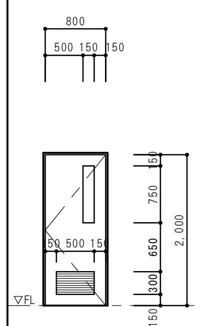
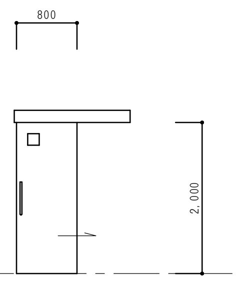
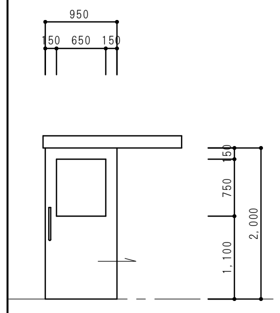
山梨建築設計監理事業協同組合

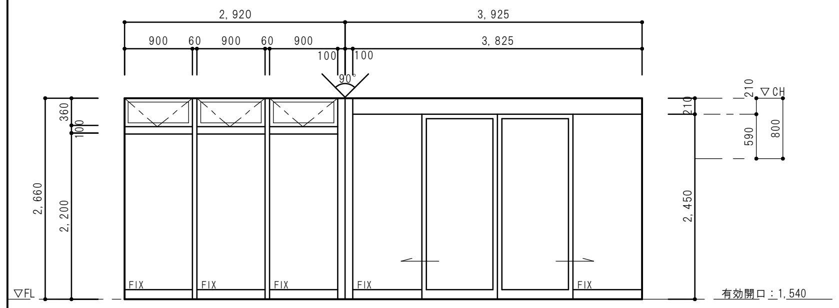
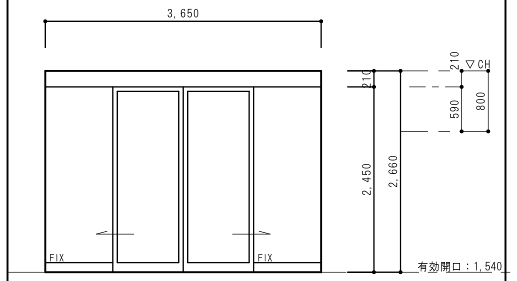
承認	設計	担当	縮尺
			A1→1/50 A3→1/100
			設計年月日 2023.00.00

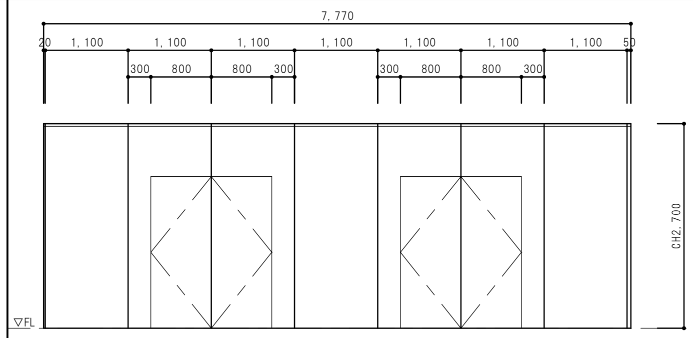
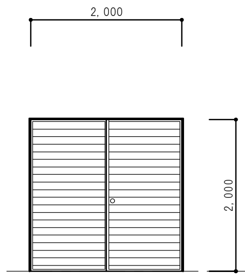
工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）

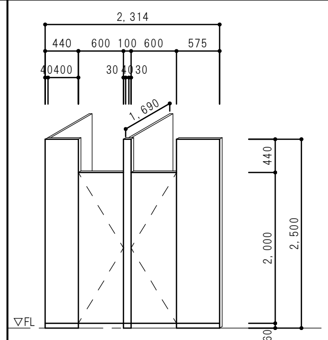
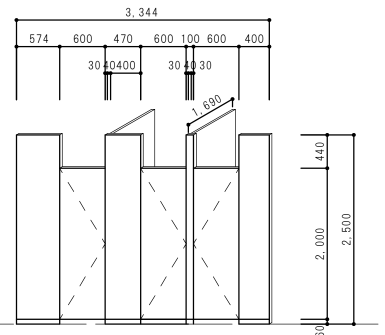
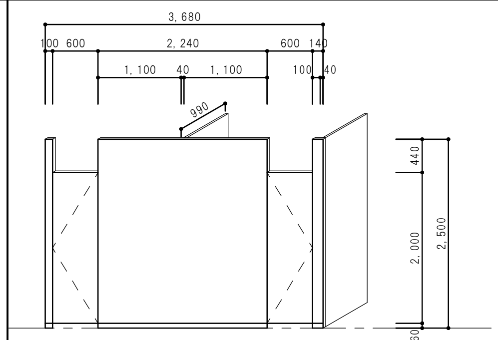
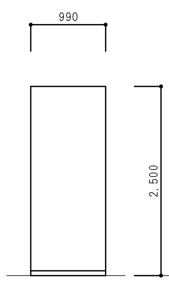
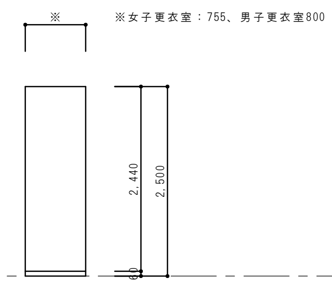
図面名称　建具表１

No. A-25

記号・数量	LSD 7　2	LSD 8　2	LSD 9　2			
形状						
場所	男子更衣室・女子更衣室	WC1・WC2	授乳室、資料保管庫			
形式・見込	額・ガラリ付片開きドア　100	額付片引きハンガードア(遮音タイプ)　100	額付片引きハンガードア　100			
材質・仕上	化粧鋼板 t=0.6mm	化粧鋼板 t=0.6mm	化粧鋼板 t=0.6mm			
硝子	F5	F5	F5			
金物	標準金物一式、丁番、ＤＣ、レバーハンドル、ステンレス下枠	標準金物一式、表示錠、引棒、ハンガーレール	標準金物一式、引戸錠、引棒、ハンガーレール、指はさみ防止戸当、戸先安全ゴム 自閉装置、全開ストッパー			
備考	外/シリンダー錠・内/サムターン	自閉装置、全開ストッパー、戸先安全ゴム、引き残し：150	外/シリンダー錠・内/授乳室：空・資料保管庫：サムターン、引き残し：150			

記号・数量	AOD 1　1	AOD 2　1			
形状					
場所	エントランス	通路			
形式・見込	両引き自動ドア+外倒し窓付ＦＩＸ窓　100	両引き自動ドア+ＦＩＸ窓　100			
材質・仕上	アルミ	アルミ			
硝子	下部：FL6+A6+FL5　上部：FL5+A6+FL3	FL6+A6+FL5			
金物	標準金物一式、水切、隠蔽式オペレーター、自動ドアエンジン、自動ドア警告ラベル、衝突防止表示	標準金物一式、自動ドアエンジン、自動ドア警告ラベル、衝突防止表示			
備考	外/シリンダー錠・内/サムターン	外/シリンダー錠・内/サムターン			

記号・数量	SW 1　1	WAD 1　1		
形状				
場所	レクチャーホール	レクチャーホール備品倉庫		
形式・見込	スライディングウォール	両開きドア　100		
材質・仕上	表面材：石膏ボード12.5裏打ち、焼付塗装鋼板	杉羽目板張り、アルミパネル		
硝子				
金物	標準金物一式、ハンガーレール（取付下地共）、丸落し、フラットレバーハンドル	標準金物一式、丁番、ＤＣ、外：ケースハンドル、内：レバーハンドル、ステンレス下枠		
備考		アルミ枠、フランス落し、外/シリンダー錠・内/サムターン		

記号・数量	TB 1　1	TB 2　1	TB 3　1	TB 4　1		P 1　4
形状						
場所	女子便所	女子便所	男子便所	男子便所		女子更衣室・男子更衣室
形式・見込	トイレブース　40	トイレブース　40	トイレブース　40	トイレブース　40		パーティション　40
材質・仕上	高圧メラミン化粧板	高圧メラミン化粧板	高圧メラミン化粧板	高圧メラミン化粧板		高圧メラミン化粧板
硝子						
金物	標準金物一式、壁付レール、天井付レール、SUS巾木、戸当、表示錠・非常解付	標準金物一式、壁付レール、天井付レール、SUS巾木、戸当、表示錠・非常解付	標準金物一式、壁付レール、天井付レール、SUS巾木、戸当、表示錠・非常解付	標準金物一式、壁付レール、天井付レール、SUS巾木		標準金物一式、壁付レール、天井付レール、SUS巾木
備考	セレブース【三和シャッター】同等品	セレブース【三和シャッター】同等品	セレブース【三和シャッター】同等品	セレブース【三和シャッター】同等品		セレブース【三和シャッター】同等品

特記事項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮尺
			A1→1/50 A3→1/100
			設計年月日 2023.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）

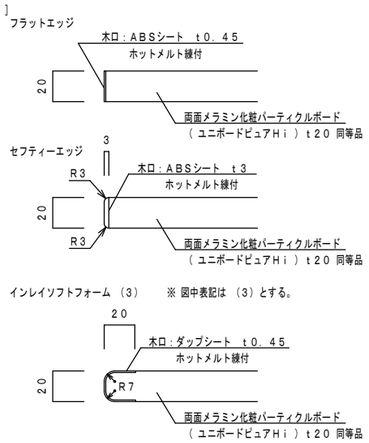
図面名称　建具表２

No. A-26

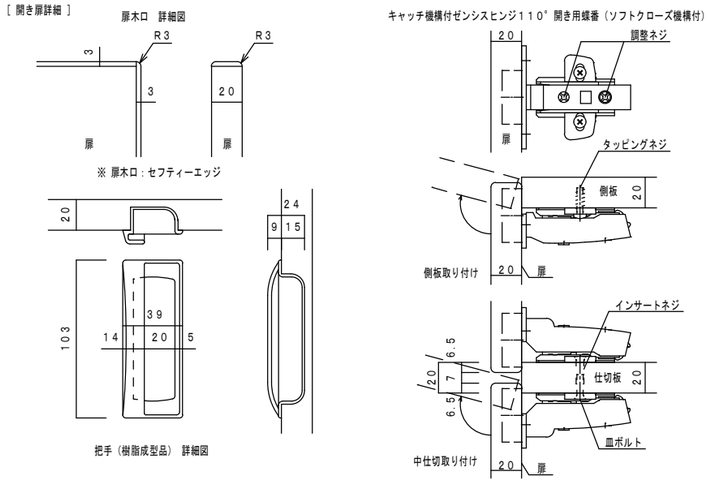
家具共通仕様　「 図面中に特記なき所は下記の仕様とする。」

1	本体・棚板	室内ＶＯＣ（ ホルムアルデヒド等 ）の低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した 両面メラミン化粧パーティクルボード（ ユニボードピュアＨｉ ）厚さ２０ｍｍ、Ｆ☆☆☆☆を使用する。 上記材料は、ＪＩＳ－Ａ５９０８適合、１８タイプ（ 曲げ強さ１８Ｎ／平方ミリメートル以上 ）とし、 ＪＩＳマーク認定の国内工場での生産品、且つグリーン購入法適合品とする。
2	木口処理	躯体からの水分浸入を防ぐために、本体は背面も含めてフラットエッジ（ ＡＢＳ製樹脂をホットメルト練付 ）加工とする。
3	表面処理	本体・棚板・建具等は使用時の擦り傷の発生を抑制するために鉛筆硬度　９Ｈ　以上の表面材を使用する。 本体色については色見本帳（ ４５色以上 ）を提出の上決定する。
4	裏板	ポリエステル化粧合板　Ｆ☆☆☆☆　厚さ４ｍｍを使用し、 片面フラッシュ（ ４５０ｍｍ　ピッチ以内に格子状桟組構造 ）とする。
5	本体組立て	組立ては、製作工場での木製ダボ組接合とし、接合部のノックダウン金物は使用不可とする。
6	巾木・台輪	ポリエステル化粧合板仕上げ　Ｆ☆☆☆☆（ 塗装不要 ）とする。
7	建具	板戸・戸枠は、くるいやホゾ抜け防止のため、かまち組み等は不可とし１枚物とする。
8	把手・蝶番	樹脂成型品（ ＡＢＳ製 ）の把手・引手を使用する。 蝶番は、メンテナンスが容易なキャッチ機構付１１０°開きゼンシスヒンジ（ ソフトクローズ機構付 ）を使用する。
9	棚板受け	安全で外れにくいネジ込み式で、錆びにくいステンレス製ダボ　φ８－Ｍ６を使用する。 棚板は外れ止めシャクリ加工を施す。
10	特記事項	環境配慮及び品質確保のため、取り扱いは ＩＳＯ １４００１、製作は ＩＳＯ ９００１ 取得企業とする。 製作にあたり、事前に製品の品質証明書及び材料と接着剤の安全データシートを提出し、素材・金物の承認を受ける。
11	施工	家具取付は、安全のため壁や床に耐震固定を施す。

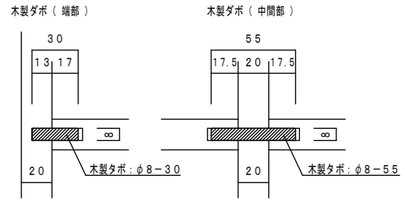
［ 木口詳細 ］



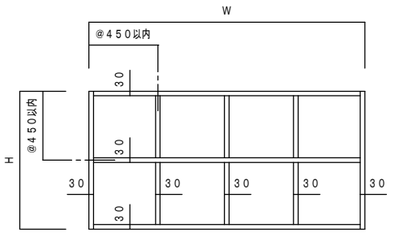
［ 開き扉詳細 ］



［ 接合部詳細 ］

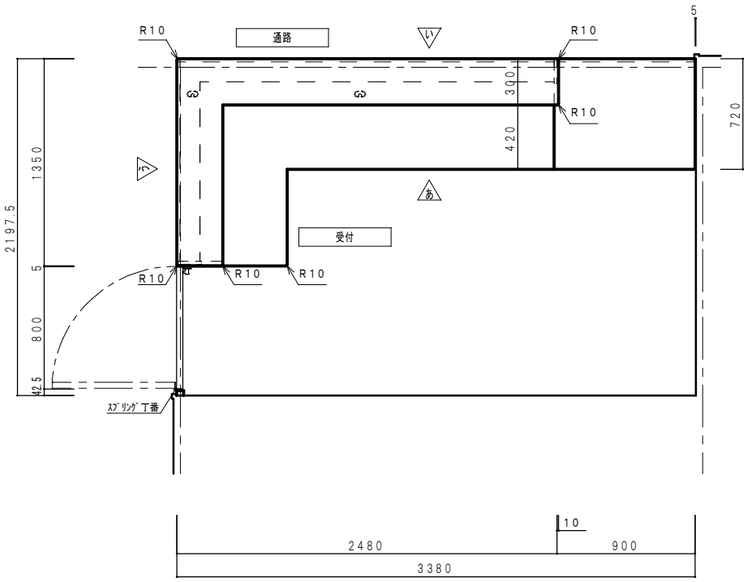


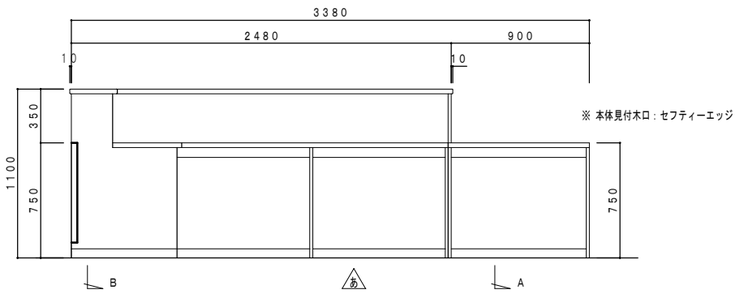
［ 裏板枠詳細 ］

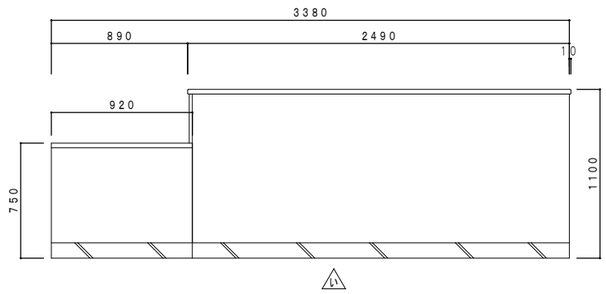


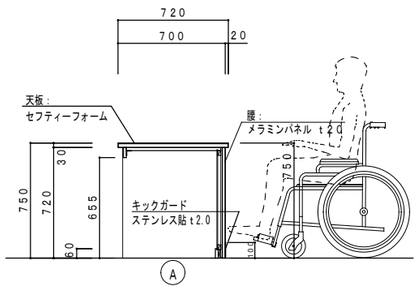
Ｆ－１　カウンター　受付　／　１ヶ所

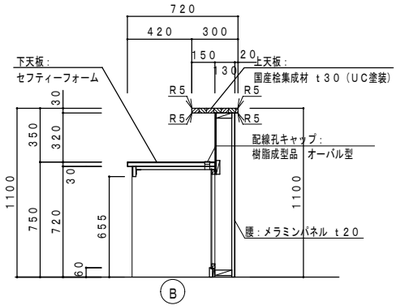
※家具位置は平面詳細図参照

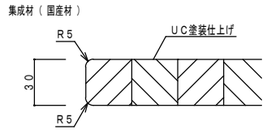


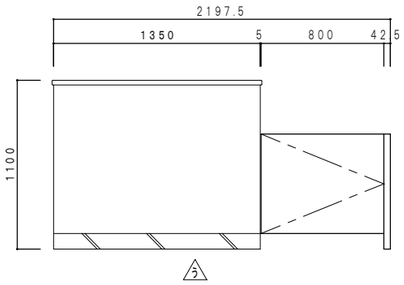






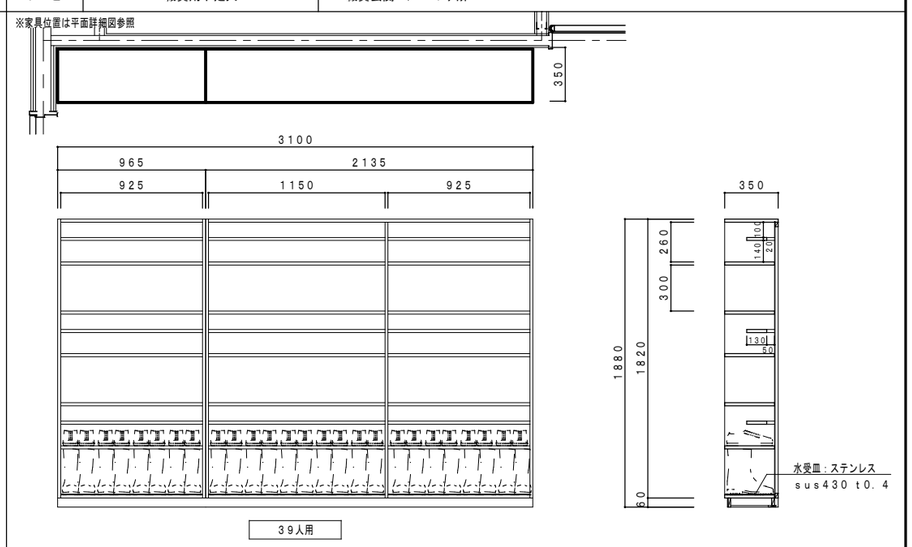






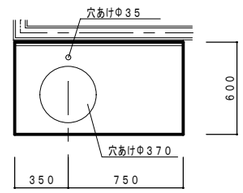
Ｆ－２　職員用下足入　職員玄関　／　１ヶ所

※家具位置は平面詳細図参照

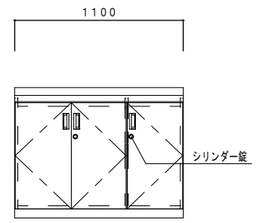


Ｆ－３　手洗い　授乳室　／　１ヶ所

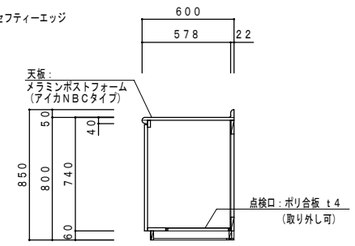
※家具位置は平面詳細図参照



※洗面器・水栓：機械設備工事



※ 扉木口：セフティーエッジ

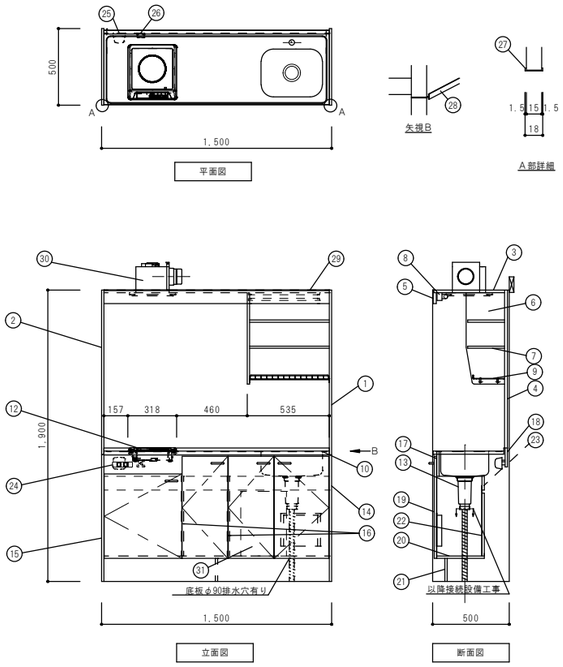


特　記
事　項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮　尺	工事名称	遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）	No.
			A1→1/20 A3→1/40	図面名称	家具詳細図	A-27
			設計年月日 2023.00.00			

ミニキッチン詳細図（参考図） S=1/20



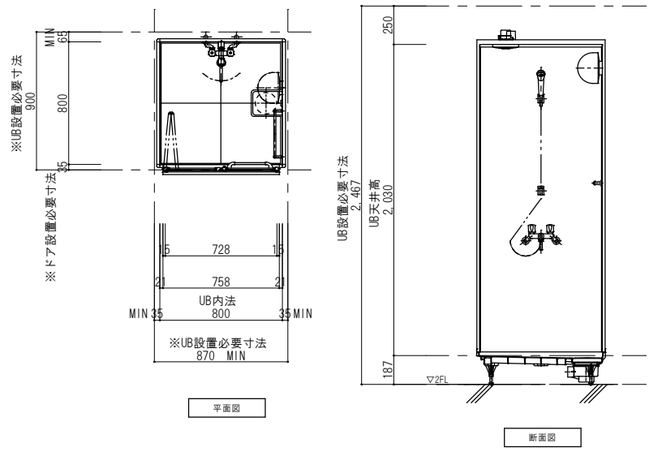
	No	名　　称	仕　　様	色
上部ユニット	1	サイドパネルA	両面低圧メラミン化粧パーチ	ホワイト
	2	サイドパネルB	内面：化粧フネン板 t=3.0（ノンアス） 外面：低圧メラミン化粧パーチ	ホワイト ホワイト
	3	天　板	内面：化粧フネン板 t=3.0（ノンアス）	ホワイト
	4	バックパネル	内面：化粧フネン板 t=3.0（ノンアス）	ホワイト
	5	幕　板	内面：化粧フネン板 t=3.0（ノンアス） 外面：低圧メラミン化粧パーチ	ホワイト ホワイト
	6	食器　側板	両面低圧メラミン化粧パーチ	ホワイト
	7	食器　固定棚板	両面低圧メラミン化粧パーチ	ホワイト
	8	照明器具	蛍光灯 １００Ｖ　１５Ｗ	
	9	ミズキリ棚	ポリエチレンコーティング	
下部ユニット	１０	ワークトップ	ステンレス製	
	１１	水栓	別途	
	１２	ＩＨヒーター	１００Ｖ　１３００Ｗ	
	１３	排水栓セット	ゴミ収納器付、ジャバラホース付 シーリングプレート（ＶＰ４０管接続可能）	
	１４	側板（シンク側）	両面低圧メラミン化粧パーチ	ホワイト
	１５	側板（コンロ側）	両面低圧メラミン化粧パーチ	ホワイト
	１６	中仕切り	両面低圧メラミン化粧パーチ	ホワイト
	１７	フロントパネル	化粧パーチ	ブラック
	１８	ウシロ補強	パーチ	
	１９	トビラ	両面低圧メラミン化粧パーチ 包丁差し付 取っ手：樹脂製	ホワイト ホワイト
	２０	底板	両面低圧メラミン化粧パーチ	
	２１	ケコミ	両面低圧メラミン化粧パーチ	
	２２	点検フタ	カラー合板 t=2.5	
	２３	点検フタ受け	両面低圧メラミン化粧パーチ	
	２４	スイッチ	照明・換気扇用　２連スイッチ	
	２５	ジョイントボックス	１００Ｖ　１５Ａ一次電源接続用	
	２６	コンセント	１００Ｖヒーター用	
その他	２７	フロントカバー	硬質塩化ビニール 両面テープ付	
	２８	ジョイナー	硬質塩化ビニール	
	２９	マクイタカバー	硬質塩化ビニール	
	３０	換気扇		
	３１	電気温水器	12Lセット	

・本図はＲタイプを示し、Ｌタイプは本図と左右対称とする。
但し、スイッチはＲ・Ｌ共　左：照明用　右：換気扇用とする。

■Ｆ☆☆☆☆対応商品
■ノンアスベスト仕様

参考図面

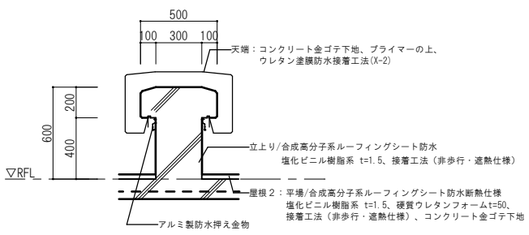
シャワーユニット詳細図（参考図） S=1/20



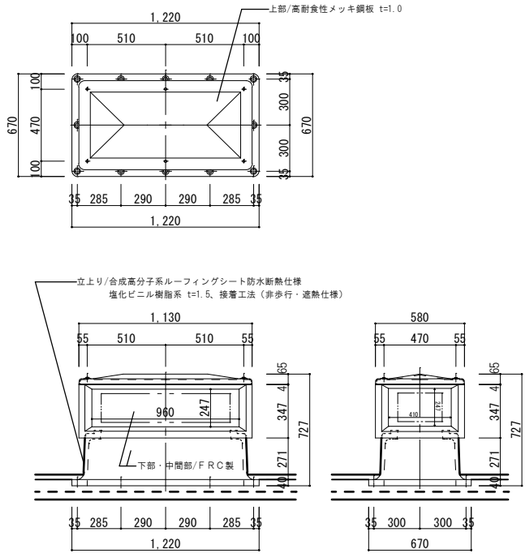
名　　称	仕様・寸法	特記事項
天井パネル	化粧鋼板複合パネル（抗菌防カビ仕様・モール式） 点検口口４５０（絞り点検口・落下防止用紐付・ 石膏ボード２枚貼り）	ホワイト
壁パネル	ＨＱパネル	ベーシスホワイト
床パネル	ＦＲＰ　カラリ床（単色）	ホワイト
ド　ア　枠	アルミアルマイト処理	アイボリー （付枠用取付ネジＵＢ支給、 ネジ取付および付枠別途）
ドアパネル	折戸　ドア脱着機構付 面材：型板スチレン板 Ｗ＝８００（有効開口幅　６７１mm）	アイボリー 面材：半透明
シャワー水栓	２ハンドルスプレーシャワー金具	
シャワーハンガー		ホワイト
照明	半球形照明（ＬＥＤランプ） 消費電力９Ｗ以下　６０Ｗ相当　電球色 ＶＶＦ１．６φ×２Ｃ　Ｌ＝２．０m付	（壁穴加工なし） （以降接続別途）
ジョイント ボックス	エコノミージョイント　ＷＪ３１０７相当品	（ジョイントボックスま での配線及びジョイント ボックス内の結線別途）
換気口	パイプファン AC100V 消費電力:3.2/3.8W (50/60HZ)	（以降接続別途）
給水エルボ	シャワー用　青銅鋳物製　接続口　Ｒｃ１／２	（以降接続別途）
給湯エルボ	シャワー用　青銅鋳物製　接続口　Ｒｃ１／２	（以降接続別途）
排水トラップ	ＡＢＳ樹脂　封水深５０mm　接続口　ＶＰ５０受口 ヘアーキャッチャー付 高圧洗浄対応	（以降接続別途）
タオル掛け	ステンレスパイプ　φ１３　Ｌ＝３００	ホワイト

参考図面

太陽光発電パネル基礎 S=1/20

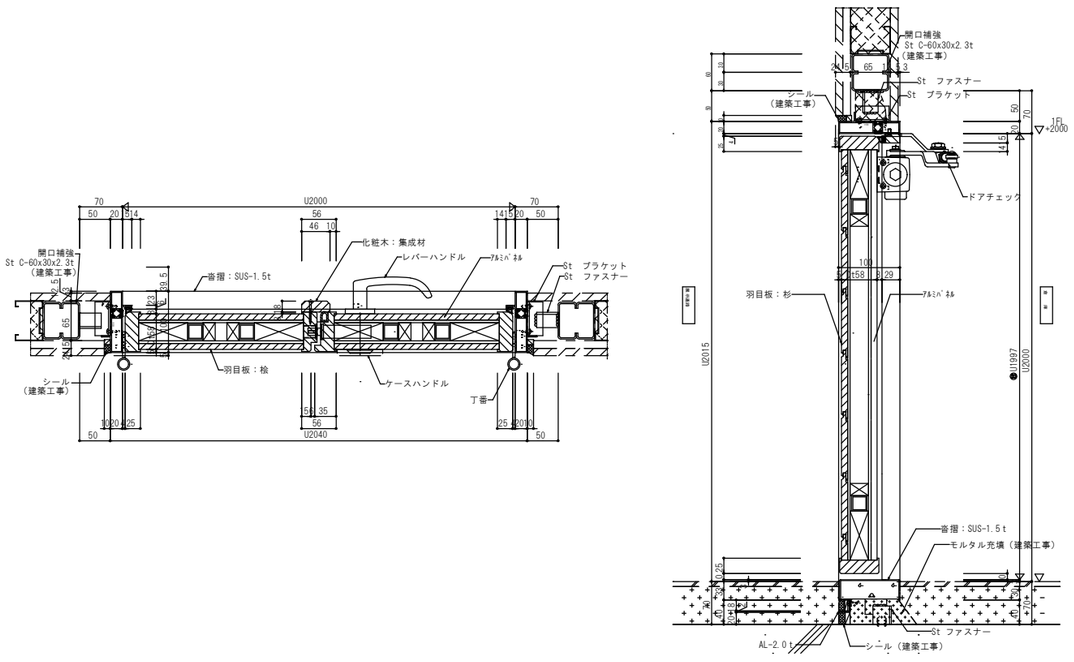


屋上配線取り出し既成ユニット（参考図） S=1/20



参考図面

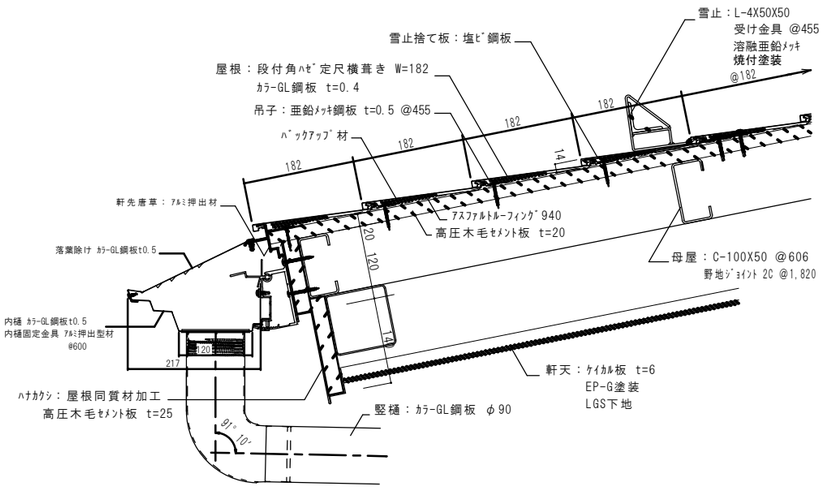
WD1詳細図 S=1/5



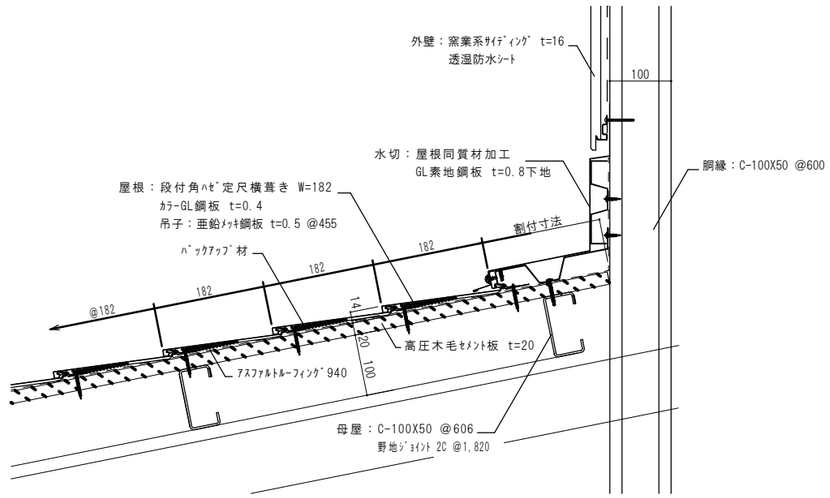
参考図面

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/20 A3→1/40	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）	No. A-28
					設計年月日 2023.00.00	図面名称 詳細図１	

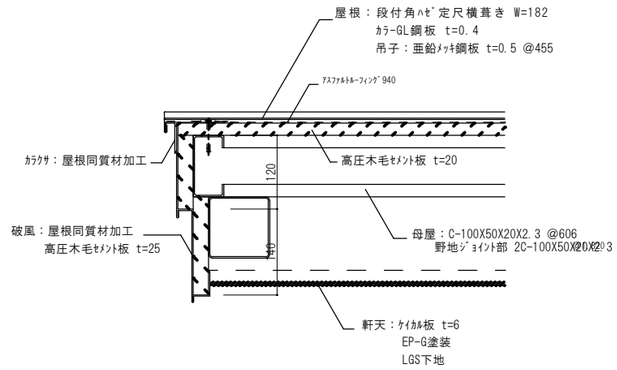
屋根１ 軒先部分　詳細図



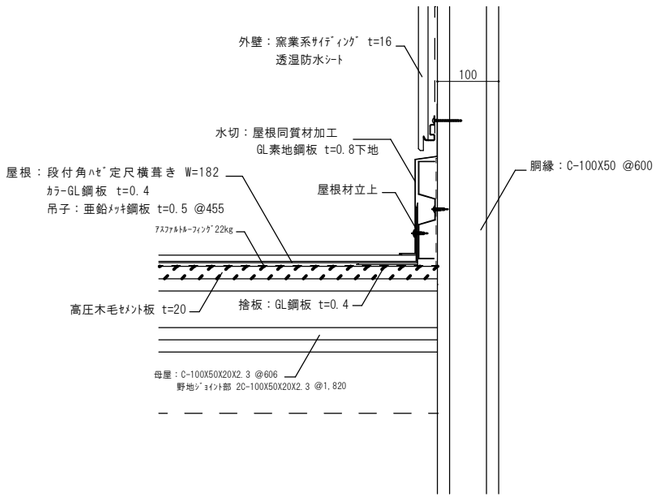
屋根１ 水上 外壁取合い部分　詳細図



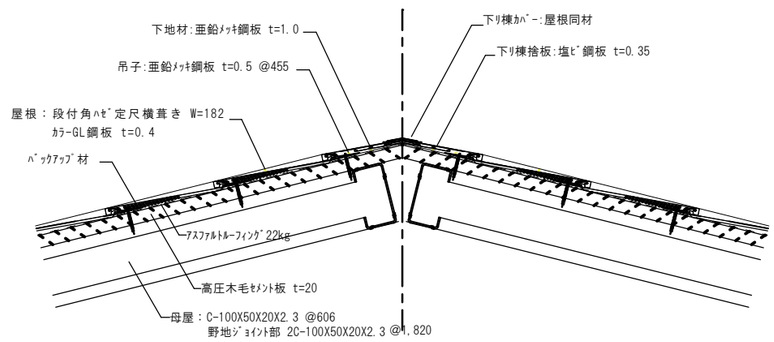
屋根１ ケラバ部分　詳細図



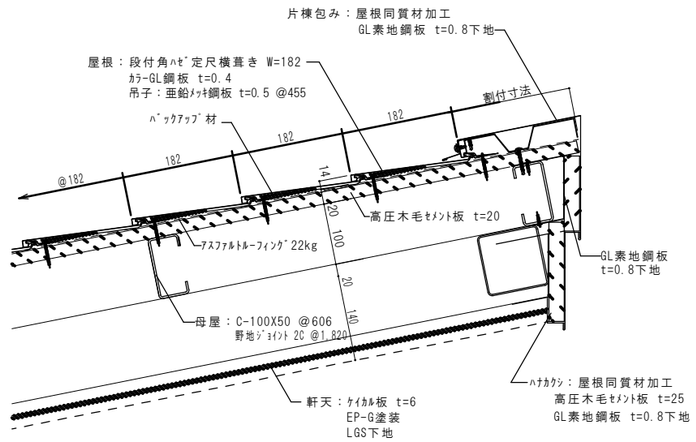
屋根１ 流れ側 外壁取合い部分　詳細図



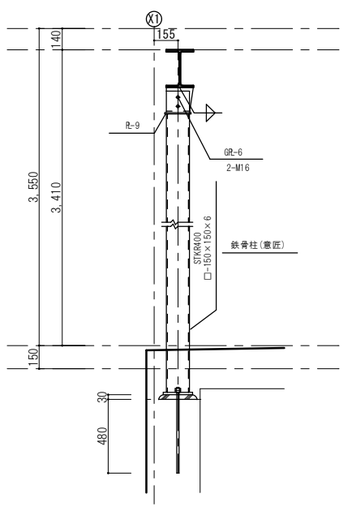
屋根１ 下り棟部分　詳細図

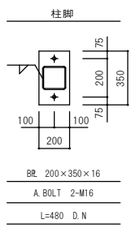


屋根１ 片棟部分　詳細図



X1通り　鉄骨化粧柱(意匠)





特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/5 A3→1/10	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）	No. A-29
					設計年月日 2023.00.00	図面名称 詳細図２	

	階	室名	必要面積		有効開口面積							判定	室/居室	備考
			室面積	1/50	窓記号	H	W	ヶ所	補正	有効面積	合計			
排煙	1	エントランス・通路・受付	75.49	1.5098	AOD 1	0.36	0.9	3	1	0.972	2.79	OK	居室	
					AOD 1	0.59	1.54	1	1	0.9086				
					AOD 2	0.59	1.54	1	1	0.9086				
		レクチャーホール	72.00	1.44	AW 1	0.36	0.86	12	1	3.7152	3.72	OK	居室	
		授乳兼救護スペース	5.52	0.1104	AW 2	0.46	0.9	1	1	0.414	0.41	OK	居室	
	2	事務室	103.98	2.0796	AW 6	0.66	0.9	4	1	2.376	2.38	OK	居室	

	階	室名	必要面積		有効開口面積										判定	備考
			室面積	1/20	窓記号	H	W	ヶ所	採光補正係数				有効面積	合計		
									D	H	D/H×6-1.4	係数				
採光	1	エントランス・通路・受付	75.49	3.77	AOD 1	2.2	0.9	3	10	4.71	11.34	3.00	17.82	17.82	OK	
		レクチャーホール	72.00	3.6	AW 1	2.2	1.8	3	10	6.6	7.69	3.00	35.64	35.64	OK	
		授乳兼救護スペース	5.52	0.276											NG	非常用照明の設置
	2	事務室	103.98	5.199	AW 4	1.46	1.8	2	10	2.17	26.25	3.00	15.76	15.76	OK	

敷地境界線まで10mを超える開口部については採光補正係数算出の際D寸法を10mとして算出

	階	室名	必要面積		有効開口面積								判定
			室面積	1/20	窓記号	H	W	ヶ所	窓種類	補正	有効面積	合計	
換気	1	エントランス・通路・受付	75.49	3.77	AOD 1	0.36	0.9	3	外倒し	1	0.97	4.745	OK
					AOD 1	2.45	1.54	1	両引き	1	3.773		
		レクチャーホール	72.00	3.60	AW 1	2.2	1.8	6	引き違い	0.5	11.88	11.88	OK
		授乳兼救護スペース	5.52	0.276	AW 2	0.46	0.9	1	外倒し	1	0.41	0.41	OK
	2	事務室	103.98	5.199	AW 4	1.46	1.8	4	引き違い	0.5	5.256	5.256	OK

	階	必要面積		有効開口面積									判定	
		床面積	1/30	開口部	H	W	ヶ所	ガラス種類	開き勝手	補正	有効面積	合計		
消防無窓	1	313.06	10.44	AW1	2.20	1.80	3	FL ｱ6.0 + A6 + FL ｱ5.0	引き違い	1	11.880	23.76	ＯＫ	有窓とする
				AW1	2.20	1.80	3	FL ｱ6.0 + A6 + FL ｱ5.0	引き違い	1	11.880			
	2	184.50	6.15	AW4	1.46	1.80	2	FL ｱ5.0 + A6 + FL ｱ3.0	引き違い	1	5.256	10.51	ＯＫ	有窓とする
				AW4	1.46	1.80	2	FL ｱ5.0 + A6 + FL ｱ3.0	引き違い	1	5.256			

収容人数　1F：72.00(レクチャーホール) +32.00(エントランス)+36.00(通路)+30.10(団体客用スペース)＝170.10÷3＝56.7・・・57人
2F：22人（職員）
計：79人

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺	工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北一仮称ビジターセンター）
					設計年月日 2023.00.00	図面名称　法計算表
						No. A-30

２０２１年１２月１日発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 構造設計特記仕様 その１

・訂正箇所は下線を引くこと
摘要は ■ 印を記入する。

１．本仕様の適用範囲

（１）本仕様の適用範囲

本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/mm²以上 60 N/mm²以下のコンクリートとJIS G 3112に規定するSD295、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが 60 m以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

（２）仕様書等の優先順位

設計図書および仕様書の優先順位は以下による。

①特記仕様
②設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

２．建築物の構造内容

（１）建築場所

（２）工事種別

■ 新築　□ 増築　□ 改築　□　□

（３）構造設計一級建築士の関与　■ 必要　□ 必要としない

□ 法第20条第二号（ □ RC高さ20 m超　□ S造 4 階以上　□ 木造高さ 13 m超　■ その他 ）
□

（４）階数

地下　階　地上 2 階　塔屋　階
地下　階　地上　階　塔屋　階
地下　階　地上　階　塔屋　階

（５）構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
■ 鉄筋コンクリート造 (RC)	基礎　階～　階	□ 免震建物
□ 鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)	階～　階	□ 制震建物
■ 鉄骨造 (S)	1 階～ 2 階	□ 塔状建物
□		□
□		□
□		□

（６）主要用途

■ 事務所　□ 共同住宅　□ 病院　□ 店舗　□ 倉庫　□　□

（７）屋上付属物

□ キュービクル　KN　□ 高架水槽　KN　□ 広告塔　KN　□ 煙突　m
■ 太陽光発電設備（将来）□　□　□

（８）設計荷重

(a)主な積載荷重

室名	床用	架構用	地震用

(b)１次設計用地地震力
Co= 0.20　Z= 1.0　Rt= 1.0　K（地下）=

(c)風荷重
地表面粗度区分 Ⅲ　基準風速 Vo= 30 KN/m²

(d)雪荷重
■ 垂直積雪量 50 cm　■ 設計用雪荷重 1.0 KN/m²　□

(e)特殊の荷重及び仕上材
□ エレベーター　KN　基　□ 受水槽　KN　□ エスカレーター
□　□　□　□

（９）構造計算ルート
X方向ルート　－（ 3 ）　Yルート　－（ 3 ）

（10）一次設計時用層間変形角
X方向 1/ 200 rad　Y方向 1/ 200 rad

（11）付帯工事
□ 門扉　□ 擁壁　□ 駐輪場　□ 機械式駐車場　□

（12）特定天井
□ 有　■ 無

（13）屋根、床、壁

材種	型式 厚 その他	使用箇所	仕様・構法
ALC (JIS A 5416)	厚	□ 壁　□ 床版	□ スライド □ ボルト止め
押出し成形セメント版			□ ロッキング
□ ハーフPca版　□ Pca版	厚	□ 壁　□ 床版	
折 版	H= 厚	□ 屋根 □	
特殊デッキプレート大臣認定（ ）	型式 厚	□ 屋根 □ 床版	

３．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（１）コンクリート　（レディーミクスコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所 階	部位	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質基準強度 Fq=N/mm²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 r =KN/m³	備考 (使用部位)
	□柱 □壁 □梁 □床版					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
1	□床版 □ ■基礎 □地中梁	24	27	18	23	地中梁・基礎
	■ デッキプレート	21				
	土間コンクリート	■ 21				※本仕様適用外
	捨てコンクリート	■ 18				※本仕様適用外

セメントの種類	■ ポルトランドセメント（■ 普通 □ 中庸熱 □ 低熱 □ ）（　）
	□ 高炉セメント（ □ A種 □ B種 □ C種 ）（　）
	□（　）
細骨材の種類	■ 砂 ■ 山砂 ■ 砕砂 □
粗骨材の種類	■ 砂利 ■ 砕石 □ □
水の区分	■ 水道水 ■ 地下水 □ 工業用水 □
構造体コンクリート強度を保証する材齢	材齢（ ■ 28日 □ 56日 □ 91日 □ ）
	養生（ ■ 標準 ■ 現場水中 ■ 現場封かん □ ）
単位水量	■ 185kg/m³ 以下 □ 175kg/m³ 以下
単位セメント量	■ 270kg/m³ 以上 □
混和剤	■ AE減水剤 □ 高性能減水剤 □
	□ □ □
空気量	■ 4.5% □ 3.0% □
塩化物量	■ 0.3kg/m³ 以下 □ □
水セメント比	■ 65% 以下 □ 50%以下 □

（２）コンクリートブロック　（□ JIS A 5406）

□ A種 □ B種 □ C種　厚 □ 100 □ 120 □ 150 □ 190　使用箇所（□ □ ）

（３）鉄筋

鉄筋	種類	使用径 mm	使用箇所	備考
異形鉄筋 (JIS G 3112)	■ SD295	D10～D16		■ 重ね継手
	■ SD345	D19～D25		■ ガス圧接継手
	□ SD390	D29～		□ 溶接継手
	□ SD490			□ 機械式継手
	□			□
	□			□ 機械式定着工法
高強度せん断補強筋	□ 685			□ 大臣認定番号 MSRB-
	□ 785			
	□ 1275			
	□			
溶接金網 (JIS G 3112)	■	6φ 150×150	デッキプレート	
	□			

注1） SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2） 各継手の使用詳細については本仕様その2の9.(2)鉄筋継手の項に■にて表示すること。

（４）鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
□SN400A ■SN400B ■SN400C		□有 ■無	JIS G 3136
□SN490B ■SN490C □		□有 ■無	JIS G 3136
■SS400 □SS490 □		□有 ■無	JIS G 3101
□SM400A □SM490A □		□有 □無	JIS G 3106
■BCR295 □TSC295 □		□有 ■無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□BCP235 □BCP325 □		□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□STKR400 □STKR490 □		□有 □無	JIS G 3466
■SSC400 □ □		□有 ■無	JIS G 3350
□ □ □			
溶接材料 □ □			JIS Z
□ □ □			

（５）ボルト等

■ 高力ボルト
■ F10T（JIS B 1186　S10T　大臣認定番号（　））（■ M16, ■ M20, □ M22, □ M24, □ ）
□ 溶融亜鉛メッキ高力ボルト F8T 大臣認定番号（　）（□ M16, □ M20, □ M22, □ M24, □ ）
□
■ ボルト（JIS B 1180）M　M　■ 4.8(4T)　□　□
■ アンカーボルト（構造用アンカーボルト）
■ SS400 M　L=　mm　ナット（□ シングル ■ ダブル）
■ ABR400 M　L=　mm　ナット（□ シングル ■ ダブル）（JIS B 1220）
□ M　L=　mm　ナット（□ シングル □ ダブル）
□ 頭付スタッド（JIS B1198）
φ=　L=　mm　使用箇所（□ 柱 □ 大梁 □ 小梁）
φ=　L=　mm　使用箇所（□ 柱 □ 大梁 □ 小梁）

４．地盤

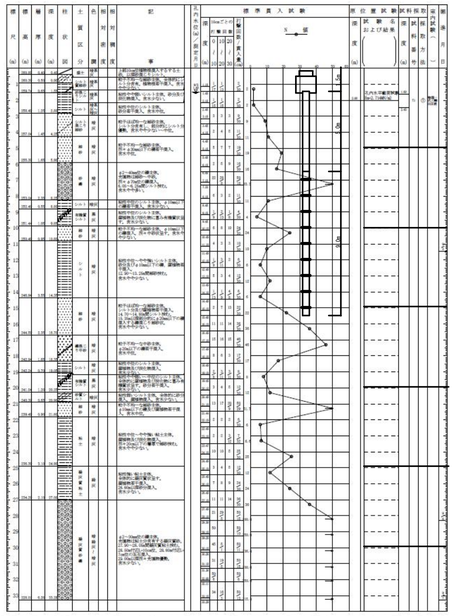
（１）地盤調査資料と調査計画

■ 有（ ■ 敷地内 □ 近隣 ）□ 無（ 調査計画 □ 有 □ 無 ）

調査項目	資料あり	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験	●	
水平地盤反力係数の測定	●		土質試験			物理探査		
試験堀（ 支持層の確認 ）			平板載荷試験			液状化判定	●	
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			PS検層		

注） 上記表中の資料があるもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（２）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

５．地業工事

（１）直接基礎　□ ベタ基礎　□ 布基礎　□ 独立基礎　試験堀 □ 有 □ 無
深さGL- m　支持層-　長期許容支持力 KN/m²　載荷試験 □ 有 □ 無

（２）地盤改良　□ 浅層混合処理工法　□ 深層混合処理工法　□
深さGL- m　長期許容支持力度 KN/m²　積載試験 □ 有 □ 無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2018」を参考とする

（３）杭基礎
■ 支持層の想定深度分布図を作成し、杭と支持層の関係を確認する。
■ 施工計画書に施工時における試験杭と本杭の支持層の確認方法を明記する。
■ 支持層の確認結果を施工結果報告書にまとめる。

杭種	材料	施工法	備考
□ 場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc N/mm³ スランプ m以下 セメント量 /m³ 単位水位 kg/m³	□ オールケーシング □ リバースサーキュレーション	認定 第 号

既製杭・杭種	種類
■ PRC	■ Ⅰ種 □ Ⅱ種 □ Ⅲ種
■ PHC	■ A種 □ B種 ■ C種
□ 鋼管	□
□ SC	□

杭仕様 ■ 施工計画書承認 ■ 杭施工結果報告書
試験杭 （ □ 有 □ 無 ）（ □ 打ち込み □ 載荷 □ 孔壁測定 ）本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)
400φ-500	500	GL-15.5
400φ-550	650	GL-15.5

６．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「JASS6 2018年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■ 一社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■ 鉄骨制作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２）工事管理者の承認を必要とするもの
■ 製作要領書 ■ 工作図 ■ 施工計画書
■ 認定工場（大臣認定 S H (M) R J グレード）
■ 材料規格証明書 ※、または試験成績書
■ 鋼材 ■ 高力ボルト □ 特殊ボルト □ 頭付スタッド
※一社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
■ 社内検査表

（３）工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□ 現寸検査 □ 組み立て・開先検査 ■ 製品検査 ■ 建方検査 □

（４）接合部の溶接は下記によること
■ 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
■ 鉄骨造等の建築部の工事に関する東京都扱要綱
■ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、ⅥⅦ、Ⅷ、Ⅸ」
■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」

（５）接合部の検査
□ 溶接部の検査（検査結果は高管理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
■ 完全溶け込み溶接部（付け合わせ溶接）	外観検査（※）	100 % 個	100 % 個	（ 3個 ）	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波探傷検査	100 % 個	30 % 個	（ 3個 ）	
□	内質検査(注) □ 硬さ試験	% 個	% 個	（ ）	(注)東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
	内質検査(注) □ 示温塗料塗布	% 個	% 個	（ ）	
	マクロ試験・その他	個	個	（ ）	
□	外観検査（※）	% 個	% 個	（ ）	
第三社検査機関名			（都知事登録 号 ）		

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は、工事施工者が、受け入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

■ 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すtること）
軸力導入試験 □ 要 ■ 否　高力ボルト滑り係数試験 □ 要 ■ 否
■ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常がないことを確認する。
■ トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

（６）防錆塗装
■ 防錆とその範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、□ JIS K 5621 □ JIS K 5625 ■ JIS K 5674 □
（フォースター F☆☆☆☆）を使用し、2回塗を標準とするが、実状に応じて決定すること。
■ 現場における高力ボルト接合部および接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、２回塗とする。
□

（7）耐火被覆の材料
□

７．設備関係

■ 建築設備の構造及び構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
■ 建築物にもおける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
■ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力に対して適切に支持されていること。
■ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□ エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は構造体に安全に緊結されていること。
また、地震時の層間変形に追従できること。
□ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
□

８．その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を保管すること。
□

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/- A3→1/-
					設計年月日 2022.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）
図面名称　新 構造設計特記仕様 その１
No. S-01

新 構造設計特記仕様　その２

・訂正箇所は下線を引くこと
摘要は　■　印を記入する。

９．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート工事

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS5 2018 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の１７節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクスコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS5の１４節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm²) に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2 レディーミクスコンクリートのJIS規格品

調合管理強度 (N/mm²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記がない場合は標準とする。
　□ 標準　　□ 長期　　□ 超長期
　（本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。）
■ コンクリートは JIS A 5308 （レディミクスコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。
■ 設計基準強度が36N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディミクスコンクリート工場は「高強度コンクリート」の製品認証をうけているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
■ レディミクスコンクリート工場及び高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技術士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、品質管理計画書を作成し、工事管理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が36N/mm²以下33N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし、設計基準強度が36N/mm²超 45N/mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm²以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。
■ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m³以下とする。
■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25° C未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。
■ コンクリートの打ち込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
■ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。
■ コンクリートの打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(C) 調合及び構造体コンクリート強度

■ コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108（コンクリートの圧縮強度試験方法）もしくはJIS A 1107（コンクリートからのコアの採取方法）による。

i) 高強度コンクリート

■ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は28日とする。
■ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は91日とする。
■ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
　① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
　② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm²加えた値以上とする。
■ 調合管理強度は、以下による。
　$_HF_m = F_c + {}_mS_n$　(Nmm²)
　$_HF_m$ ： 高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
　F_c ： コンクリートの設計基準強度　(N/mm²)
　$_mS_n$ ： 今日強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS5 による。
■ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。
　$_HF \geqq {}_HF_m + 1.73\sigma_H$　(N/mm²)
　$_HF \geqq 0.85\,{}_HF_m + 3\sigma_H$　(N/mm²)
　$_HF$ ： 高強度コンクリートの調合強度　(N/mm²)
　σ_H ： 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1 ($F_c + {}_mS_n$)とする。

ⅱ）普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として28日とする。
■ 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢 (1)	判定基準
標準養生 (2)	28日	X ≧ F_m
コ　ア	91日	X ≧ F_q

ただし、X ： 1回の試験における3個の試供の圧縮強度の平均値　(N/mm²)
　F_m ： コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
　F_q ： コンクリートの品質基準強度　(N/mm²)
［注］(1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
　(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光及び風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。
＊ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm²を減じた値が品質管理強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、いかによる。
　$F_m = F_q + {}_mS_n$ (N/mm²)
　F_m ： コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
　F_q ： コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)
　$_mS_n$ ： 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮高度の差による構造体強度補正値 (N/mm²)
■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度であらわすものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として28日とする。
　F ≧ $F_m + 1.73\sigma$ (N/mm²)
　F ≧ $0.85F_m + 3\sigma$ (N/mm²)
　F ： コンクリートの調合強度 (Nmm²)
　σ ： 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差(N/mm²)で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm²、または $0.1F_m$の大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合1日1回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ スランプ許容差は普通コンクリートの場合、スランプが8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水材を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超えるときは±10cmとする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、１回の試験は、打込み工区事、かつ 150cm³またはその端数ごとに 3個の試供体を用いて行う。 3回の試験で 1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ごとに検査ロットを構成して行う。 1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔を開けた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の試供体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150cm³またはその端数ごとに1回行う。 1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、 JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。
□ コンクリートの試験は、「建築部の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
　試験・検査機関名　　（都知事登録　　号）
　代行業者名　　（登録番号　　号）
　代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（２）鉄　　筋

(a) 施工

■ 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼） に適合するものを用いる。溶接金鋼I及び鉄筋格子は、JIS G 3551 （溶接金網及び鉄筋格子）に適合するものを用いる。
■ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
■ 鉄筋加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。
■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手又は溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級					鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位 (注)					
		A 級	B 級	SA級			
■ 重ね継手	標準図による					■ D（ 16 ）以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	■				■ D（ 19 ）以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□			□ D（　）以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□		□ D（　）以上	

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2020）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

□ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。
■ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時に原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。
■ 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。
□ 機械鉄筋定着工法に用いる定着板には、信頼できる機関による性能証明等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

ⅰ）鉄筋の種類・径の検査
■ 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。
ⅱ）配筋の検査
■ 鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は、計測で確認する。
ⅲ）鉄筋継手部の検査
各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、(公社)日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9.5 鉄筋の継手部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■ 外観検査	全数※	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（ 30 ）箇所又は（　）%	JIS Z 3062：2014による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3120：2014による
溶接継手	□ 外観検査	全数※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIJS　0005：2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241：2011による
機械式継手	□ 外観検査	全数※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIJS　0003：2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241：2011による

注）1 抜取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200か所程度とする。
~~注）2 ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜取った3本以上とする。~~

※外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

表9.6 外観検査の要領

	自主検査	受入検査		工事監理者	備　考
		検査機関	施工者		
■	全数	全数	（　　）	（　　）	
□	全数	超音波探傷又は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外	（　　）	
□	全数	—	全数	（　　）	
□	全数	抜取り1検査ロット当たり（　　）箇所又は（　　）%	（　　）	（　　）	

□ 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、または施工者が自ら契約した機関とする。
□ 試験機関は「建築物の工事における試験及び検査における東京取扱要綱」第4条の試験機関、検査期間は同要綱第8条の検査機関とする。
　試験機関名　　（都知事登録　　号）
　検査機関名　　（都知事登録　　号）

（３）かぶり厚さ

■ 最小かぶり厚さは、表9.7に規定する設計被り厚さを10mm減じた値とする。
■ 設計かぶり厚さは、コンクリート打ち込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.7以上の値とする。

表9.7 設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋　内	屋　外 (2)	屋　内	屋　外 (2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材の同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材(1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立ち上がり部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注）(1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
　(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性状有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

■ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
■ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施工令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくてもよい。

（４）型　枠

■ 型枠および支保工の存置期間は、下表による。

表9.8 型枠存置日数　昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種類 / 部位		せき板				支柱		
セメントの種類		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント / 高炉セメントA種 / シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント / 高炉セメントA種 / シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント / 高炉セメントA種 / シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント / 普通ポルトランドセメント / 高炉セメントA種 / シリカセメントA種
存置期間の平均気温								
コンクリートの材令（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		※ 5.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の		
						85%		100%

※　JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5N/mm²以上、長期及び超長期の場合は 10N/mm²以上、また高強度コンクリートの場合は 10N/mm²以上。
注）1 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注）2 大梁の支柱の盛替えは、行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5 支柱の盛替えは小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
注）6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注）7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

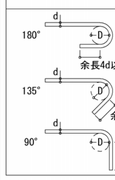
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　D･･･部材の成、又は鉄筋内法直径

@･･･間隔　r･･･半径　℄･･･中心線　ℓ_0･･･部分間の内法距離　ｈｏ･･･部材間の内法高さ

ＳＴ･･･あばら筋　ＨＯＯＰ･･･帯筋　Ｓ.ＨＯＯＰ･･･補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

[注]（１）dは呼び名に用いた数値とする。

（２）スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（３）片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（４）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

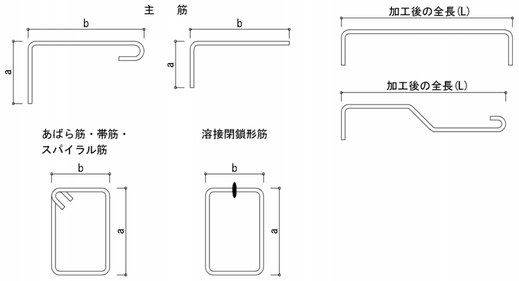
（５）折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（６）SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差　(mm)

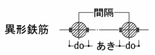
項目			符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a, b	± 15
		D29以上D41以下	a, b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a, b	± 5
加工後の全長			L	± 20

[注]（１）各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋

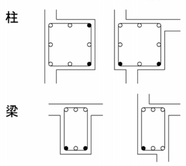
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
　および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)

d. 単純梁の下端筋

e. その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の
末端にはフックが必要



（５）定着長さ　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

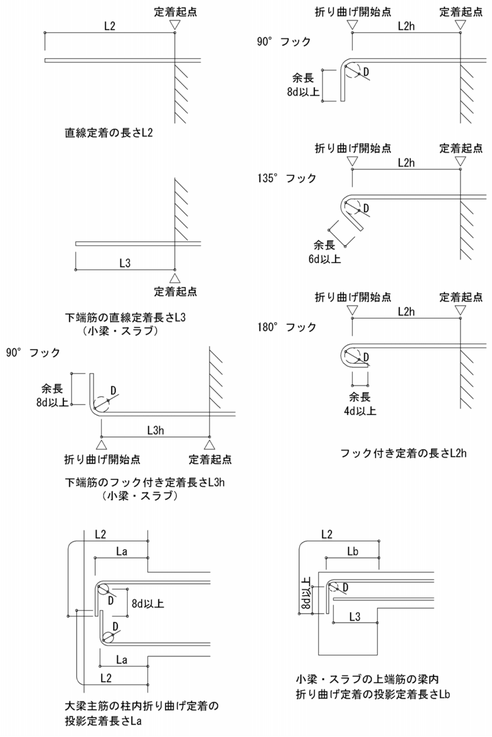
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	一般 L2h（フックあり）	一般 La(3)	一般 Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	小梁下端筋 L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

[注]（１）フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（２）フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（３）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。
尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

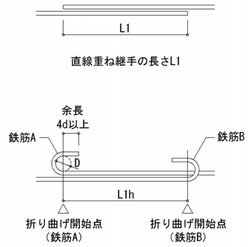
（４）耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着L2とする。



（６）継手

■重ね継手　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1（フックなし）	重ね継手長さ L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



[注]（１）表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（２）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

（３）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

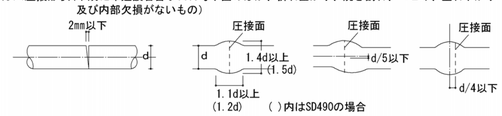
1．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。

2．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。

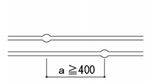
3．鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。

4．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

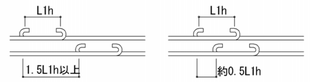
・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手



・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1



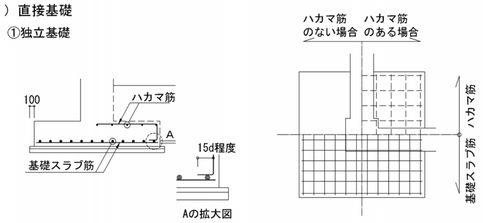
5．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。

6．非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

３．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

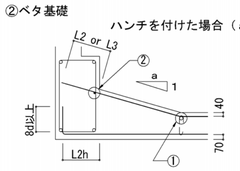
（１）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

ハンチを付けた場合（ａ≧3）



1．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる

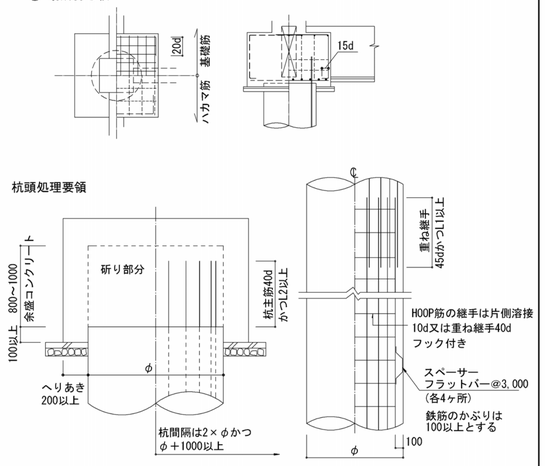
2．① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

3．② の鉄筋はD13以上

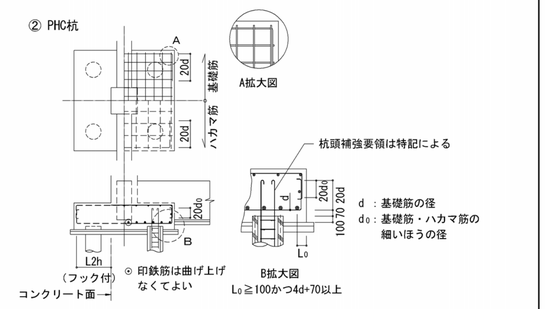
4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

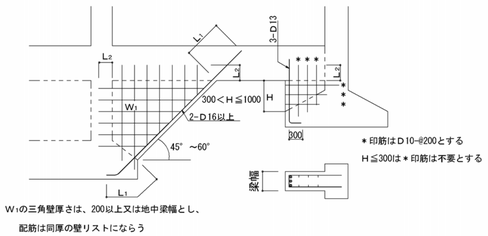
① 場所打ち杭



② PHC杭



（３）基礎接合部の補強



特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/- A3→1/-	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）	No. S-03
					設計年月日 2022.00.00	図面名称 新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	

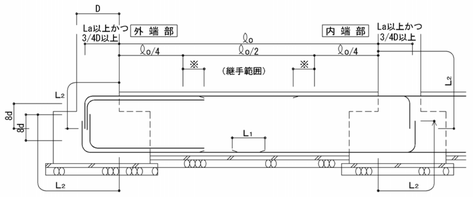
２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

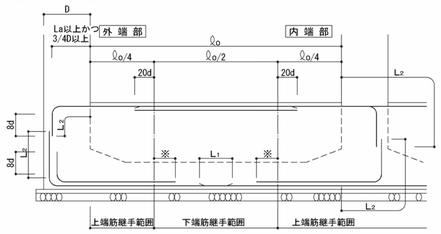
４．地中梁

（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）
（長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。）



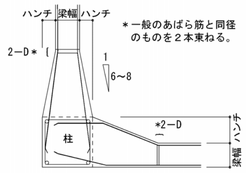
※主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

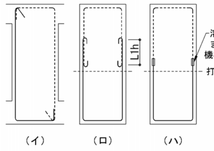


※主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領　（４）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



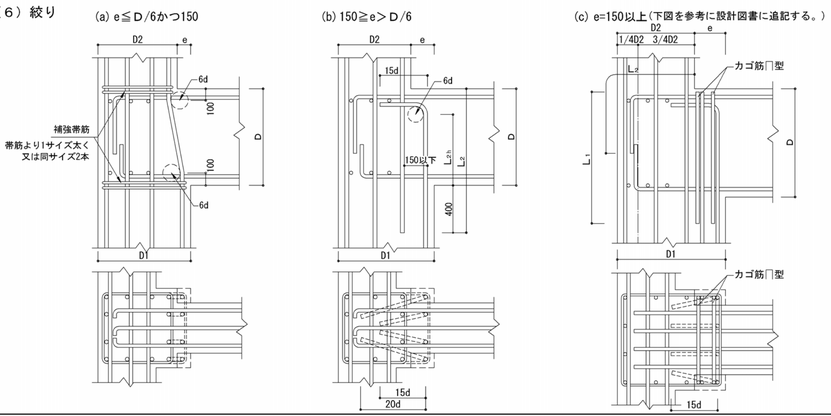
＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。



［注］（イ）で、⌊ を使用してよいが、
⌊ は使用してはいけない。

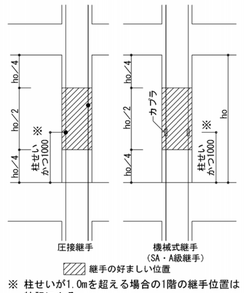
（ロ）では、あばら筋の継手は180°フック付きとする。

（６）絞り



５．柱

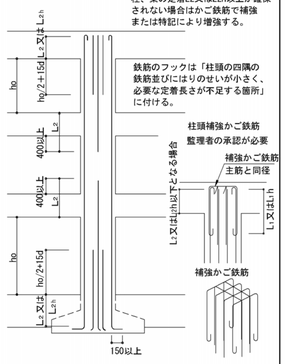
（１）柱主筋の継手位置



※ 柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

（２）柱主筋の定着

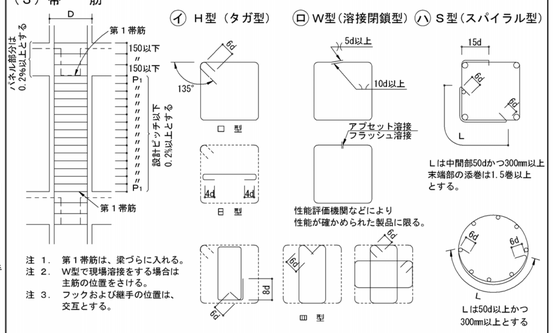
柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強または特記により増強する。



鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

柱頭補強かご鉄筋
整理者の承認が必要

（３）帯　筋

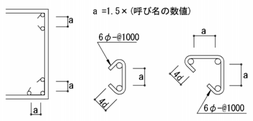


Lは中間部50dかつ300mm以上
末端部の添巻は1.5巻以上とする。

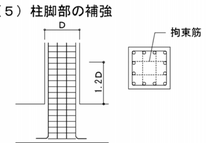
注 1.　第１帯筋は、梁づらに入れる。
注 2.　W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注 3.　フックおよび継手の位置は、交互とする。

Lは50d以上かつ300mm以上とする

（４）寄せ筋の保持



（５）柱脚部の補強



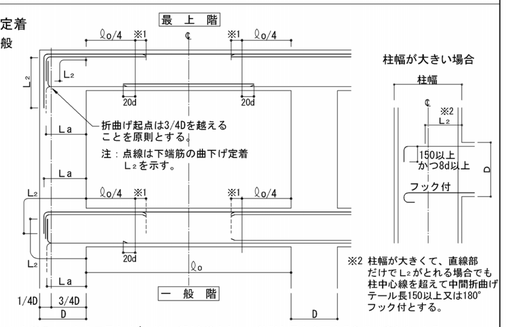
1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する。

拘束筋は以下による。
□帯筋と同径・同ピッチ、X・Y 2巻づつ
□図示による

６．大梁

（１）定着

ⓐ一般



※1 主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

ⓑハンチがある場合

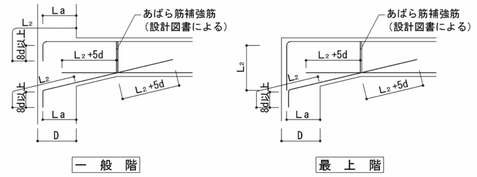
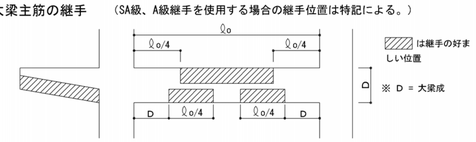


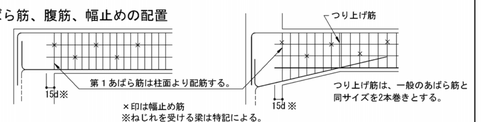
表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

部 材 名	ℓo/4 に加える長さ	部 材 名	ℓo/4 に加える長さ

（２）大梁主筋の継手　（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。）



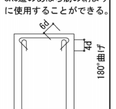
（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置



（４）あばら筋の型　（注、床版がない場合は135°以上のフックとする。）

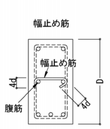
（イ）原則として ⓐ のフック先曲とする。片側床版付（L型）梁で ⓑ 、両側床版付（T型）梁で ⓒ 又は ⓑ とすることができる。
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、ⓑ にあってはスラブ付側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。



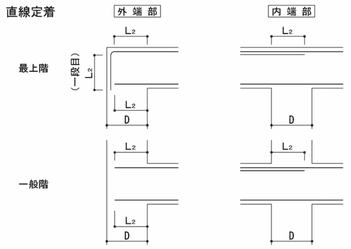
（５）幅止め筋の本数、加工

腹　筋	D＜600 不要	
	600≦D＜900	2−D10　1段
	900≦D＜1200	4−D10　2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

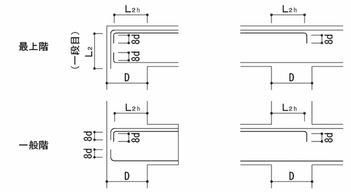


（６）梁主筋の定着

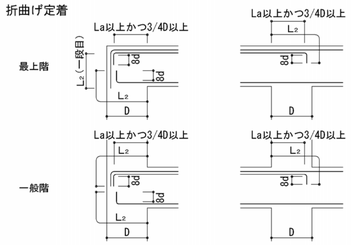
① 直線定着



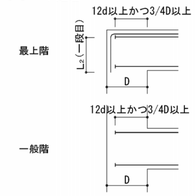
② 90°フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※最上階 L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。

※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

特　記 事　項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮　尺 A1→1/- A3→1/-	工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）
					設計年月日 2022.00.00	図面名称　新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

No. S-04

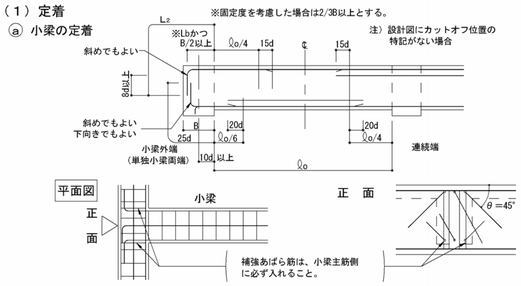
２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

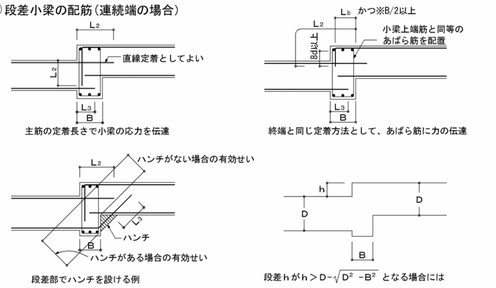
７．小梁、片持梁

（１）定着

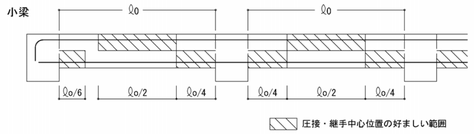
ⓐ 小梁の定着



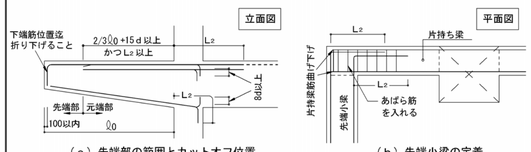
ⓑ 段差小梁の配筋（連続端の場合）



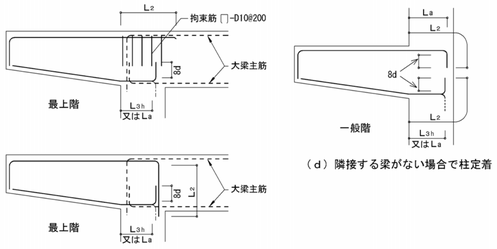
ⓒ 小梁筋の継手位置



ⓓ 片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4Ｄ以上とすること。



（ａ）先端部の範囲とカットオフ位置　（ｂ）先端小梁の定着

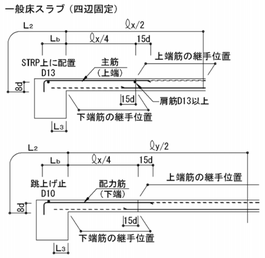


（ｃ）隣接する梁がある場合で柱定着
又は、隣接する梁へ定着する場合

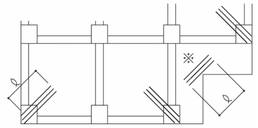
（ｄ）隣接する梁がない場合で柱定着

８．床　　版

（１）定着および継手



（２）屋根スラブの補強

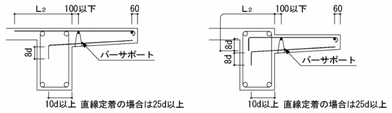


ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

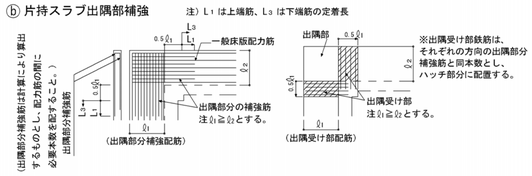
ⓑ ※の箇所（入隅）は各階補強する。

（３）片持床スラブ定着及び出隅部補強

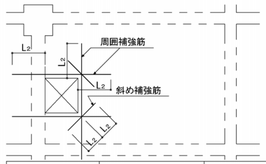
ⓐ 片持床スラブ定着



ⓑ 片持スラブ出隅部補強　注）L₁は上端筋、L₃は下端筋の定着長



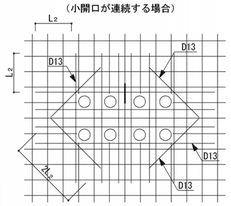
（４）床版開口部の補強（開口の径600以下程度の場合）



床版厚さD	周　囲	斜　め
D ≦ 150	上・下各 2-D13	1-D13
150 ＜ D ≦ 300	上・下各 2-D13	1-D13
300 ＜ D ≦ 500	上・下各 2-D19	1-D16

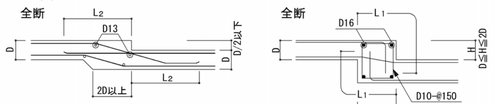
周囲、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同径、同本数鉄筋を開口横に配筋する。

（小開口が連続する場合）



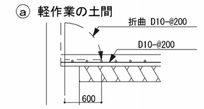
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。
孔と孔のへりあき100以上

（５）床版段差

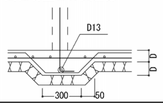


（６）土間コンクリート

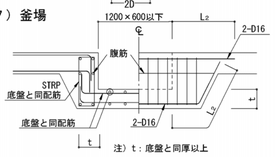
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交差部



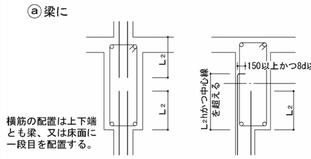
（７）釜場



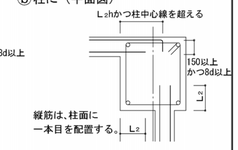
９．壁

（１）定着

ⓐ 梁に

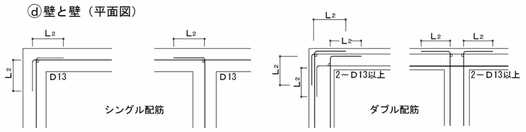


ⓑ 柱に（平面図）



ⓒ 床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

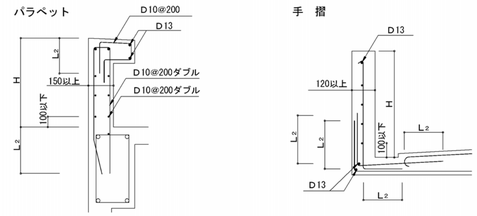
ⓓ 壁と壁（平面図）



（２）スリット部（設計図に記入のあるとき）

完全スリット

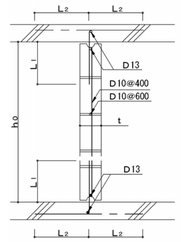
（３）手摺、パラペット



（但し、H＞８００以上の場合、設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

一般の場合

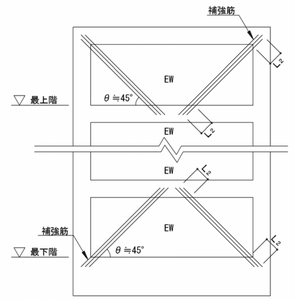


（５）耐震壁端部の納まり

：鉄筋径および間隔は壁筋と同等、同ピッチ以上とし、壁筋に135°フックを設けた場合のＬはｄとする。
壁筋にフックを設けない場合のＬはL2とする。

注）ｈｏ≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦ｈ≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

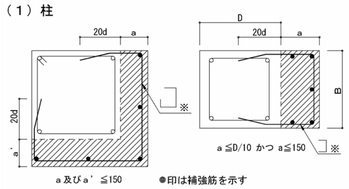
（６）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180～200の場合4-D13@100シングル
EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）柱



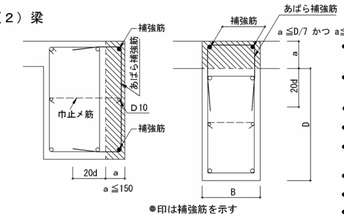
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ハッチ部分の面積　A cm²

補強タテ筋

A＜500	500≦A＜1000
3−D16	4−D16

- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

（２）梁

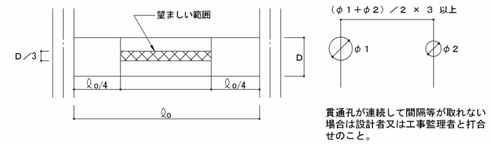


- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ１６以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋Ｄ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B≧400の場合は補強筋を３本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強　（開口補強筋については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパンℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は原則として避ける



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）既製品（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

□製品名

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

特　記	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮　尺 A1→1/- A3→1/-
事　項					設計年月日 2022.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）

図面名称　新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

No. S-05

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）材料及び検査

(a) 新構造設計特記仕様その1による。
(b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。
　但し、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。

（２）工作一般

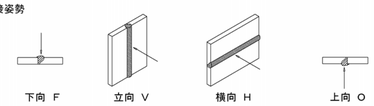
(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

（３）高力ボルト接合

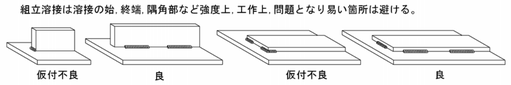
(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（４）溶接接合

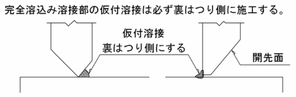
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
　溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c) 溶接機器
　(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A　　(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
　(ロ) アークエアーガウジング機(直流)　　(ホ) 溶接電流を測定する電流計
　(ハ) セルフシールドアーク溶接機　　(ヘ) 溶接棒乾燥器
(d) 溶接方法
　被覆アーク溶接(アーク手溶接、ＭＣ、ＭＰ)　　ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、ＧＣ、ＧＰ)
　セルフシールドアーク溶接（半自動溶接、ＮＧＣ）　　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）
(e) 溶接姿勢



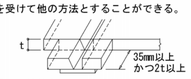
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
　(イ) 仮付位置
　組立溶接は溶接の始,終端,隅角部など強度上,工作上,問題となり易い箇所は避ける。



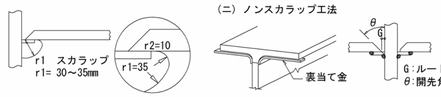
　(ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



(g) 溶接施工
　(イ) エンドタブ
　・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
　・エンドタブの材質は,母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
　・エンドタブの長さは、ＭＣ:35mm以上
　　ＮＧＣ,ＧＣ:40mm以上とし特記のない場合は、
　　溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
　　グラインダー仕上げとする。



　・プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
　(ロ) 裏当て金
　材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
　但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
　(ハ) スカラップ半径はr1=30～35mmとr2=10mmのダブルアールとする。
　　但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr1=20mmとする。



　(ホ) 裏はつり
　規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。
　(ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う。

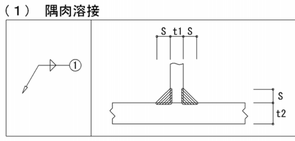
（５）塗 装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

２．溶接規準図 （注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長

（単位mm）

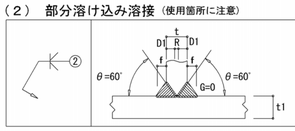
（１） 隅肉溶接



	t≦16			
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする。
・t は t1, t2の小なる方とする。
　余盛は(1+0.1S)mm以下とする。
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

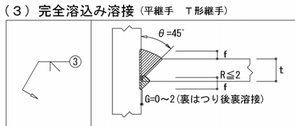
（２） 部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



R≦2
t/4 ≦ f ≦ 10
t≦t1

t	16＜t≦40
溶接姿勢	F.V

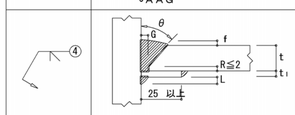
（３）完全溶込み溶接（平継手　Ｔ形継手）



t/4 ≦ f ≦ 10

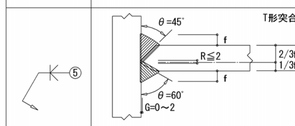
t	6≦t≦40
溶接姿勢	F.V

∘ＡＡＧ



t/4 ≦ f ≦ 10

	MC　NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t＜16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

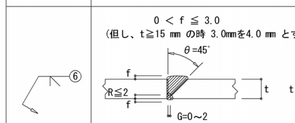


T形突合せ継手余盛

t/4 ≦ f ≦ 10

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
19＜t≦40	4
溶接姿勢	F.V

∘ＡＡＧ

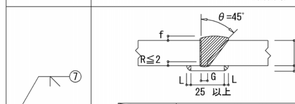


0 ＜ f ≦ 3.0
(但し、t≧15 mm の時 3.0mmを4.0 mm とする)

t2/4 ≦ a ≦ 10
(平継手で板厚が異なる時)

t	6＜t≦40
溶接姿勢	F.V

∘ＡＡＧ

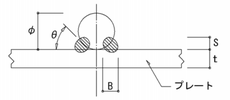


0 ＜ f ≦ 3.0
(但し、t≧15 mm の時3.0mmを4.0mmとする)

	MC　NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19＜t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

（４）フレアー溶接

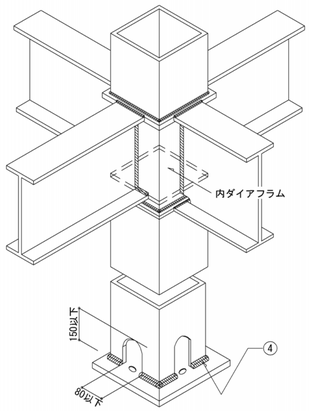
K形の場合

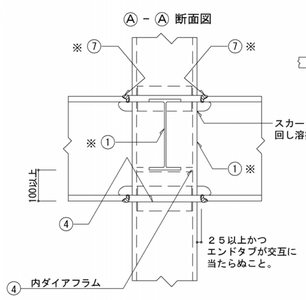


寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレアー溶接長は,鋼板に接する全長とする。
・9 mm～16 mmは1パス以上,19 mm以上は2パス以上とする。
　溶接棒角度θは30°～40°とする。

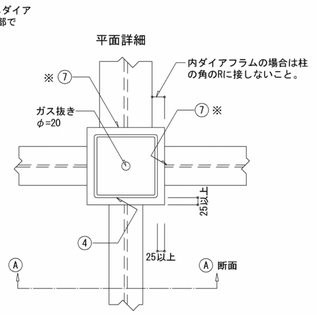
●BOX型（通しダイアフラムの場合）





⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。

① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。



ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
＜ 柱材料:BCR295,BCP325を使用する場合 ＞
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C　SN490B
　　柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C　を使用する。

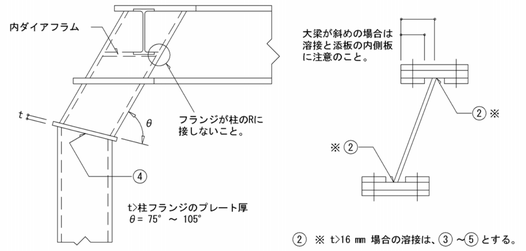
●鋼材種別による溶接条件

溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼 材 の 種 類		規 格	溶 接 材 料	入熱(kJ/cm)	パス間温度(℃)
一般鋼材	400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	40 以下	350 以下
			YGW18, YGW19	30 〃	450 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30 〃	450 〃
		JIS Z 3211	E43xx, E49xx	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30 〃	250 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
		JIS Z 3211	E49xx	40 〃	350 〃
冷間成形角形鋼管	400N級炭素鋼 BCR295, BCP235 STKR400	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼 BCP325 STKR490	JIS Z 3312	YGW18, YGW19	30 〃	250 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

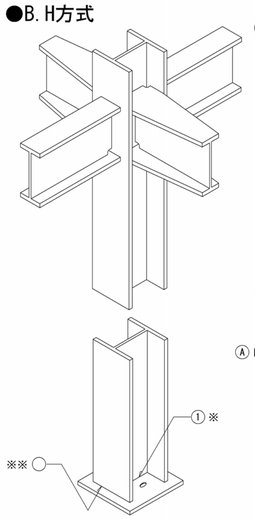
注）ロボット溶接の場合（一社）日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認証条件に従うこと。
　490N/mm² を超える部材は適合する溶着金属を使用すること。
　ガスシールドアーク溶接法による完全溶け込み溶接部に適用する。

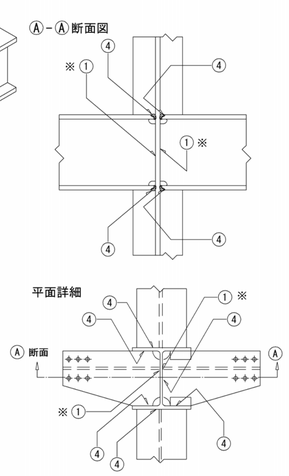
● 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合



② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

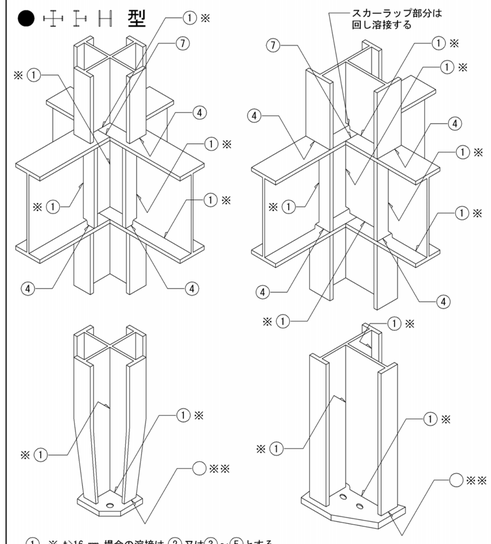
●B.H方式





① ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

● H 型



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。
◯ ※※ 印は設計者が記入すること。

特 記 事 項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮　尺 A1→1/- A3→1/- 設計年月日 2022.00.00	工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター） 図面名称　鉄骨構造筋標準図(1)	No. S-06

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

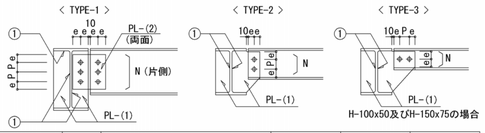
３．継手規準図，その他

（１）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ (P)　ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

呼び径 d		ボルト穴 径	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M30を超える	呼び径＋５		9d/5	4d/3			

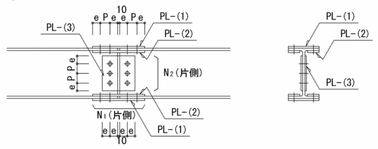
〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離。
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離。

（２）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N － 径
	3	H－125・60・6・8	6		2－M16
	3	H－150・75・5・7	6		2－M16
	2	H－175・90・5・8	6		2－M16
	2	H－200・100・5.5・8	6		2－M16
	2	H－250・125・6・9	6		3－M16
	2	H－300・150・6.5・9	9		3－M20
	2	H－350・175・7・11	9		4－M20
	1	H－350・175・7・11	9	6	4－M20
	2	H－400・200・8・13	9		5－M20
	1	H－400・200・8・13	9	9	4－M20

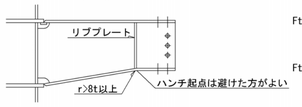
（３）剛接合梁継手リスト (SCSS-H97による)



〔注〕端部をBHとする場合の部材は設計図による。

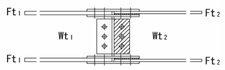
符 号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N₁－ 径	ウエブ PL-(3)	N₂－ 径

（４） ハンチ部の継手



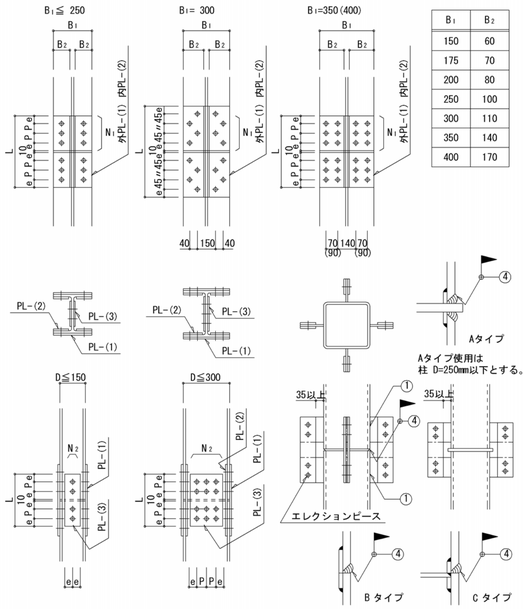
ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による。
r：半径　t：板厚

フランジ及ウエブ厚の差のある場合



Ft₁－Ft₂
Wt₁－Wt₂ ≧1mm　フィラプレート併用の事

（５）柱継手リスト



B₁	B₂
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符 号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N₁－ 径	ウエブ PL-(3)	N₂－ 径

（６）ターンバックルブレース (JIS規格品とする ･･･ JIS A 5540 … 2008 / 5541 … 2008)

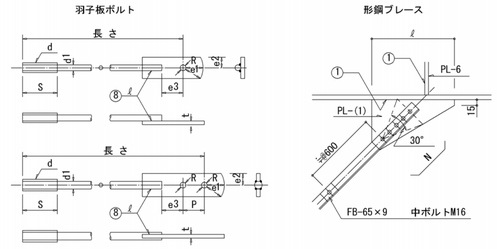
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最　大		10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最　小		10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0 , -0.5 mm		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(2)	e1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小) (1)	e2	28	28	28	34	34	38	38
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小) (1)	e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき (最小)		e3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		W	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種　類		JIS B 1186　2種高力ボルト(F10T)　(3)						
	ねじの呼び		M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本　数		1	1	1	1	1	1	2

〔注〕(1) e1,e2が確保されれば形状は自由でよい。
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
(3) 溶融亜鉛めっき製品では、JIS B 1186 に規定する 1 種 F8TAに準じるものを使用する。

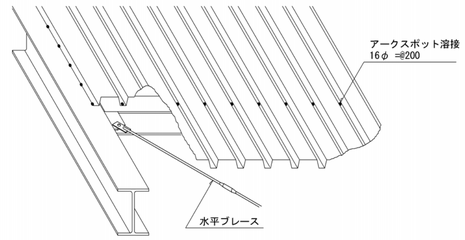
(b) 形鋼ブレース

符 号	部　材	PL-(1)	N － 径	ℓ

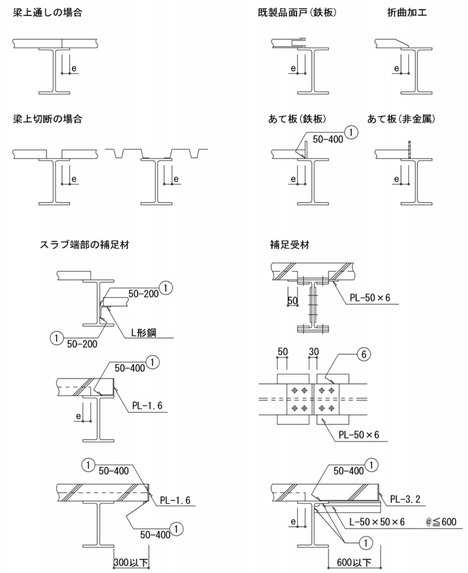


（７）デッキプレート (床剛性を考慮する合成床, 合成梁のときは構造図参照)

梁との溶接およびコネクター

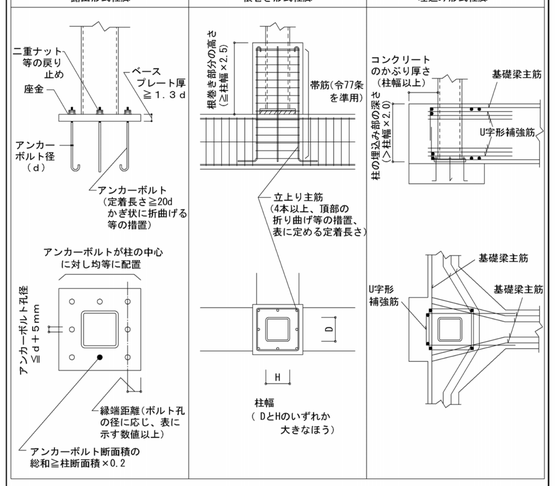


受梁へのかかり寸法及端部処理　　e ： 長手方向で50mm以上、幅方向で30mm以上とする。
且つ、各メーカーの仕様による。



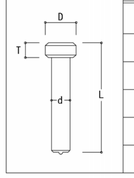
（８）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220,JIS B 1221を使用する。



（９）頭付きスタッド(JIS B 1198 - 2011)

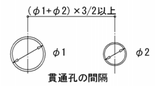
スタッド材の標準形状・寸法

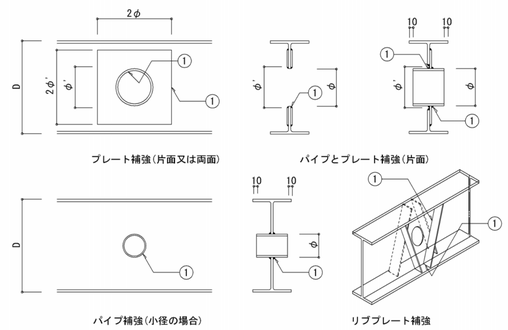


スタッド材 呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
φ13 mm	13	25	8	□80　□100　□120　□
φ16 mm	16	29	8	□80　□100　□120　□
φ19 mm	19	32	10	□80　□100　□120　□150　□
φ22 mm	22	35	10	□80　□100　□120　□150　□
φ25 mm	25	41	12	□120　□150　□170　□

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置, 寸法及び補強方法によらなくて良い。
・梁端部 (内法スパン ℓo の1/10以内かつ、2D以内) は避ける。
・φ≦ 0.4D
・φ' は補強板の穴径を示す。





プレート補強の板厚

スリーブ径	補　強　板
φ≦ 0.15D	補強板不要　(計算で安全性の確認を行う)
φ≦ D/4	Web板厚以上 (片面)
φ≦ D/3	Web板厚x1.2倍以上 (片面)
φ≦ 0.4D	Web板厚以上 (両面)

特　記	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮　尺 A1→1/- A3→1/-
事　項					設計年月日 2022.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）
図面名称　鉄骨構造筋標準図(2)
No. S-07

ハイベースNEO工法設計施工標準

（ハイベースNEO工法は、S造及びＣＦＴ造に適用）

2021/8

大臣認定　MSTL-0404,0180（Gタイプ用ベースプレート）
　　MBLT-0042～0046（アンカー用ボルトセット）

BCJ評定　BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
　　BCJ評定-ST0059（エコタイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 ＪＡＳＳ ６ 鉄骨工事、建築工事標準仕様書
同解説 ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設　　計

１．材質

（１）ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ（ＥＢ型式、ＥＭ型式、ＥＨ型式）

	ベースプレート		アンカーボルト※2	エコナット※2	ナット※2	座金※2	定着板
規格	JIS G3136	TMCP鋼※4	HAB（大臣認定取得材）	大臣認定取得材	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B 板厚40mm以下	SN490相当 板厚40mm超	降伏比 70%以下	−	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Ｇタイプ（ＧＢ型式、ＧＭ型式、ＧＨ型式）

	ベースプレート※1	アンカーボルト※2	ナット※2	座金※2	定着板
規格	HCW490b HCW490st（大臣認定取得材）	HAB（大臣認定取得材）	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	メートル並目※3	メートル並目※3	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分（二重ナット用） 強度区分（一重ナット用）	SM490A	SS400

※１　国土交通大臣認定（ＭＳＴＬ−０４０４、０１８０）　※２　国土交通大臣認定（ＭＢＬＴ−００４２～００４６）
※３　Ｍ７２は細目ねじ　　※４　建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

（２）ベースプレート下面のモルタル

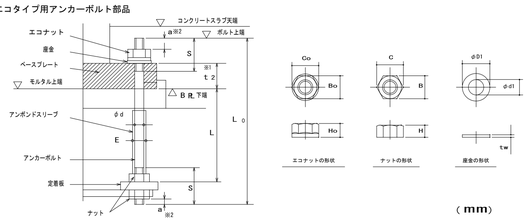
後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ−２０００、又はクイック３およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※　※ センクシアが供給するものに限る
中心塗部分モルタル	○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル（NX−２０００及びクイック３は使用不可。） ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

（３）基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、Ｆｃ＝１８～３６Ｎ／ｍｍ²
鉄筋	ＪＩＳ Ｇ３１１２「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の０．１倍以上確保しなければならない。

２．アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ用アンカーボルト部品



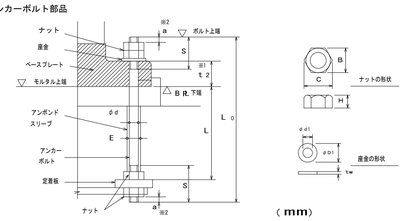
（mm）

ねじの呼び	アンカーボルト 軸径	ねじ ピッチ	ねじ 長さ	余長※2	定着長さ	全長	アンボンドスリーブ 外径	エコナット 高さ	二面幅	対角距離	ナット 高さ	二面幅	対角距離	座金 厚さ	内径	外径
	φd	P	S	a	L	LO	E	HO	BO	CO	H	B	C	tw	φd1	φD1
M24	24	3	95 100	10	400 480	550 645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	3.5	110 130	13	400 600	580 800	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	4	130	16	400 720	690 925	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※１　ｔ₂はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。
※２　ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
　　施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※３　上段はEB型式及びEM型式のアンカーボルト４本タイプ、下段はそれ以外のエコタイプの場合の寸法です。

注意
・エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、
　ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
　その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Ｇタイプ用アンカーボルト部品



（mm）

ねじの呼び	アンカーボルト 軸径	ねじ ピッチ	ねじ 長さ	余長※2	定着長さ	全長	アンボンドスリーブ 外径	ナット 高さ	二面幅	対角距離	座金 厚さ	内径	外径
	φd	P	S	a	L	LO	E	H	B	C	tw	φd1	φD1
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	130 150	16	720	925 955	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155 165	18	840	1080 1110	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	175 190	22	960	1235 1270	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	185 210	24	1120	1420 1470	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	200 230	28	1280	1610 1660	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125

※１　ｔ₂はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。
　　施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※２　ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
※３　上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

注意
・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
　（一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。）

ベースプレートのアンカーボルト孔径

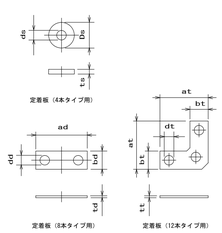
（mm）

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ孔径	38	44	50	57	−	−	−	−
Gタイプ孔径	−	38	45	53	61	70	79	87

定着板（エコタイプ、Gタイプ共通）

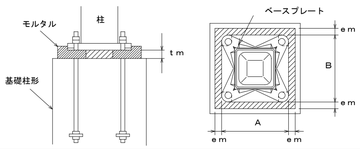
（mm）

ねじの呼び	4本タイプ用 厚さ ts	外径 Ds	内径 ds	8本タイプ用 厚さ td	長さ ad	幅 bd	内径 dd	12本タイプ用 厚さ tt	長さ at	幅 bt	内径 dt
M24	16	70	27	−	−	−	−	−	−	−	−
M30	16	90	33	9	180	65	33	−	−	−	−
M36	19	100	39	9	215	75	39	−	−	−	−
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	−	−	−	16	380	145	76	16	375	145	76



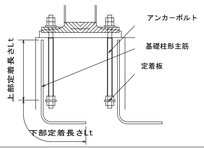
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースＮＥＯ工法設計ハンドブックを参照ください。

３．ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ（ｔｍ）	標準寸法　ｔｍ=50mm	許容範囲　３０≦ｔｍ≦７０mm
ベースプレート周辺のモルタル幅（ｅｍ）	ｅｍ≧３０mm	許容範囲　em≧２５mm

４．基礎柱形主筋の定着長さ（最小値）



基礎柱形主筋の定着長さ（Lt）は、
定着板上面を境にして上下とも
確保する必要があります。

工場加工

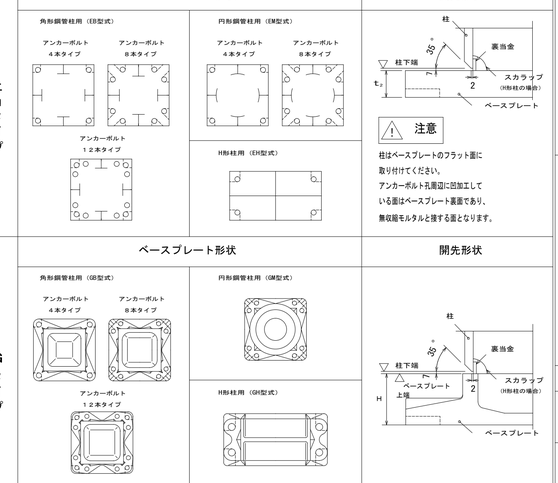
１．溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系４９０N/mm　級高張力鋼用（JIS Z3211、旧JIS Z3212）相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び４９０N/mm　級高張力鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ（JIS Z3312）相当以上

※高強度柱材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

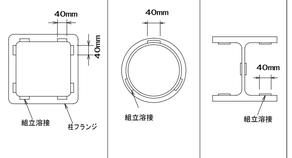
２．ベースプレートの鉄骨柱への取付け　（柱端部に開先を設ける）

※　柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
　　開先はＭＣ−ＴＬ−１Ｂ、ＧＣ−ＴＬ−１Ｂによる　　※開先形状は参考

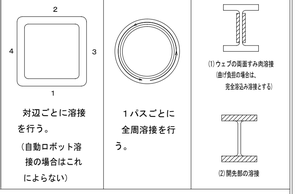


注意
柱はベースプレートのフラット面に
取り付けてください。
アンカーボルト孔周辺に凹加工して
いる面はベースプレート裏面であり、
無収縮モルタルと接する面となります。

３．組立溶接

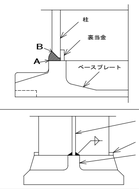


４．本溶接の手順



５．溶接施工一般

予熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはＴ継手余盛り高さに準拠する（Ｇタイプ）。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とＨ形柱ウェブのすみ肉溶接



注意　柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がることがあります。

６．検査

方法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	（１）有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 （２）溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から５０mm以上、はつり取り再溶接する。

現場施工

(#)：センクシアの担当範囲

１．捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは９０mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

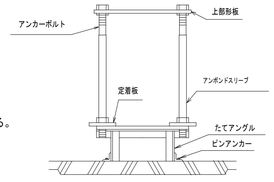
２．墨出し

３．アンカーボルト搬入（#）

４．アンカーボルト据付（#）

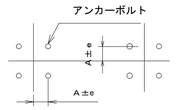
アンカーボルト設置

アンカーボルトの設置は
自立できる形式とし、
捨てコンクリートに固定する。



アンカーボルト設置例
（架台の形状は異なる場合あり）

アンカーボルト設置精度の目標値



e≦３mm
（形板芯にて検査）

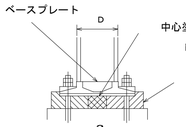
平面	レベル
	基準高さよりの誤差eh −３mm≦eh≦10mm

５．鉄筋配筋・型枠の立込み

６．基礎コンクリート打設

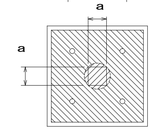
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

７．中心塗り部分モルタル施工



中心塗部分モルタル
ＮＸ−２０００、クイック３は使用不可。

後詰めモルタル
ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ−２０００、又はクイック３
およびこれと同等以上の無収縮性モルタル
注入方法はヘッド圧工法による。
※ センクシアが供給するものに限る
（イ）□ ２５０以下、φ２６７．４以下、Ｈ２５０以下の場合
１００mm ≦ ａ ≦２００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下
（ロ）□ ３００以上□７００以下、φ３００以上φ７１１．２以下、
　　および Ｈ２５０以上の場合
１５０mm ≦ ａ ≦３００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下
（ハ）□ ７５０～□１２００、φ７５０～φ１０１６の場合
３００mm ≦ ａ ≦５００mm



中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH型式	GH型式
８．鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	８．鉄骨建方
	９．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#）
９～１０．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#） アンカーボルト締付確認（#） ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	１０．アンカーボルト締付（#） 予備締め マーキング ナット回転法による本締め （30°回転、許容差：$^{+10°}_{-0}$）

１１．モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースＮＥＯ工法のチェックシートに工事記録を記載する。

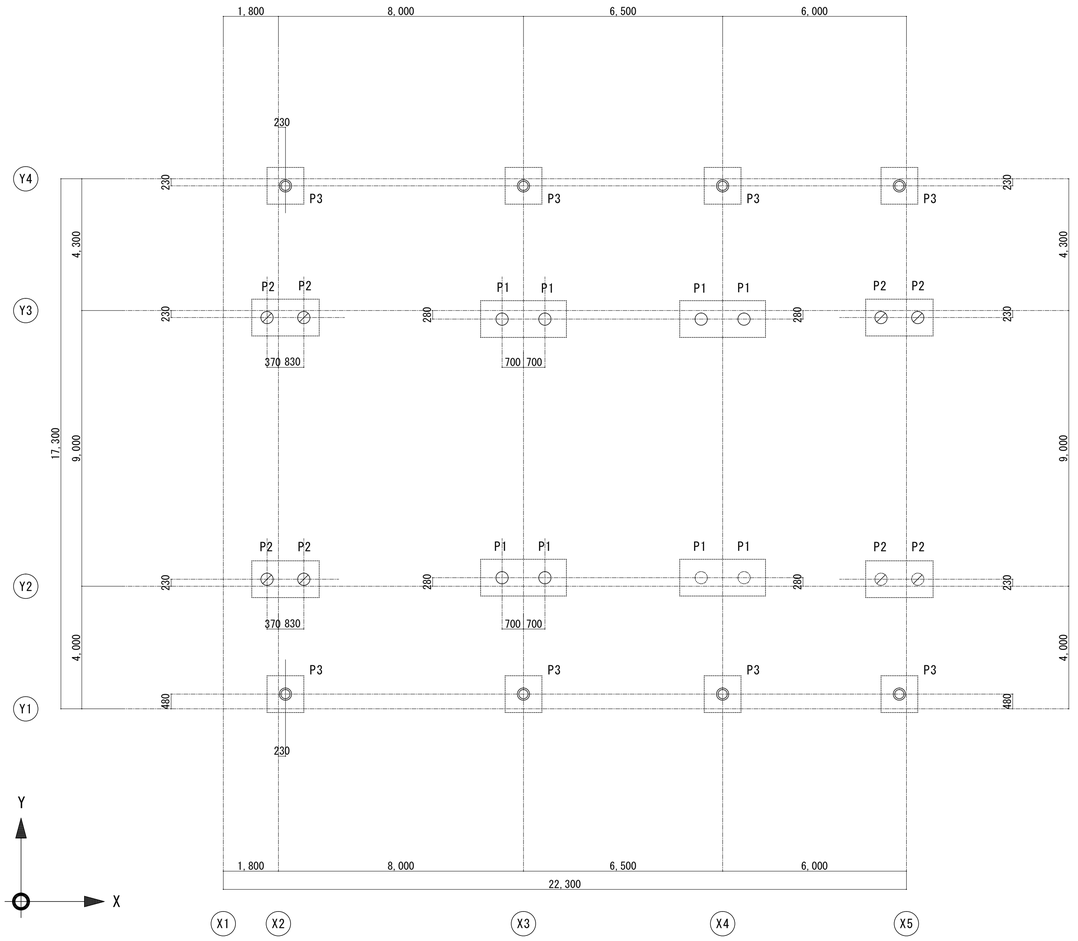
注意
1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。（日本建築センターの評定で義務付けられています。）
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

センクシア株式会社

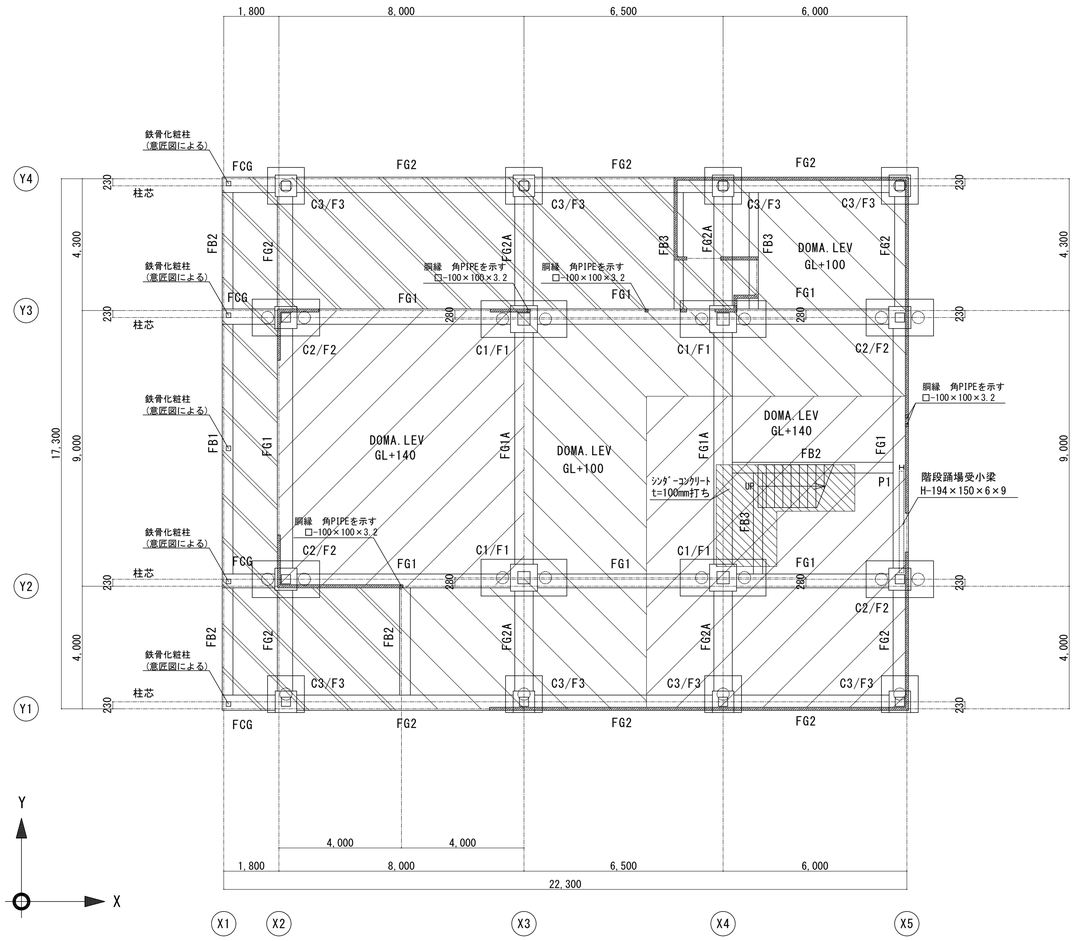
本社　ＴＥＬ　０３−４２１４−１９３２
札幌　ＴＥＬ　０１１−７０８−１１７７
東北　ＴＥＬ　０２２−２１３−５５９５
関東　ＴＥＬ　０２７−３２２−９４１１
中部　ＴＥＬ　０５２−５８２−３３５６
北陸　ＴＥＬ　０７６−２３３−５２６０
関西　ＴＥＬ　０６−６３９５−２１３３
中四国　ＴＥＬ　０８２−２４０−１６３０
九州　ＴＥＬ　０９２−４５２−０３４１
ＵＲＬ　https://www.senqcia.co.jp/

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/- A3→1/- 設計年月日 2022.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北—仮称ビジターセンター）
図面名称　ハイベースNEO工法設計施工標準(参考)
No. S-08



杭伏図　S=1/100



基礎・1階伏図　S=1/100

斜線は土間コンクリートを示す

DOMA. LEVは土間ﾚﾍﾞﾙを示す

杭リスト

杭番号	記号	上杭	下杭	杭頭補強筋
P1	○	PHC-C　400φ　L= 5.0m	NPH85　400φ-550　L= 9.0m	6 - D13
P2	⊘	PHC-C　400φ　L= 5.0m	NPH85　400φ-500　L= 9.0m	8 - D16
P3	◎	CPRC85-Ⅰ　400φ　L= 5.0m	NPH85　400φ-500　L= 9.0m	8 - D19

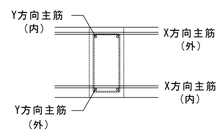
基礎

基礎番号	杭本数
F1	P1 ×2
F2	P2 ×2
F3	P3 ×1

鉄骨リスト

記号	部材	材種	露出柱脚番号(参考)
C1	□ - 400×400×16	BCR295	EB400-8-48
C2	□ - 300×300×16	BCR295	EB300-8-36
C3	□ - 300×300×12	BCR295	EB300-8-30
P1	H - 150×150×7×10	SS400	

地中梁大主筋優先方向



特　記
事　項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

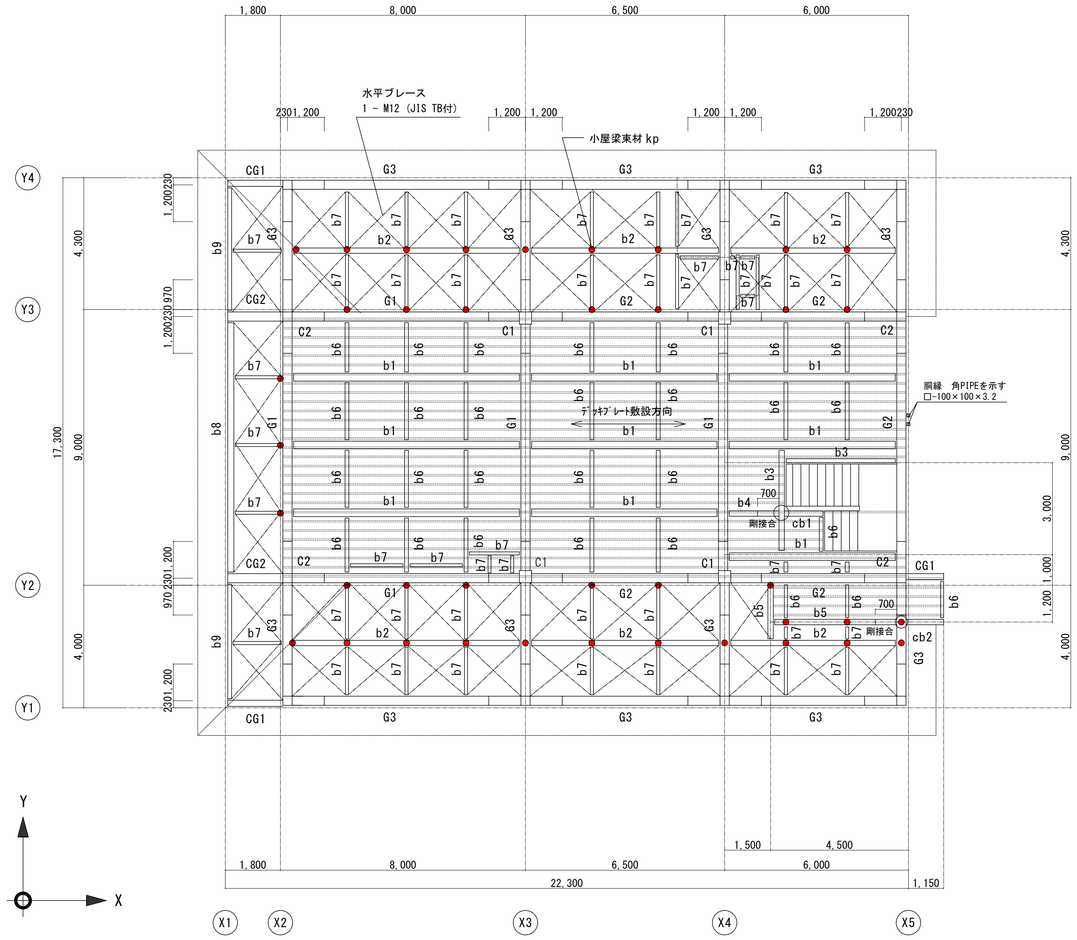
縮　　尺　A1→1/100 A3→1/200

設計年月日　2022.00.00

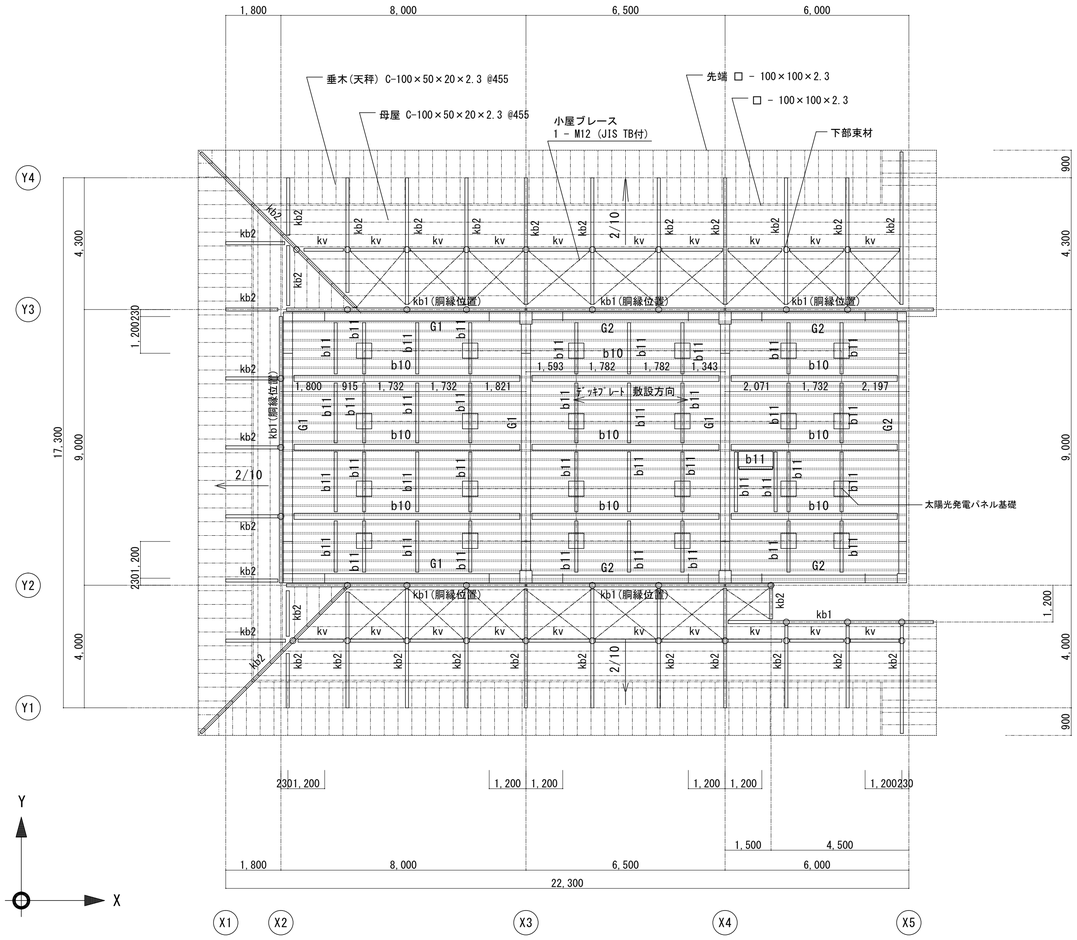
工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）

図面名称　杭伏図・基礎1階伏図　鉄骨リスト

No. S-09



2階梁伏図 S=1/100



R階梁(2階小屋)伏図 S=1/100

鉄骨リスト

記号	部材	材種	備考	記号	部材	材種	備考
C1	□ - 400×400×16	BCR295		b1	H - 340×250×9×14	SS400	
C2	□ - 300×300×16	BCR295		b2	H - 244×175×7×11	SS400	
C3	□ - 300×300×12	BCR295		b3	H - 244×175×7×11	SS400	
kp	H - 100×100×6×8	SS400	小屋束	b4	H - 250×125×6×9	SS400	
				b5	H - 244×175×7×11	SS400	
G1	H - 488×300×11×18	SN400B		b6	H - 200×100×5.5×8	SS400	
G2	H - 440×300×11×18	SN400B		b7	H - 100×100×6×8	SS400	
G3	H - 294×200×8×12	SN400B		b8	H - 294×200×8×12	SS400	
CG1	H - 294×200×8×12	SN400B		b9	H - 250×125×6×9	SS400	
CG2	H - 440×300×11×18	SN400B		cb1	H - 250×125×6×9	SS400	
				cb2	H - 244×175×7×11	SS400	

鉄骨リスト

記号	部材	材種	備考	記号	部材	材種	備考
G1	H - 440×300×11×18	SN400B		b10	H - 340×250×9×14	SS400	
G2	H - 340×250×9×14	SN400B		b11	H - 200×100×5.5×8	SS400	
				kb1	H - 100×100×6×8	SS400	
				kb2	H - 100×100×6×8	SS400	
				kv	2C - 100×50×20×2.3	SS400	

特記事項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

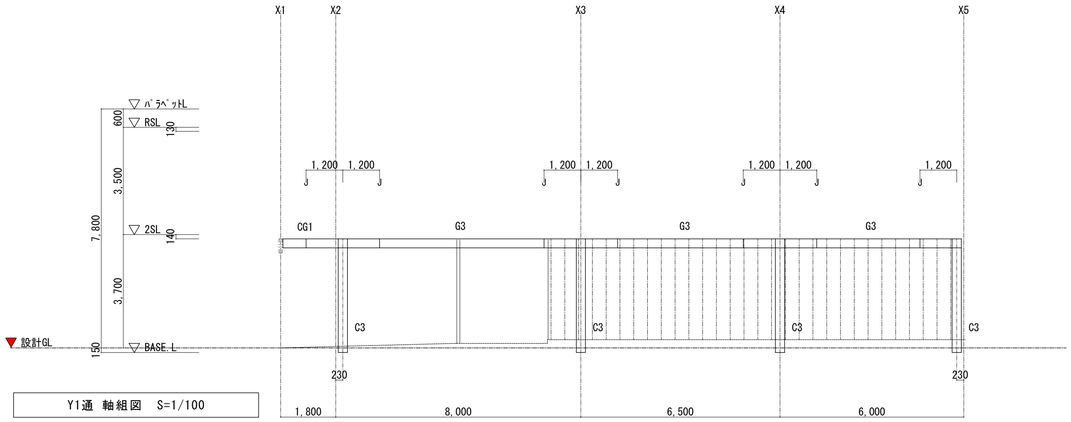
縮尺 A1→1/100 A3→1/200

設計年月日 2022.00.00

工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）

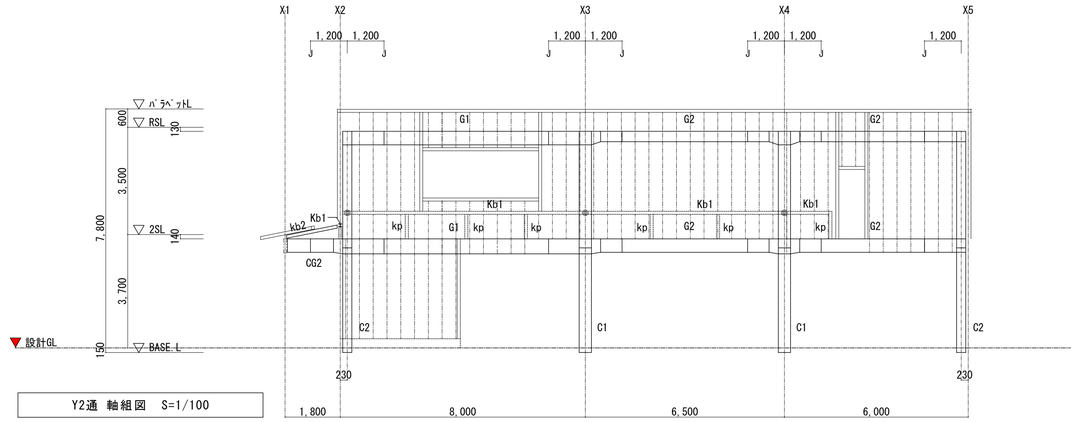
図面名称 2階梁伏図・R階梁(2階小屋)伏図 鉄骨リスト

No. S-10



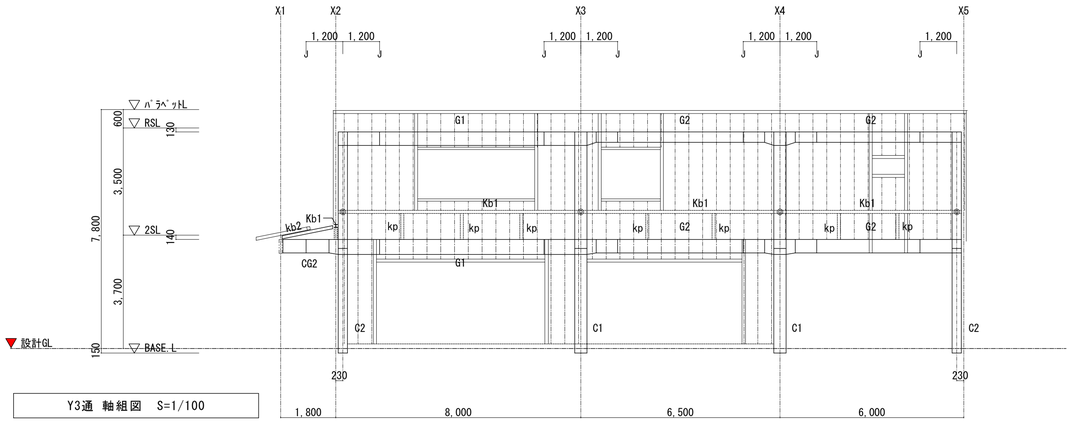
Y1通 軸組図 S=1/100

特記なき鎖線胴縁は C-100×50×20×2.3 @455
特記なき二重実線は □ - 100×100×3.2 とする



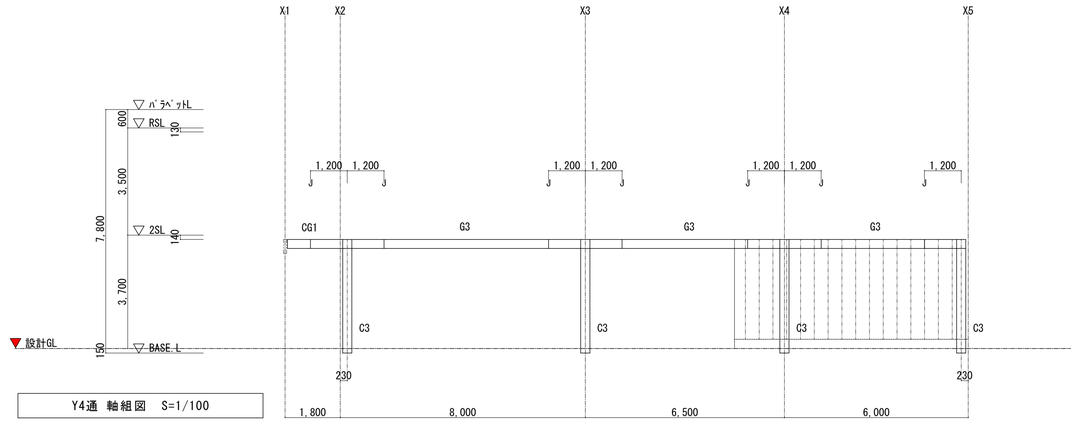
Y2通 軸組図 S=1/100

特記なき鎖線胴縁は C-100×50×20×2.3 @455
特記なき二重実線は □ - 100×100×3.2 とする
◎ 部は、柱面とKb1とのJOINTを示す



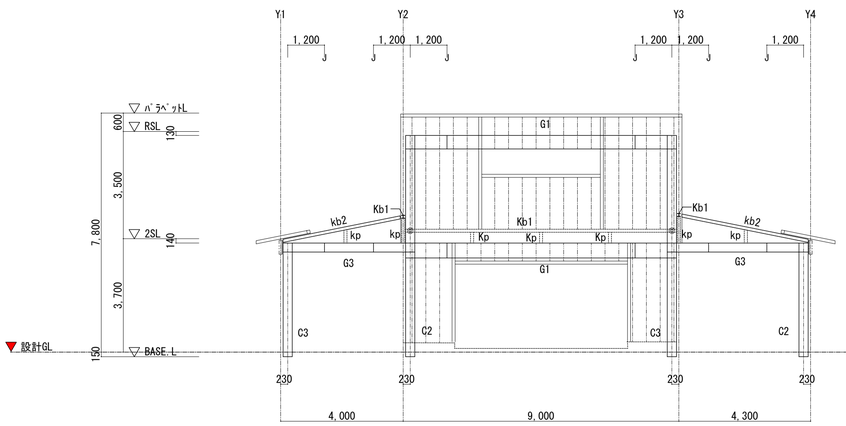
Y3通 軸組図 S=1/100

特記なき鎖線胴縁は C-100×50×20×2.3 @455
特記なき二重実線は □ - 100×100×3.2 とする
◎ 部は、柱面とKb1とのJOINTを示す



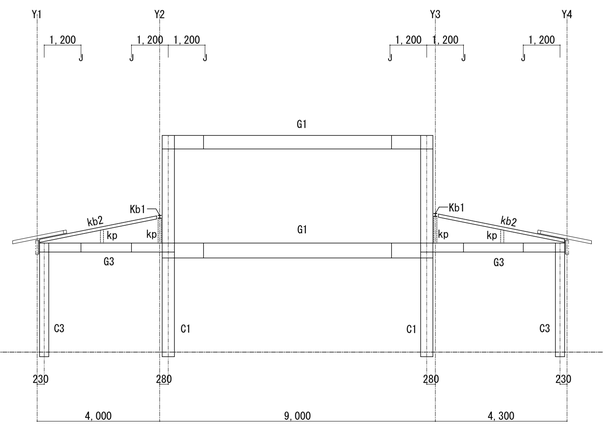
Y4通 軸組図 S=1/100

特記なき鎖線胴縁は C-100×50×20×2.3 @455
特記なき二重実線は □ - 100×100×3.2 とする



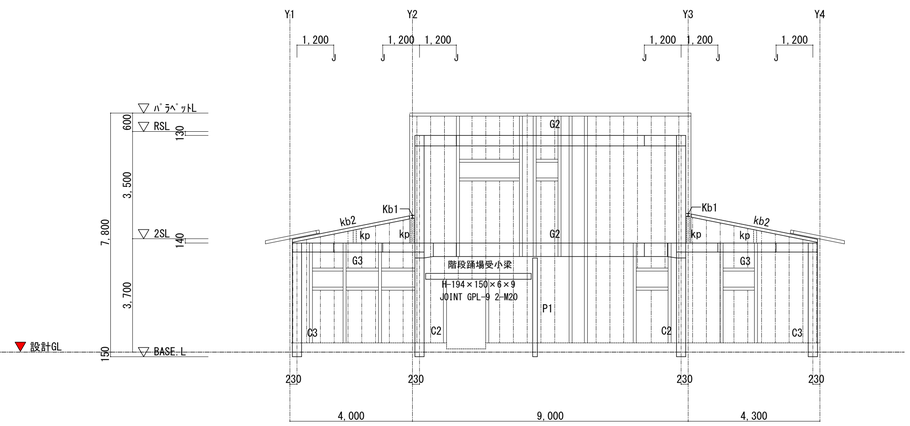
X2通 軸組図 S=1/100

特記なき鎖線胴縁は C-100×50×20×2.3 @455
特記なき二重実線は □ - 100×100×3.2 とする
◎ 部は、柱面とKb1とのJOINTを示す



X3 X4通 軸組図 S=1/100

特記なき鎖線胴縁は C-100×50×20×2.3 @455
特記なき二重実線は □ - 100×100×3.2 とする



X5通 軸組図 S=1/100

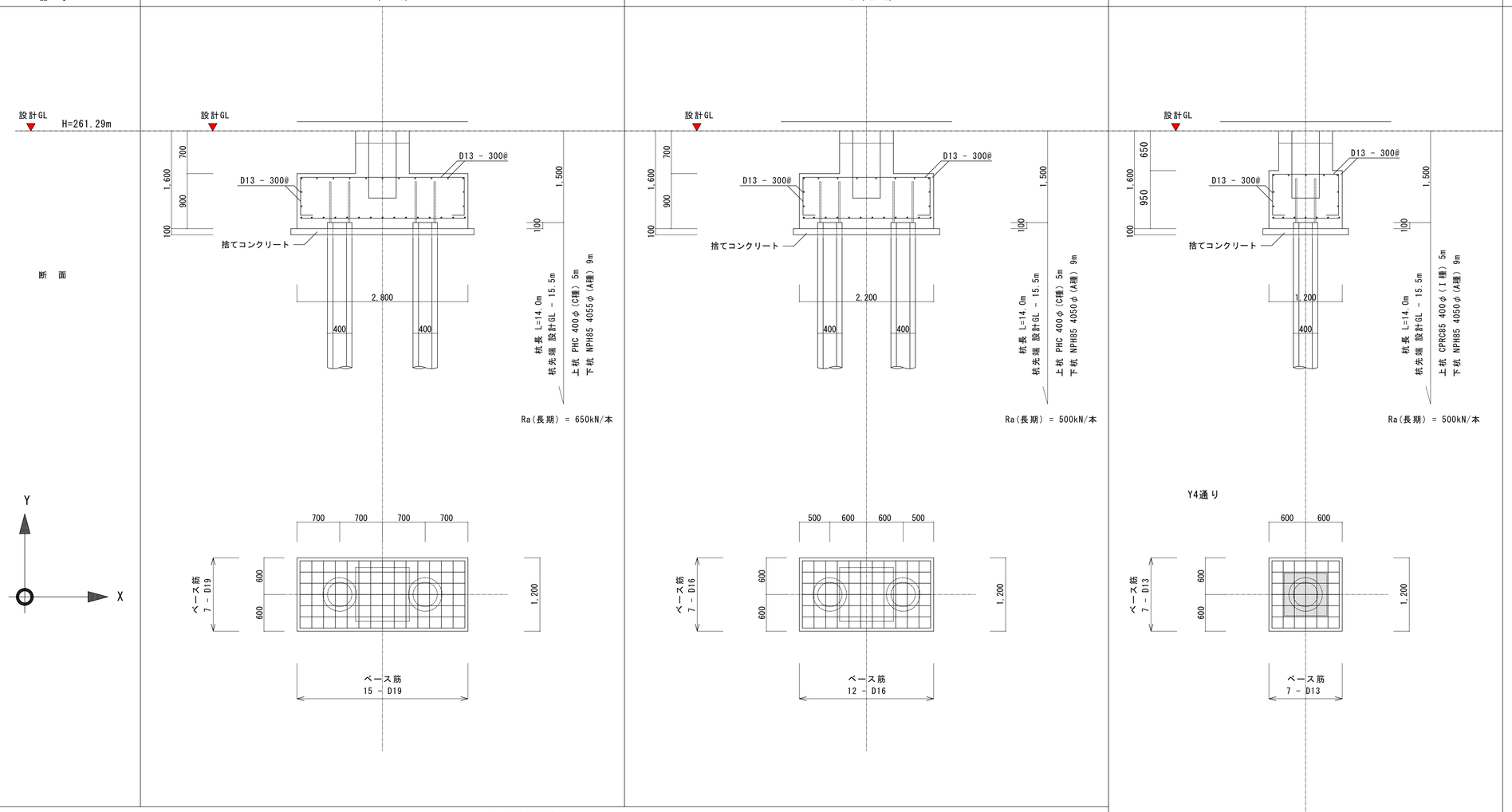
特記なき鎖線胴縁は C-100×50×20×2.3 @455
特記なき二重実線は □ - 100×100×3.2 とする

特 記 事 項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮 尺 A1→1/100 A3→1/200 設計年月日 2022.00.00	工事名称 遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター） 図面名称 軸組図	No. S-11

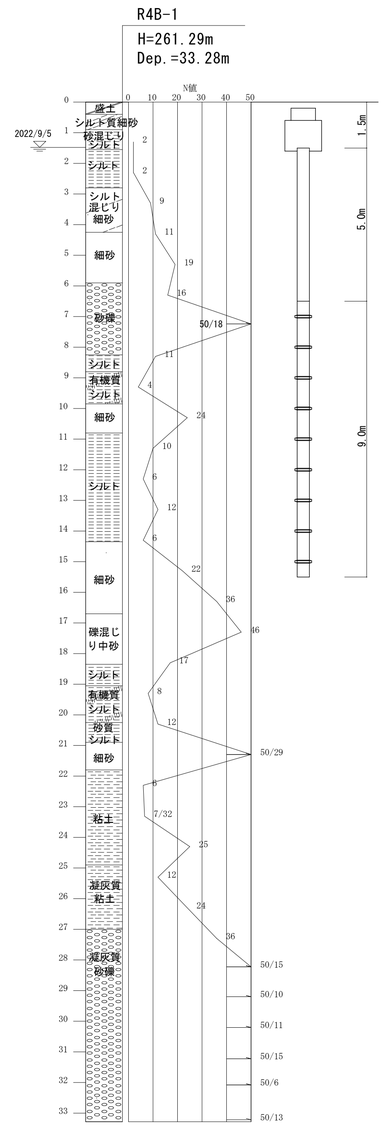
基礎リスト　S=1/40

記　号	F 1 (P1×2)	F 2 (P2×2)	F 3 (P3×1)	柱状図

断　面

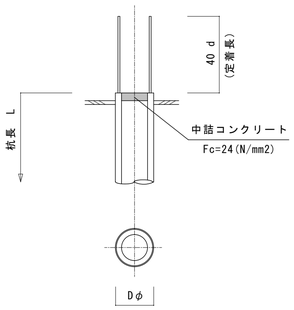


柱状図



杭頭接合鉄筋

パイルスタッド鉄筋



杭番号	杭径(Dφ)	杭頭接合鉄筋
P 1	400φ	6 - D13(SD295)
P 2	400φ	8 - D16(SD295)
P 3	400φ	8 - D19(SD345)

特　記
事　項

山梨建築設計監理事業協同組合

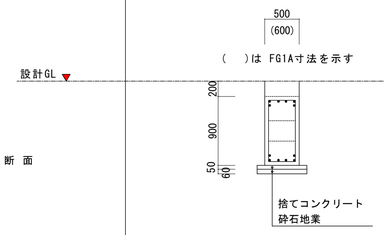
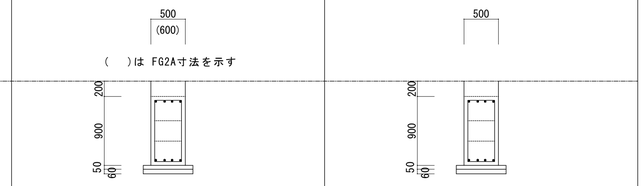
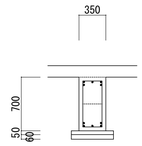
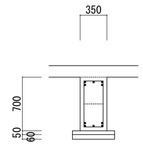
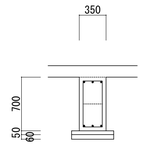
承認	設計	担当

縮　　尺　A1→1/40 A3→1/80
設計年月日　2022.00.00

工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）
図面名称　基礎リスト

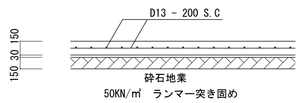
No. S-12

地中梁リスト　S=1/40

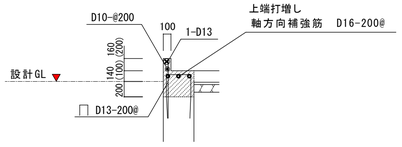
記号	FG 1 (FG 1A)	FG 2 (FG 2A)	FCG		FB 1	FB 2	FB 3
位置	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面
断面							
上筋	6 - D25	4 - D25	4 - D25		5 - D22	5 - D19	3 - D19
下筋	6 - D25	4 - D25	4 - D25		5 - D22	5 - D19	3 - D19
ＳＴＰ	D13 - 200@	D13 - 200@	D13 - 200@		D10 - 200@	D10 - 200@	D10 - 200@
腹筋	4 - D10	4 - D10	4 - D10		2 - D10	2 - D10	4 - D10
巾止筋	D10 - 1000@	D10 - 1000@	D10 - 1000@		D10 - 1000@	D10 - 1000@	D10 - 1000@

土間リスト　雑リスト　S=1/40

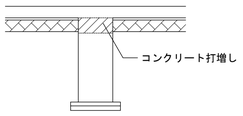
土間コンクリート



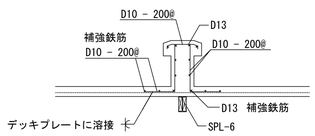
土間端部



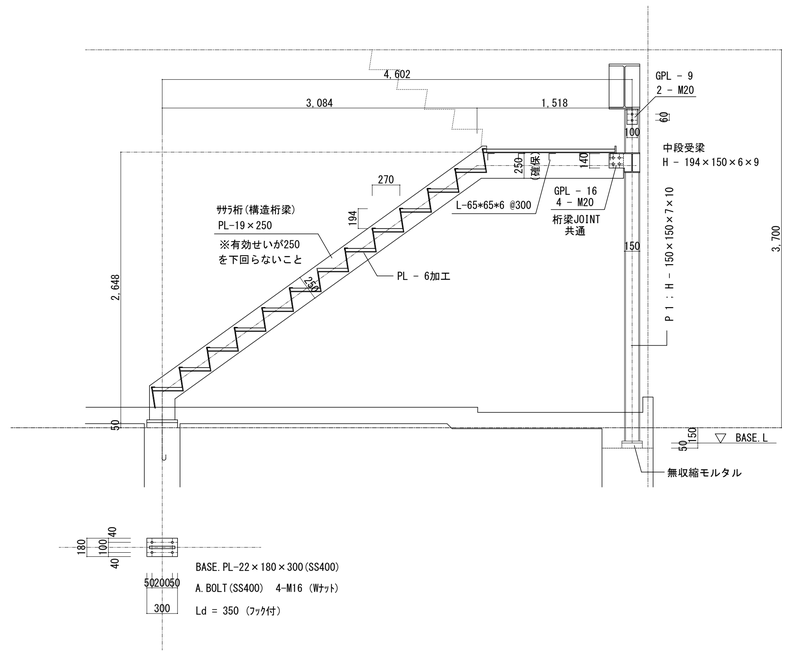
土間中央



太陽光発電基礎



階段リスト　S=1/30

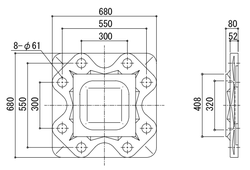


特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/40 A3→1/80 A1→1/30 A3→1/60	工事名称	遊亀公園附属動物園整備工事（北—仮称ビジターセンター）	No.
					設計年月日 2022.00.00	図面名称	地中梁リスト　土間リスト　雑リスト	S-13

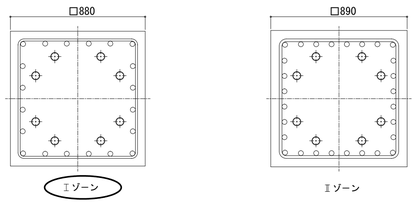
柱脚リスト　S=1/20

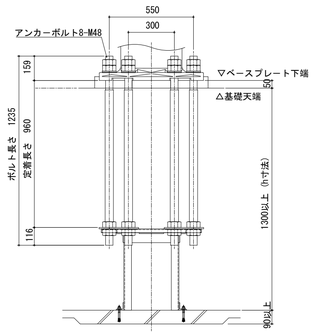
C1　GB400-8-48

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例（Fc24の場合）





適用柱	角形鋼管柱　□400　（板厚範囲：9～32mm）						
アンカーボルト	8-M48						
	Ⅰゾーン			Ⅱゾーン			鉄筋の定着長さ (Lt)
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈側・隅柱用〉	880	20-D29(SD390)	D13#100(SD295)	890	28-D29(SD390)	D16#100(SD295)	790
〈中柱用〉	880	20-D29(SD390)	D13#100(SD295)	890	28-D29(SD390)	D16#100(SD295)	790

注1）Ⅰ、Ⅱ　ゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2）表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上りがある場合、
　　独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注3）＜中柱用＞の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、
　　あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は＜側・隅柱用＞の鉄筋量として下さい。
注4）h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法＋100mm以上確保して下さい。
注5）アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
注6）鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。（上部下部共通）

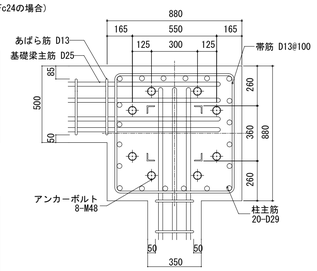
基礎はり端部納まり例　（Fc24の場合）

柱形外面基礎はりタイプ

はり主筋	はり主筋本数 3	4	5	6
D22	430～610	490～610	550～610	610
D25	430～610	500～610	570～610	
D29	430～610	510～610	590～610	

柱形中心基礎はりタイプ

はり主筋	はり主筋本数 2	3	4	5
D22	240～360	300～360	360	*600
D25	250～360	320～360	*600	*600
D29	260～360	340～360	*600	*600

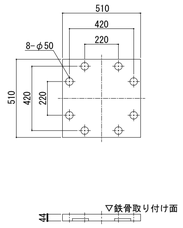


注1）上記柱主筋について、柱主筋○は Ⅰゾーンの場合の配筋量です。

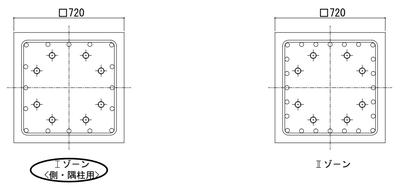
注2）*がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、
　　この基礎はり幅寸法は変更できません。

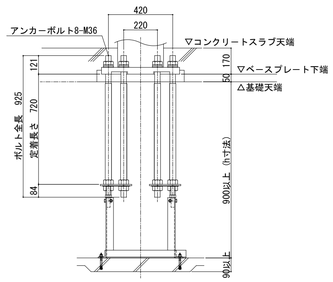
C2　EB300-8-36

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例（Fc24の場合）





適用柱	角形鋼管柱　□300　（板厚範囲：6～22mm）						
アンカーボルト	8-M36						
	Ⅰゾーン			Ⅱゾーン			鉄筋の定着長さ (Lt)
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈側・隅柱用〉	720	16-D25(SD345)	D13#150(SD295)	720	24-D25(SD345)	D13#100(SD295)	570
〈中柱用〉	720	16-D25(SD345)	D13#150(SD295)	720	24-D25(SD345)	D13#100(SD295)	570

注1）Ⅰ、Ⅱ　ゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2）表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上りがある場合、
　　独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注3）＜中柱用＞の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、
　　あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は＜側・隅柱用＞の鉄筋量として下さい。
注4）h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法＋100mm以上確保して下さい。
注5）アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
注6）鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。（上部下部共通）

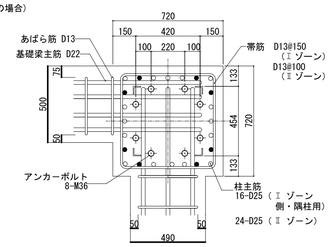
基礎はり端部納まり例　（Fc24の場合）

柱形外面基礎はりタイプ

はり主筋	はり主筋本数 3	4	5	6
D19	380～500	440～500	500	
D22	380～500	440～500	500	
D25	380～500	450～500		

柱形中心基礎はりタイプ

はり主筋	はり主筋本数 2	3	4	5
D19	240～290	*490	*490	
D22	240～290	*490	*490	
D25	250～290	*490	*490	

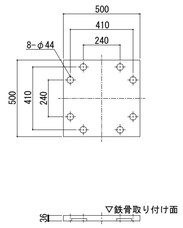


注1）上記柱主筋について、柱主筋○は Ⅰゾーンの場合の配筋量です。
　　設計上、Ⅱ ゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。
注2）*がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、
　　この基礎はり幅寸法は変更できません。

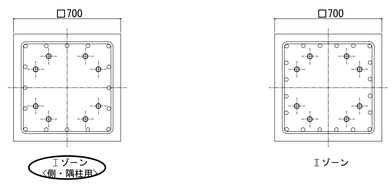
22.5

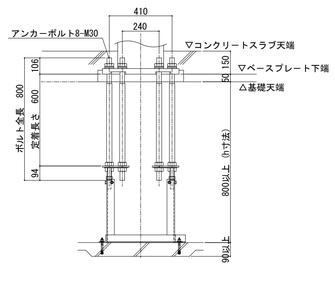
C3　EB300-8-30

ベースプレート詳細図



柱脚詳細例（Fc24の場合）





適用柱	角形鋼管柱　□300　（板厚範囲：6～22mm）						
アンカーボルト	8-M30						
	Ⅰゾーン			Ⅱゾーン			鉄筋の定着長さ (Lt)
	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	柱形	基礎柱形主筋	帯筋	
〈側・隅柱用〉	700	16-D22(SD345)	D13#150(SD295)	700	20-D22(SD345)	D13#100(SD295)	410
〈中柱用〉	700	16-D22(SD345)	D13#150(SD295)	700	20-D22(SD345)	D13#100(SD295)	410

注1）Ⅰ、Ⅱ　ゾーン分けについてはハイベースNEO設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注2）表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上りがある場合、
　　独立基礎の場合は、ハイベースNEO設計ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注3）＜中柱用＞の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋をD10#250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合、
　　あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は＜側・隅柱用＞の鉄筋量として下さい。
注4）h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法＋100mm以上確保して下さい。
注5）アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
注6）鉄筋の定着長さLtは、表中の寸法以上確保して下さい。（上部下部共通）

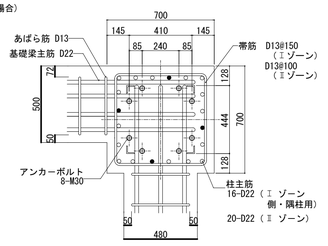
基礎はり端部納まり例　（Fc24の場合）

柱形外面基礎はりタイプ

はり主筋	はり主筋本数 3	4	5	6
D19	360～510	420～510	480～510	
D22	360～510	420～510	480～510	
D25	360～510	430～510	500～510	

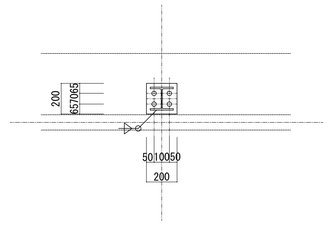
柱形中心基礎はりタイプ

はり主筋	はり主筋本数 2	3	4	5
D19	240～320	300～320	*480	*480
D22	240～320	300～320	*480	*480
D25	250～320	320	*480	*480



注1）上記柱主筋について、柱主筋○は Ⅰゾーンの場合の配筋量です。
　　設計上、Ⅱ ゾーンの配筋量となる場合は、柱主筋○と柱主筋●印を合わせた配筋量となります。
注2）*がつく基礎はり幅の場合、2本のアンカーボルト間に基礎はり主筋が配筋されますので、
　　この基礎はり幅寸法は変更できません。

P1　H　150×150×7×10（SS400）



BASEPL － 22（SN490C）	200×200
ANCHOR.BOLT　4 － M20（D.N）	L=450mm

特記事項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮尺
			A1→1/20 A3→1/40
			設計年月日 2022.00.00

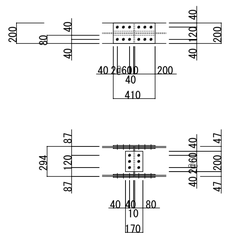
工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）

図面名称　柱脚リスト

No. S-14

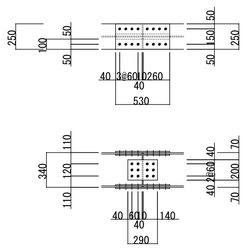
剛接合リスト　S=1/20

GGF-4X-J3020-0912-20	H-294x200x8x12



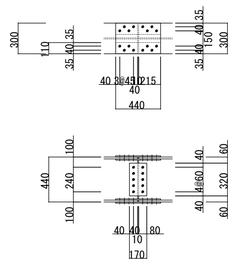
FLG	2PL-9x200x410	トルシアHTB
	4PL-9x80x410	24-M20x60
WEB	2PL-9x200x170	6-M20x55

GGF-4X-J3525-0916-20	H-340x250x9x14



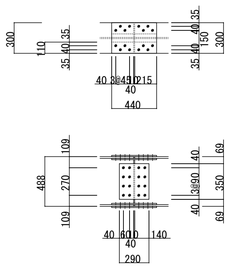
FLG	2PL-12x250x530	トルシアHTB
	4PL-12x100x530	32-M20x70
WEB	2PL-9x200x290	12-M20x55

GGF-4X-J4530-1219-20	H-440x300x11x18



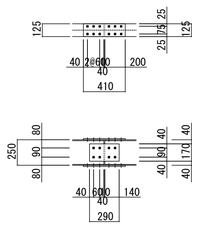
FLG	2PL-12x300x440	トルシアHTB
	4PL-12x110x440	32-M20x70
WEB	2PL-9x320x170	10-M20x60

GGF-4X-J5030-1219-20	H-488x300x11x18



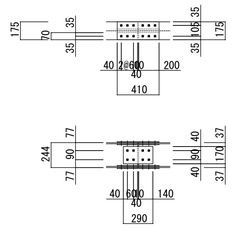
FLG	2PL-12x300x440	トルシアHTB
	4PL-12x110x440	32-M20x70
WEB	2PL-12x350x290	16-M20x65

GGF-4X-J2512-0609-16	H-250x125x6x9



FLG	2 SPL-12x125x410	トルシアHTB
		24-M16x45
WEB	2 SPL-6x170x290	8-M16x45

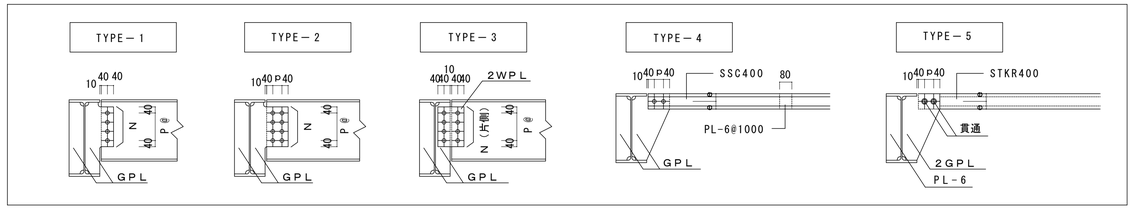
GGF-4X-J2517-0612-16	H-244x175x7x11



FLG	2 SPL-9x175x410	トルシアHTB
	4 SPL-9x70x410	24-M16x55
WEB	2 SPL-6x170x290	8-M16x45

二次部材接合リスト

区分	適用	部材リスト	GPL	WPL	N(本)－ボルト(径)	P	TYPE	備考
洲倉間		H－150×75×5×7	6		2－M16	60	TYPE－1	SS400
		H－175×90×5×8	6		2－M16	60		SS400
	○	H－200×100×5．5×8	6		4（2×2）－M16	60	TYPE－2	SS400
		H－248×124×5×8	6		3－M16	60	TYPE－1	SS400
	○	H－250×125×6×9	6		4（2×2）－M20	60	TYPE－2	SS400
		H－298×149×5．5×8	6		3－M20	90	TYPE－1	SS400
		H－300×150×6．5×9	6		3－M20	90		SS400
		H－346×174×6×9	9		4－M20	60		SS400
		H－350×175×7×11	9		4－M20	60		SS400
		H－396×199×7×11	9		4－M20	90		SS400
		H－400×200×8×13	9		5－M20	60		SS400
		H－446×199×8×12	9		5－M20	60		SS400
		H－450×200×9×14	12		6－M20	60		SS400
		H－496×199×9×14	9	9	4－M20	90	TYPE－3	SS400
		H－500×200×10×16	12	9	4－M20	90		SS400
		H－596×199×10×15	12	9	5－M20	90		SS400
		H－600×200×11×17	12	9	5－M20	90		SS400
		H－606×201×12×20	12	12	6－M20	90		SS400
洲倉中		H－148×100×6×9	6		4（2×2）－M16	60	TYPE－2	SS400
	○	H－194×150×6×9	6		2－M20	60	TYPE－1	SS400
	○	H－244×175×7×11	9		4（2×2）－M20	90	TYPE－2	SS400
	○	H－294×200×8×12	9		4（2×2）－M20	120		SS400
	○	H－340×250×9×14	9		4－M20	60	TYPE－1	SS400
		H－390×300×10×16	12		5－M20	60		SS400
		H－440×300×11×18	12	12	4－M20	60	TYPE－3	SS400
		H－482×300×11×15	12	9	5－M20	60		SS400
		H－488×300×11×18	12	9	5－M20	60		SS400
		H－582×300×12×17	12	12	6－M20	60		SS400
		H－588×300×12×20	12	12	6－M20	60		SS400
		H－594×302×14×23	16	12	6－M20	60		SS400
		H－692×300×13×20	16	12	7－M20	60		SS400
		H－700×300×13×24	16	12	7－M20	60		SS400
		H－792×300×14×22	16	16	8－M20	60		SS400
		H－800×300×14×26	16	16	8－M20	60		SS400
広場系	○	H－100×100×6×8	6		2（1×2）－M20	60	TYPE－2	SS400
		H－125×125×6．5×9	9		2（1×2）－M16	60		SS400
	○	H－150×150×7×10	9		2（1×2）－M20	60		SS400
		H－200×200×8×12	12		2×2－M20	60		SS400
		H－250×250×9×14	9	9	2×2－M20	60		SS400
他		[－100×50×5×7．5	6		2（1×2）－M16	60	TYPE－2	SS400
	○	2C－100×50×20×2．3	6		2－M16	60	TYPE－4	SSC400
胴縁	○	C－100×50×20×2．3	4．5		2－M12	60	TYPE－4	SSC400
母屋		□－100×100×(2．3．3．2．4．0)	6		2－M16	60	TYPE－5	STKR400



特記事項		山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/40 A3→1/80	工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）
						設計年月日 2022.00.00	図面名称　梁接合部リスト

No. S-15

アイ.テックSデッキ　合成スラブ設計・施工標準仕様書

本仕様書に定めなき事項は、下記に準じるものとする。
（独）建築研究所監修　「デッキプレート床構造設計・施工規準-2018」
（社）日本建築学会編　「各種合成構造設計指針・同解説」
合成スラブ工業会編　「合成スラブの設計・施工マニュアル」
アイ.テックSデッキ　「カタログ」

株式会社 アイ.テック

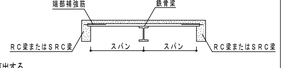
設　計

● 印を記入（コピーしてお使い下さい）

材料	合成スラブ用デッキプレート	種類	◉ S50	□ S75		
		板厚	◉ 1．2	□ 1．6		
		表面処理	□ 黒皮	□ カラー	◉ Z12	□ Z27　□ その他（　）
	コンクリート	種類	◉ 普通	□ 軽量１種	□ 軽量２種	
		設計基準強度	□ 18N／mm²	◉ 21N／mm²	□ その他（　）	
		厚さ（デッキ山上）	□ 70　◉ 80	□ 85　□ 90	□ 95　□ 100	□ その他（　）
	ひび割れ拡大防止筋	溶接金網	(JIS G 3551)	◉ φ6-150x150	□ φ6-100x100	
			(JIS G 3551)	□ CD6-150x150	□ CD6-100x100	
		異形鉄筋	(JIS G 3112)(JIS G 3117)	□ D10-200x200	□ その他（　）	
接合	◉ 焼抜き栓溶接	◉ SPW　：標準溶接径　18mm以上 □ PW、APW：標準溶接径　25mm　※溶接位置等は特記による				
	□ 頭付スタッド	径、長さ、ピッチ等は構造図による。（梁とデッキとの接合はアークスポット溶接とする）				
	□ 発射打込み鋲	別途打込み鋲の仕様による				
	□ その他					
耐火			連続支持合成スラブ	単純支持合成スラブ		
	床2時間		□ FP120FL-9136	□ FP120FL-9137	□ FP120FL-0189	
	床1時間		□ FP060FL-9138	□ FP060FL-9139	□ FP060FL-0184	
	□ 指定なし					
特記	中間支保工	□ 有　◉ 無				
	その他	焼き抜き栓溶接 デッキ断面方向 200mm デッキ長手方向 600mm				

	耐火時間	名称および耐火認定番号	適用梁構造	コンクリート種類	デッキプレート高さ	スパン（m）	許容積載荷重（N／m²）	コンクリート厚さ（mm）	ひび割れ拡大防止筋	耐火補強筋
耐火構造仕様	2時間	連続支持合成スラブ FP120FL-9136	鉄骨梁 RC梁等 [*3]	普通	S50	2.7以下	5,400～9,800 [*1]	95以上	φ6-100x100 または D10-200x200	不要
					S75	3.4以下	5,400～9,800 [*2]	90以上		
						3.6以下	5,400以下	95以上	D10-200x200	
				軽量	S50	2.7以下	5,400～9,800 [*1]	85以上	φ6-100x100 または D10-200x200	
					S75	3.4以下	5,400～9,800 [*2]	90以上	D10-200x200	
		単純支持合成スラブ FP120FL-9137	鉄骨梁 RC梁等	普通	S50	2.7以下	5,400～9,800 [*1]	95以上	φ6-100x100 または D10-200x200	D13
					S75	3.4以下	5,400～9,800 [*2]	90以上		
			鉄骨梁	軽量	S50	2.7以下	5,400～9,800 [*1]	85以上		
					S75	3.4以下	5,400～9,800 [*2]			
		FP120FL-0182 [*7]	鉄骨梁	普通	S75	2.4以下	20,000以下	80以上 [*8]		不要
		FP120FL-0189 [*7]	鉄骨梁	普通	S50	2.7以下	算定式による [*5]	80以上 [*8]	φ6-150x150 または D10-200x200	
	1時間	連続支持合成スラブ FP060FL-9138	鉄骨梁 RC梁等 [*3]	普通	S50	3.0以下	4,400～9,800 [*1]	80以上		不要
					S75	3.4以下	5,400～9,800 [*2]		φ6-100x100 または D10-200x200	
						3.6以下	4,400以下	90以上		
				軽量	S50	3.0以下	4,400～9,800 [*1]	80以上	φ6-150x150 または D10-200x200	
					S75	3.4以下	5,400～9,800 [*2]			
		単純支持合成スラブ FP060FL-9139	鉄骨梁 RC梁等	普通	S50	2.7以下	5,400～9,800 [*1]	80以上	φ6-150x150 または D10-200x200	D13
					S75	3.4以下	5,400～9,800 [*2]			
			鉄骨梁	軽量	S50	2.7以下	5,400～9,800 [*1]			
					S75	3.4以下	5,400～9,800 [*2]			
		FP060FL-0184	鉄骨梁	普通	S50	2.7以下	算定式による [*4]	80以上 [*8]		不要
	高荷重2時間	FP120FL-0185 [*7]	鉄骨梁	普通	S75	3.2以下	算定式による [*6, *10]	90以上 [*8]	φ6-100x100 または D10-200x200	D13
		FP120FL-0188 [*7]	鉄骨梁	普通		3.6以下 [*9]	12,000以下 [*10]	90以上 [*8]		

※1　：スパン2．7m、許容積載荷重5，400N／m² としたときの等価曲げモーメントから算出する。（デッキプレート高さ50mmの場合に適用）
　　許容積載荷重=5，400x(2．7／L)² かつ9，800N／m² 以下　L：スパン（m）
※2　：スパン3．4m、許容積載荷重5，400N／m² としたときの等価曲げモーメントから算出する。（デッキプレート高さ75mmの場合に適用）
　　許容積載荷重=5，400x(3．4／L)² かつ9，800N／m² 以下　L：スパン（m）
※3　：鉄筋コンクリート梁（RC梁）または鉄骨鉄筋コンクリート梁（SRC梁）の
　　場合、小梁を鉄骨梁としスパンが1ピッチ以内になるように設置し、端部補強筋
　　（D13 L=1．0m）を配筋する。



※4　：スパン2．7m、全荷重8，000N／m² としたときの等価曲げモーメントから算出する。
　　S50-1．2、コンクリート厚さ80mmの場合、許容積載荷重=8，000x(2．7／L)²　-2．600N／m² かつ11，980N／m² 以下　L：スパン（m）
　　S50-1．6、コンクリート厚さ80mmの場合、許容積載荷重=8，000x(2．7／L)²　-2．640N／m² かつ11，940N／m² 以下　L：スパン（m）
※5　：スパン2．7m、全荷重9，800N／m としたときの等価曲げモーメントから算出する。
　　S50-1．2、コンクリート厚さ80mmの場合、許容積載荷重=9，800x(2．7／L)²　-2．600N／m² かつ15，200N／m² 以下　L：スパン（m）
　　S50-1．6、コンクリート厚さ80mmの場合、許容積載荷重=9，800x(2．7／L)²　-2．640N／m² かつ15，160N／m² 以下　L：スパン（m）
※6　：スパン3．2m、全荷重15，150N／m としたときの等価曲げモーメントから算出する。
　　S75-1．2、コンクリート厚さ90mmの場合、許容積載荷重=15，150x(3．2／L)²　-3．150N／m² かつ21，600N／m² 以下　L：スパン（m）
　　S75-1．6、コンクリート厚さ90mmの場合、許容積載荷重=15，150x(3．2／L)²　-3．190N／m² かつ21，560N／m² 以下　L：スパン（m）
※7　：合成スラブと梁とは頭付スタッド（軸径16mm以上、ピッチ300mm以下）で結合する。
※8　：コンクリート厚さが表中の数値を超える場合、越えた分の荷重は積載荷重として許容積載荷重を算出する。
※9　：デッキプレートの支持条件は連続支持限定とする。
※10　：許容積載荷重が、常温時の許容積載荷重によって決まる場合があるため、耐火仕様と常温時の算定結果の小さい方を許容積載荷重とする。

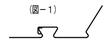
仕様の条件
・スパンとは、鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋エクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
・鉄骨梁の場合、スパンが3．4mを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付スタッド（軸径16mm以上、ピッチ300mm以下）で結合する。
・スパンが大きい場合やコンクリートが厚い場合、コンクリート打込み時デッキプレートに支保工が必要な場合があるので事前に措置する。
・許容積載荷重とは、原則として建築基準法施行令第85条の積載荷重と床、天井等の仕上げ荷重を加えたものをいう。
・コンクリートの所定厚さとは、デッキプレート山上の平板部状のコンクリートの厚さをいう。
・ひび割れ拡大防止筋は、スラブ厚さが100mmを超える場合も、原則としてスラブ上端から30mmのかぶり厚さとする。
・溶接金網または異形鉄筋の鉄筋量は、コンクリート厚さに対する鉄筋比で0．2%以上とする。コンクリート厚さが所定厚さを超える場合、
　溶接金網等は所要鉄筋量に見合うサイズのものを使用する。
・耐火補強筋は、異形鉄筋D13以上をデッキプレートの各溝に1本づつ、溝部中央、デッキプレート底面から40mmの位置に全スパンに
　わたって配筋する。

施　工

(1)　割付計画 ―― 工法・工程・割付計画をたてる

(2)　搬入・保管 搬重・仮置
　(a) 搬重は2点吊りとし、デッキプレートをワイヤーで傷つけないようにする。
　(b) デッキプレートは梁上に安全な状態で仮置きし、風などで飛ばされないように養生する。

(図−1)



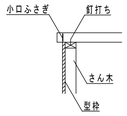
(3)　墨出し
　(a) 梁上を清掃し、所定の位置に墨出しをする。
　(b) デッキプレートの受け材の有無を確認する。

(図−2)

(4)　敷込み 仮止め
　(a) デッキ相互を嵌合させる。(図−1)
　(b) 幅方向の調整は、調整板を用いる。　(図−8)
　(c) 梁上にデッキ山部がこないようにおさめる。(図−2)
　(d) 鉄筋コンクリート造に使用する場合には、型枠材に釘止めする。　(図−3)

(5)　合成スラブ 梁との接合（鉄骨造）
　(a) 頭付きスタッド（デッキプレートと梁とは、アークスポット溶接などで接合する。）
　(b) 焼抜き栓溶接（図−4）（図−5）（表−1）
　● 焼抜き栓溶接（SPW-溶接による工法）
　溶接電流値の確認：検査計または溶接棒の消耗長さでチェックする。
　未使用の低水素系被覆アーク溶接棒4mmφを用いて、アーク長さを約3mmに保持しながら、10秒間溶接したときの溶接棒の消耗長さが45～53mmであることを確認する。
　●自動焼抜き栓溶接（APW-半自動溶接による従来工法）
　(c) 発射打込みびょう（発射打込みびょうの施工要領書による）

(図−3)



(6)　小口ふさぎ コンクリート止め ―― 小口ふさぎはデッキプレートの谷（溝）を塞がない独立したものを使用する。　(図-6)
　または、エンドクローズ製品を用いる。

(7)　インサート工事 配管・配線

(8)　開口部補強 ―― 開口部のまわりは必ず鉄筋などで補強する。

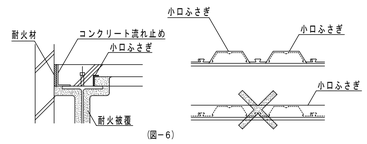
(9)　配筋
　(a) 規定のサイズのひび割れ拡大防止筋を梁上を含む床全面に配筋する。
　(b) コンクリートかぶり厚さを確保するスペーサを1m以内に配置する。
　(c) 溶接金網の継手は1メッシュ+50mm以上重ねる。(図−7)
　(d) 耐火補強筋が必要な仕様の場合は、耐火補強筋（D13以上）を各谷部中央に1本づつ、デッキプレート底面から40mmの位置に配筋する。
　(e) FP120FL-9136、FP060FL-9138仕様において、大梁がRC造またはSRC造で小梁が鉄骨造の場合には、端部補強筋（D13以上、長さ1000以上）を大梁との接合部に配筋する。

コンクリート打設前に、本標準仕様通りであることを確認する。　（チェックシートの活用など）

(10)　検査

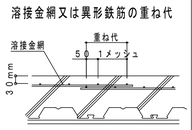
(11)　コンクリート打　設
　(a) コンクリート打設前にデッキプレート面を充分に清掃する。
　(b) 設計コンクリート厚さを確保する。
　(c) 単位水量の少ないスランプの小さいコンクリートを入念に打設する。

(12)　養生
　(a) コンクリートの初期の乾燥収縮を防ぐため、湿潤養生をする。
　(b) コンクリートの強度がでるまでは床面に重量物を置いたり振動を与えたりしない。

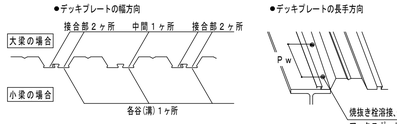


(図−6)

溶接金網又は異形鉄筋の重ね代



(図−7)

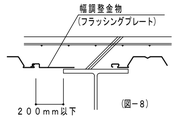


焼抜き栓溶接、発射打込みびょうまたはアークスポット溶接（頭付きスタッドの場合）
Pw：特記なき限り600mmとする

(図−4)

(表−1)

項目		溶接方法	焼抜き栓溶接（SPW）
溶接工資格			JIS Z 3801　基本給以上 JIS Z 3841　基本給以上
材料及び設備	溶接棒及び溶接材料		低水素系溶接棒φ4mm
	溶接機		交流アーク溶接機AW250A以上 エンジン溶接機230A以上
	電源容量		溶接機1台につき18KVA以上
標準溶接条件	デッキ板厚（mm）		1．2～1．6
	梁フランジ板厚（mm）		6以上
	溶接電流（A）		190～230A(標準210A)
	溶接電圧（V）		――
	溶接時間（秒）		8秒程度(標準210A)
	余盛り径（mm）		18mm以上

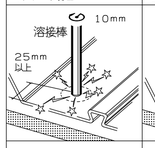
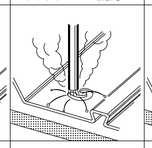
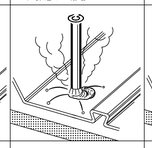
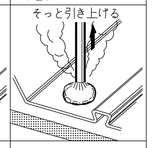


(図−8)

接合1個当たりの許容せん断力（長期）N/個

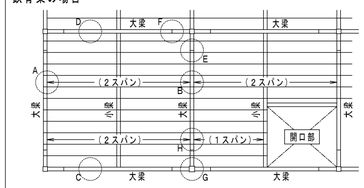
デッキ板厚	1．2	1．6
SPW	4900	7350
APW	4900	6860
打込み鋲	3300	4300

(図−5)

1．アーク発生	2．デッキプレート焼抜き	3．押込み・溶着	4．整形
			
デッキプレートを梁になじませ（すき間：2mm以下）溶接棒を垂直にしてアークを発生させる。	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、焼10mm弱で"の"の字を描いてデッキプレートを焼抜く。	溶接棒を梁上まで押込み、デッキプレート焼抜きの内側をなぞるように円中央へ2～3回転しながら運棒する。	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認する。

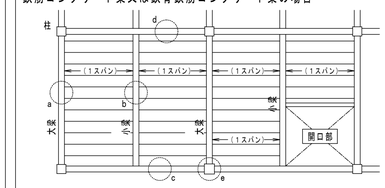
標　準　納　まり

鉄骨梁の場合



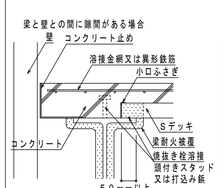
A：外周梁（デッキプレート長手方向）
B：内部梁（デッキプレート長手方向）
C：外周梁（デッキプレート幅方向）
D：内部梁（デッキプレート幅方向）
E：梁継手（デッキプレート長手方向）
F：梁継手（デッキプレート幅方向）
G：柱めぐり
H：連続指示と単純支持

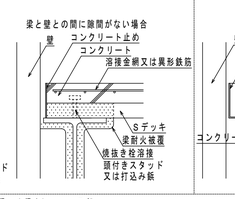
鉄筋コンクリート梁又は鉄骨鉄筋コンクリート梁の場合



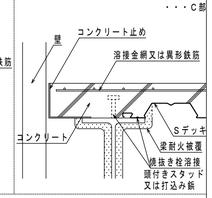
a：外周梁（デッキプレート長手方向）
b：内部梁（デッキプレート長手方向）
c：外周梁（デッキプレート幅方向）
d：内部梁（デッキプレート幅方向）
e：柱廻り

デッキプレート長手方向の納まり（建物外廻り）・・・A部

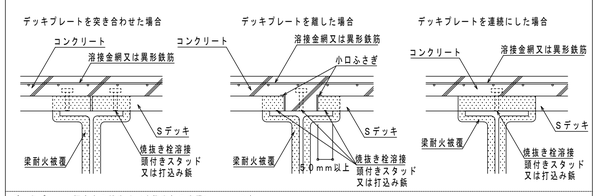




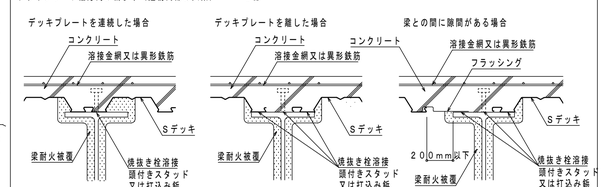
デッキプレート幅方向の納まり（建物外廻り）・・・C部



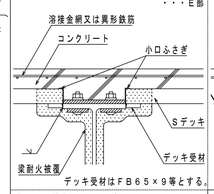
デッキプレート長手方向の納まり（建物内部の大梁、小梁上）・・・B部



デッキプレート幅方向の納まり（建物内部の大梁）・・・D部

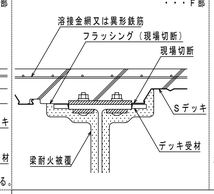


梁継手部の納まり（デッキプレート長手方向）・・・E部

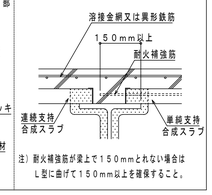


デッキ受材はFB65×9等とする。

梁継手部の納まり（デッキプレート幅方向）・・・F部

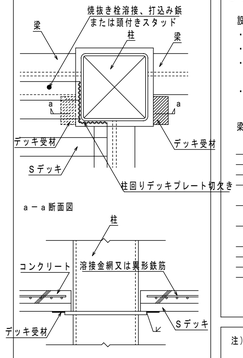


連続支持と単純支持取合部の納まり・・・H部



注）耐火補強筋が梁上で150mmとれない場合はL型に曲げて150mm以上を確保すること。

柱周りの納まり・・・G部

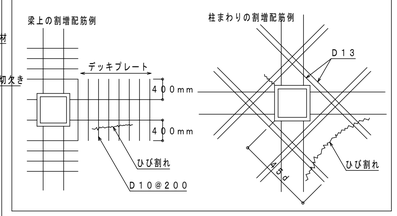


デッキ受材はFB65×9等とする。

ひび割れ拡大防止のための設計、施工上の留意点（参考）

設計上の留意点
・小梁の剛性を大きくする。
・ひび割れ拡大防止のための補強筋を設ける
・スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
・デッキプレートは各溝で梁に接合する。

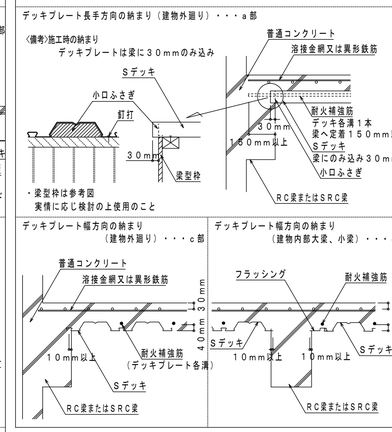
施工上の留意点
・水セメント比の小さいコンクリートを用いる。
・溶接金網等の位置を確保する。
・コンクリート打込み後初期には湿潤養生を行い、充分な養生期間を設ける



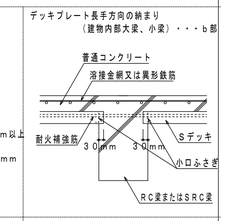
注）エンドクローズ加工を施したデッキプレートを使用する場合の長手方向のかかり代はデッキプレート谷部で50mm（RC造の場合は30mm）以上確保すること。

注）接合に頭付スタッドを用いる場合、特記がなければ焼抜き栓溶接は不要

デッキプレート長手方向の納まり（建物外廻り）・・・a部



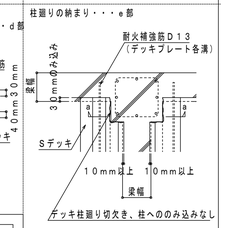
デッキプレート長手方向の納まり（建物内部大梁、小梁）・・・b部



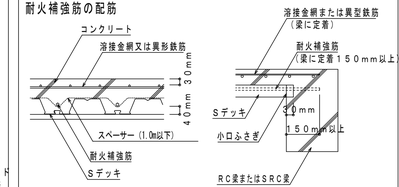
デッキプレート幅方向の納まり（建物外廻り）・・・c部

デッキプレート幅方向の納まり（建物内部大梁、小梁）・・・d部

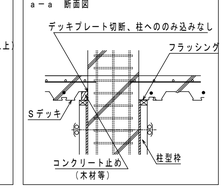
柱廻りの納まり・・・e部



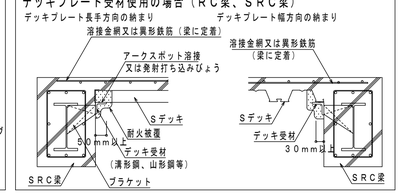
耐火補強筋の配筋



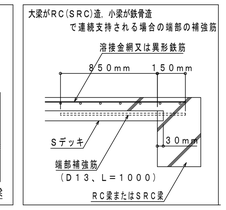
a－a　断面図



デッキプレート受材使用の場合（RC梁、SRC梁）

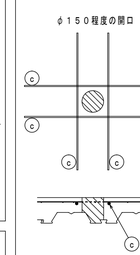


大梁がRC(SRC)造、小梁が鉄骨造で連続支持される場合の端部の補強筋



開口補強（例）

・本補強（例）は開口部を箱抜きし、コンクリート硬化後にデッキプレートを切断する場合に適用する。
・コンクリート打設前にデッキプレートに開口を設ける場合は、
　補強梁を設けるか、支保工などを設置して施工上の安全を図ること。
・開口幅が600を超える場合は、小梁等を設け、開口補強筋　ⓒを配筋する。

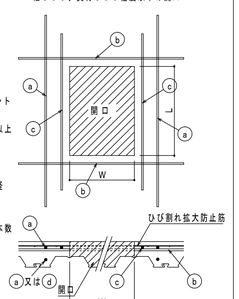


ⓐ耐力補強筋　略算式：$at = \frac{M}{ft \cdot j}$
M：開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント
at：耐力補強筋の径
D13（または2－D10）以上（開口補強筋と兼用）
ⓑ配力筋
ⓒ開口補強筋　D10以上
ⓓ耐火補強筋を切断した場合の補強筋
atまたはadの大きい方の径
$ad = 1.27 \times (1 + \frac{n}{2})$
n：切断された耐火補強筋の本数

n	1	2	3
ad	D16	D19	D22

共通事項　定着長さ：開口部端部より40d以上
かぶり：コンクリート露出面から30mm以上

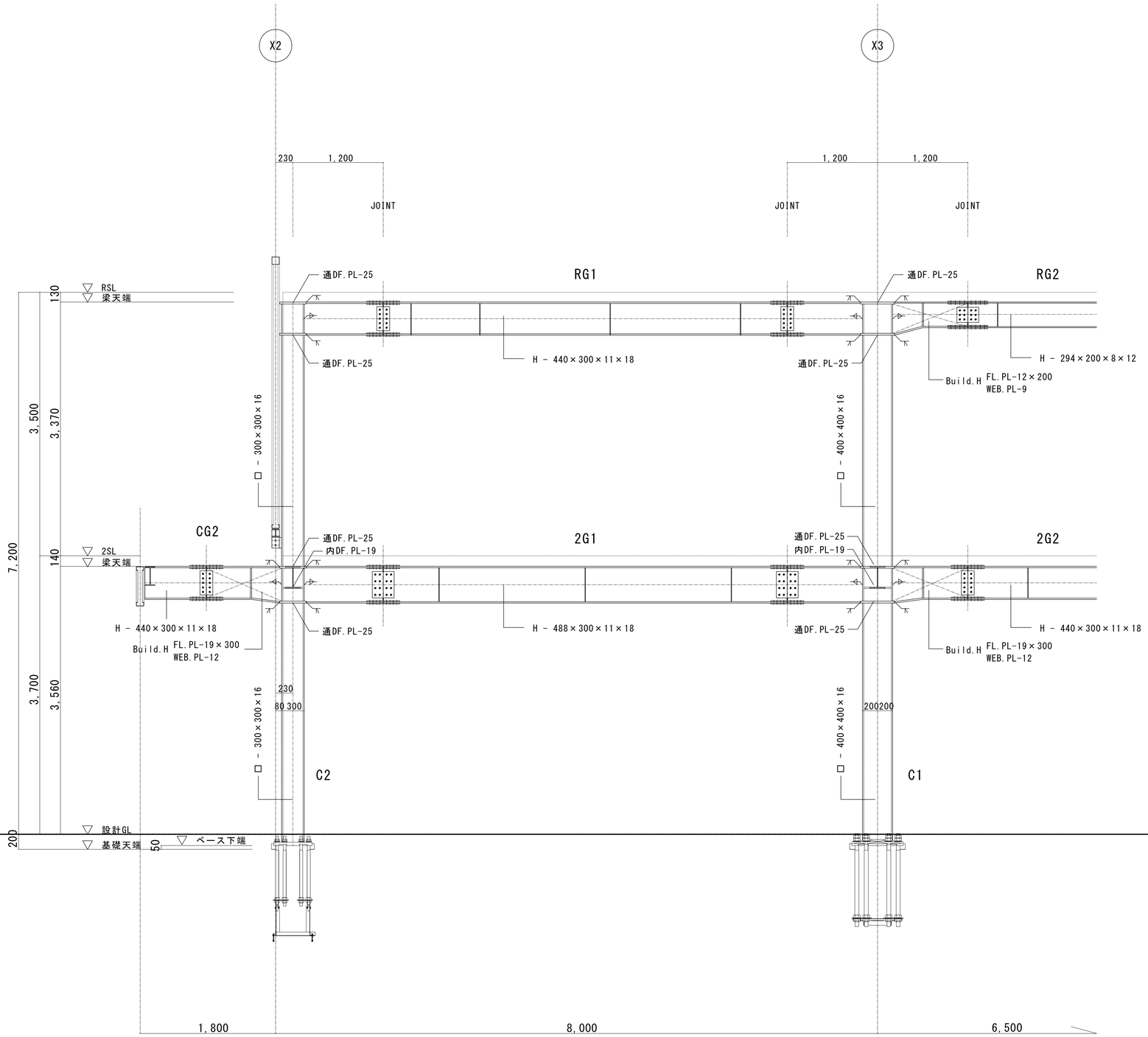
幅600、奥行900程度以下の開口



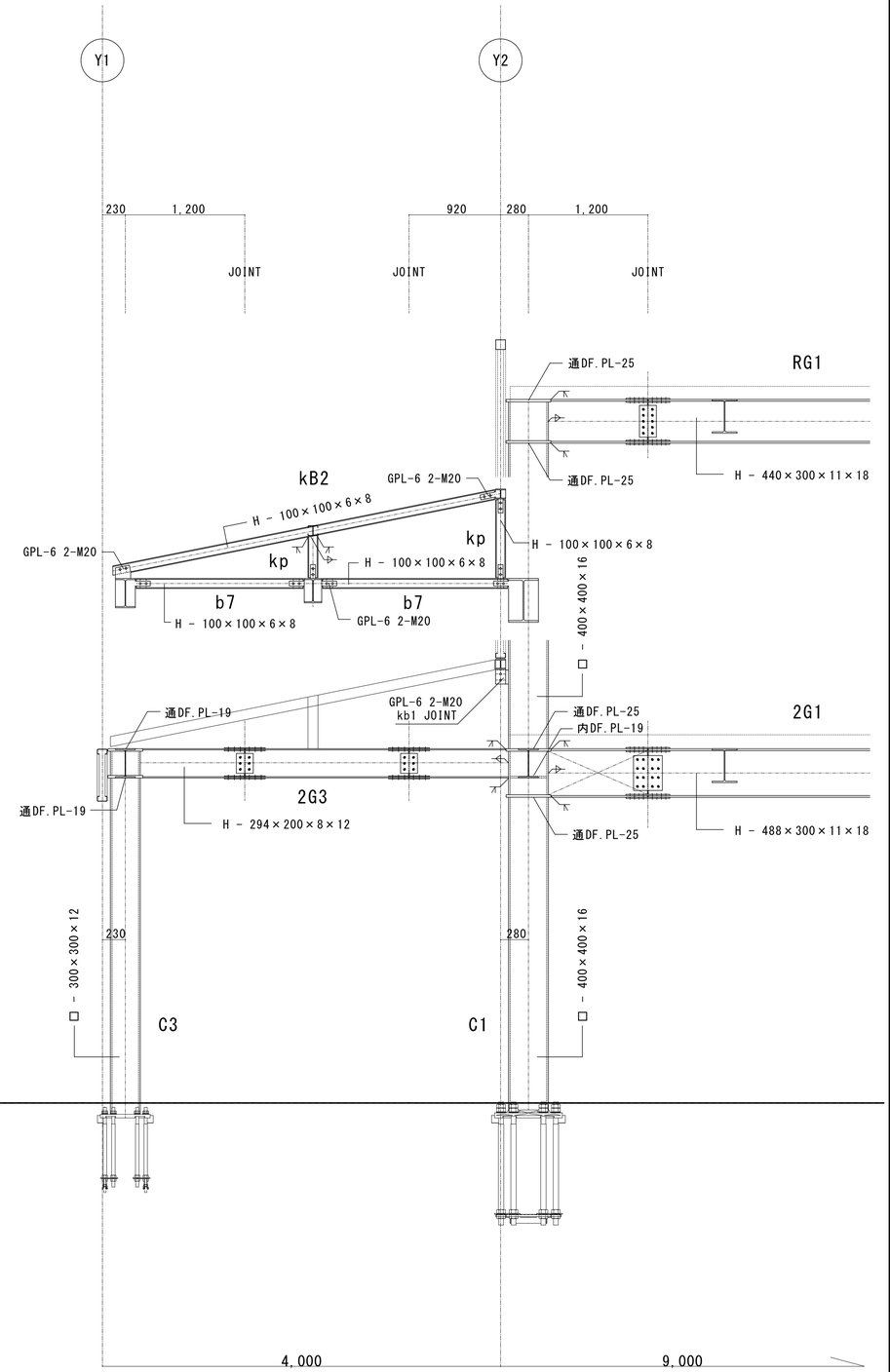
注）フォークリフトなどが走行し繰り返し荷重が作用する床や、倉庫・工場のように大荷重が作用する床は別途検討が必要です。

改訂：令和2年8月、JMM

特記事項	承認	設計	担当	縮尺	工事名称	図面名称	No.
				A1→1/- A3→1/-	遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター）	合成スラブ設計・施工標準仕様書(参考)	S-16
	山梨建築設計監理事業協同組合			設計年月日 2022.00.00			



Y2通　鉄骨詳細図　S=1/30



X3通　鉄骨詳細図　S=1/30

特記事項	山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/30 A3→1/60 設計年月日 2022.00.00	工事名称　遊亀公園附属動物園整備工事（北―仮称ビジターセンター） 図面名称　鉄骨詳細図	No. S-17